

# 会報

昭和55年6月5日発行

## 会長挨拶

富山大学にこのたび、理学部を中心として、新しく富山大学トリチウム科学センターが設置されたことは、母校の一層の発展であり、大変喜ばしいことでもあります。

理学部が研究・教育面において、益々整備拡充されていくことを、同窓会としても大いに期待しております。

さて、富山大学は発足して昭和53年5月に満30年を迎えたはずでした。大学全体としては何万人という多数の卒業生がいるにもかかわらず、30周年記念行事が行われなかったことは、まことに惜しいことだと思います。

8年後の昭和63年には、40周年記念行事が是非実現されることを願っております。

また、同窓会員のうち、県外に在住するものは、富山大学全体の同窓会の成立を切に望んでいます。更に、できれば、記念事業として、それぞれの同窓会員の基金による壮大な富大同窓会館を建設したいものです。

このことについては、もとよりそれぞれの同窓会全員の理解と協力及び各同窓会の連帯もまた必要なことと考えられます。そして、そのような時期が到来すれば、私達は理学部同窓会に課せられた任務を果たすべく大いに努力したいものと存じております。

以上、大きな期待と希望を述べましてご挨拶といたしますが、理学部同窓会会員各位のご健勝とご発展を心からお祈りいたします。

昭和55年5月

富山大学理学部同窓会長

平 田 卓 郎

## 富山大学理学部同窓会発足について

新緑の季節となりました。会員各位にはお変わりなくご健勝のことと存じお慶び申し上げます。

ところで、昭和58年1月の「会報」でお知らせしましたように、本年3月31日文理(人文・理)学部同窓会は改組されまして、4月1日から人文学部同窓会と理学部同窓会が発足しました。

また、発足にかかわる諸手続きも完了していますし、所持金(繰越金)の分配も総会が定めた方式に基づき終了しました。

更に重ねて申し上げますと、旧文理(人文・理)学部同窓会員はそのまま新しい二つの同窓会のいずれかの会員となり、また来春3月からの人文学部、理学部の卒業生もそれぞれの同窓会の通常会員となります。

以上により、事務局も一つの安心感と新しい使命のようなものを感じておりますが、併せて同窓会を発足させ、育み、発展させてきました精神も継承され得たであろうことを喜んでおります。

ただ願いますと、二つの同窓会の発足は、昭和28年4月ですから、歴史のあさい同窓会ということになるでしょう。それだけに、会員相互のつながりも今後期待するところが大きいかとみられます。しかし、人文学部、理学部のこれからのより一層の発展とともに、二つの同窓会もまた年々会員数を増やしながら、限りなく発展してゆくことになろうかと存じております。

会員各位のご健康をお祈りしますとともに理学部同窓会発展のために旧来以上のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、別に理学部同窓会員数と本会の所持金及び理学部同窓会会則、同役員氏名等も掲載いたしましたからご覧下さい。

昭和55年6月

富山大学理学部同窓会

## 理学部同窓会の現況

通常会員数 1,741名  
 準会員数(在学生)  
     理 学 部 703名  
     文理学部理学科 58  
     大学院理学研究科 5 } 766名  
     (本学理学科以外の出身者)

本会所持金  
 文理(人文・理)学部同窓会の分配金 1,010,538円  
 (文学科卒業者と理学科卒業者の会員数比率により分配)  
 昭和55年4月新入生入会金 870,000円  
 合 計 1,880,538円

### ◇理学部紹介

理学部学科目及び教官組織

学科	学 科 目	教 官 組 織					学科	学 科 目	教 官 組 織				
		教授	助教授	講師	助手	計			教授	助教授	講師	助手	計
数 学 科	△代数学及び幾何学	1	1		1	3	化 学 科	△物理化学	1	1		1	3
	△解析学	1	1		1	3		△構造化学	1	1		1	3
	△数理統計学	1	1			2		△分析化学	1	1			2
	△応用解析学及び 電子計算機論	1	1		1	3		△有機化学	1	1		1	3
	計	4	4		3	11		△天然物化学	1	1		1	3
物 理 学 科	△固体物理学	1	1		1	3	計	5	5		4	14	
	△量子物理学	1	1		1	3	生 物 学 科	△形態学	1	1		1	3
	△結晶物理学	1	1		1	3		△生理学	1	1		1	3
	△電波物理学	1	1		1	3		△細胞生物学	1	1		1	3
	△レーザー物理学	1				1		△環境生物学	1	1		1	3
計	5	4		4	13	計	4	4		4	12		

学科	学 科 目	教 官 組 織				
		教授	助教授	講師	助手	計
地球 科学 科	地 殻 構 造 学	1	1		1	3
	地 殻 進 化 学	1	1		1	3
	陸 水 学	1	1		1	3
	雪 氷 学	1	1			2
	計	4	4		3	11

(注) 学科目の△印は大学院修士講座を示す。

富山大学理学部  
同窓会役員氏名

名誉会長 竹内豊三郎(富山大学理学部長)  
 会長 平田卓郎(1化)  
 副会長 石川克(1数)  
 高桑昇(2生)  
 常任理事 金坂績(12化)  
 常川省三(12物)  
 林有一(13物)  
 水野透(17数)  
 監査委員 関場鉄也(5化)  
 近堂和郎(7物)  
 理事 女川正己(1物)  
 永崎晋(1生)  
 堀江良郎(2物)  
 可西久文(3生)  
 南部睦(4化)  
 柳瀬敏三(4化)  
 高倉守行(6数)  
 穴場敏雄(6物)  
 吉川和男(7物)  
 手塚昌郷(7化)  
 吉田嘉文(9生)  
 葛晋治(10数)  
 佐藤治幸(11化)  
 官谷大作(11化)  
 北野孝一(12数)  
 尾島十郎(12化)  
 寺田龍郎(12生)  
 森克徳(13物)  
 高安紀(13化)  
 川田邦夫(14物)  
 東軒克夫(14化)  
 白石正行(15生)

理事 宮元徳子(16数)  
 小川ミツ子(16物)  
 立野憲子(17数)  
 岡本欣司(17化)  
 今泉弘之(18化)  
 五十嵐昇(19数)  
 小松美英子(19生)  
 平内良子(19生)  
 富沢彰(20生)  
 辻直史(22数)  
 谷内一(23物)  
 池田栄雄(24数)

〇〇〇〇 富山大学理学部同窓会会則 〇〇〇〇

- 第1条 本会は、富山大学理学部同窓会と称する。  
 第2条 本会は、会員相互の親睦を篤くし、併せて富山大学理学部との、連絡を密にし、その発展に寄与することを目的とする。  
 第3条 本会は、前条の目的を達するため次の事業を行う。  
 1. 会員名簿の発行  
 2. その他本会の目的に適合する事業  
 第4条 本会は、次の会員をもって組織する。  
 1. 通常会員 富山大学文理学部理学科卒業者、理学専攻科修了者、理学部卒業者及び大学院理学研究科修了者  
 2. 準会員 富山大学理学部及び大学院理学研究科に在学する者(ただし、理学部卒業者を除く)  
 3. 特別会員 富山大学理学部教官及び文理学部旧教官で理事会が推薦した者  
 なお、富山大学理学部及び文理学部縁故者で特に理事会が推薦した者を特別会員とすることができる。  
 第5条 本会は、本部を富山大学理学部内に置く。  
 第6条 本会は、会員の多数存在する場所に支部を置くことができる。  
 2. 前項の支部を設置しようとするときは、その責任者を定めて支部規定、支部会員、支部役員等の名簿とともに、本部に報告するものとする。  
 第7条 本会に、次の役員を置く。  
 1. 名誉会長 1名

2. 会 長 1 名
3. 副 会 長 2 名
4. 常 任 理 事 4 名
5. 理 事 若 干 名
6. 監 査 役 員 2 名

第 8 条 会長は、本会を代表する。

2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはこれに代わる。
3. 常任理事は、本会の総務を処理する。
4. 理事は、理事会に出席し会務を審議する。
5. 監査委員は、会計を監査する。

第 9 条 会長及び副会長は、理事会において通常会員中より推薦する。

2. 常任理事は、理事会において互選する。
3. 理事及び監査委員は、総会において会員中より選出する。

第 10 条 会長、副会長、常任理事、理事及び監査委員の任期は 2 年とし再任を妨げない。

第 11 条 本会に名誉会長を置き、富山大学理学部長がこれに当たる。名誉会長は、本会の運営等に協力し、会長の諮問に応ずる。

第 12 条 総会は、毎年 1 回以上開催する。

第 13 条 通常会員は、氏名、現住所、職業及び勤務先等に異動があった場合は、その都度本部に通知するものとする。

第 14 条 会費は、入会金として 5,000 円を、入学時に納入するものとする。

ただし、準会員のうち退学により入会金の返却を申し出た者については、入会金を返却するものとする。

第 15 条 本会の事業及び会計の年度は、毎年 4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終る。

第 16 条 本会の収支決算は、総会において報告するものとする。

第 17 条 本会の事務を処理するため事務員を置き、会長がこれを委嘱する。

第 18 条 本会の会則を変更しようとするときは、理事会の議を経て総会において決定するものとする。

#### 附 則

この会則は、昭和 55 年 4 月 1 日から施行する。

## 「 会 員 名 簿 」 の 刊 行 に つ い て

かねてご案内のとおり、理学部同窓会の発足に伴い、本年は「会員名簿」の最新版を刊行すべく、既に会員各位のお手許には「現況通知票」を差し上げ、現住所・勤務先等についてご返報をいただいておりますが、会員中には現住所が変り転居先不明で回送される郵便も相当多数に及びます。

つきましては、できるだけ正確で充実した「会員名簿」を作成するためには、何よりも会員各位のご協力が必要でありますので、今後現住所・勤務先等を変更された場合には、必ず本会宛にご通知下さるようお願い致します。

なお、「現況通知票」を未だ発送されていない方は至急ご返報下さるようお願い申し上げます。

# 会報

第2号

昭和57年2月5日発行

## あいさつ

会長 平田 卓郎

理学部同窓会のみなさま、ますます御健勝で、それぞれの分野に、御活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、このたび、会報2号を、みなさまのお手もとにお送りできることは、ともに嬉しいかぎりであります。

母校の各学科も研究成果が上がり、活気に満ちて、さらに、本年度4月に我国初のトリチウム科学センターが開所できたという知らせも、将来の楽しい夢の一つであります。

これは未来のエネルギーについて、基礎ともなりうる研究施設であると聞いております。これらを契機として、いよいよ伸展できるよう祈念したいと思います。

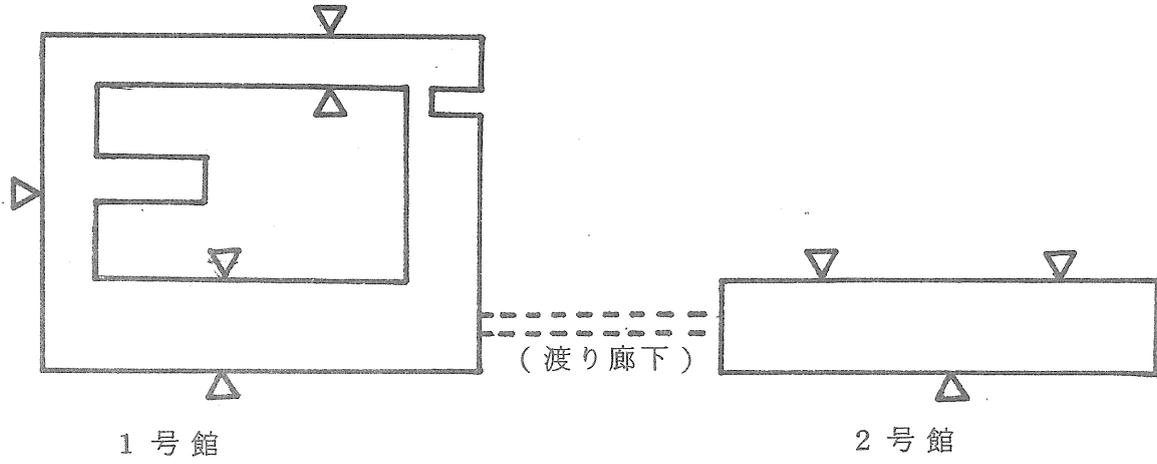
第1回の私達が理学科を卒業したのは、昭和28年で、ちょうど、29年前の3月でした。その時は、蓮町の校舎で、卒業生は27人でしたが、卒業式の日には理学部同窓会をはじめて結成したわけであります。それから29年後の本年3月の卒業生は、大学院修士課程を含めて、200人をこえるようになりましたことも大いなる喜びであります。

今、私は、県で高等教育機関に関係する仕事にたずさわっており、県内の大学等の整備拡充についてお役に立ちたいと願っております。

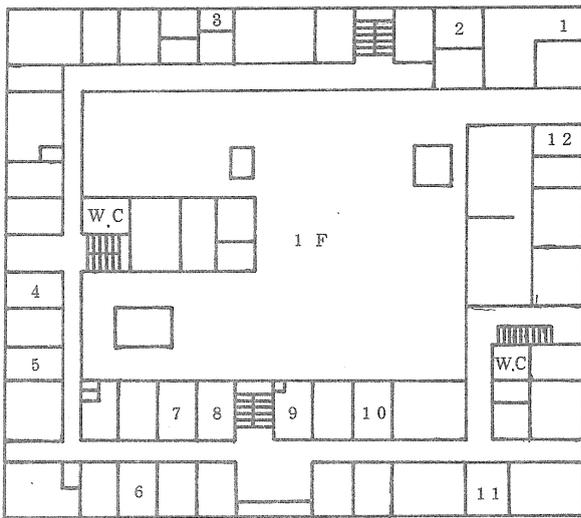
おわりに、同窓会各位の御多幸と御発展をお祈りしてあいさつにかえさせていただきます。

# 理学部研究室案内

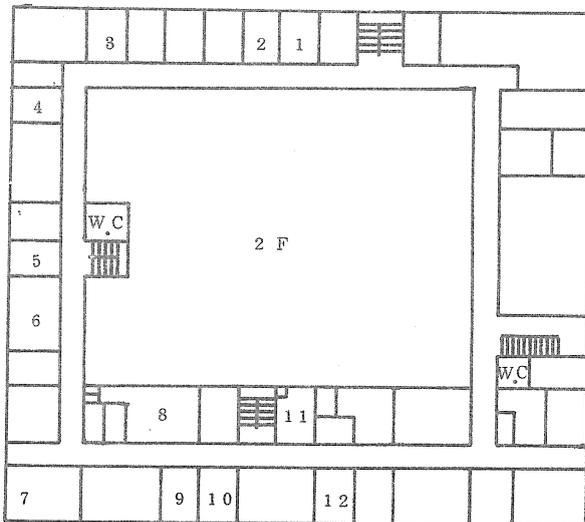
56年度理学部改装にともない、研究室等が下記のように変更しましたので御案内致します。



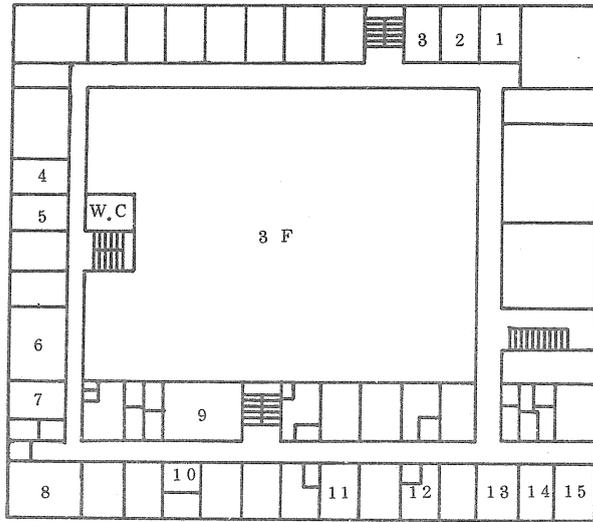
1号館



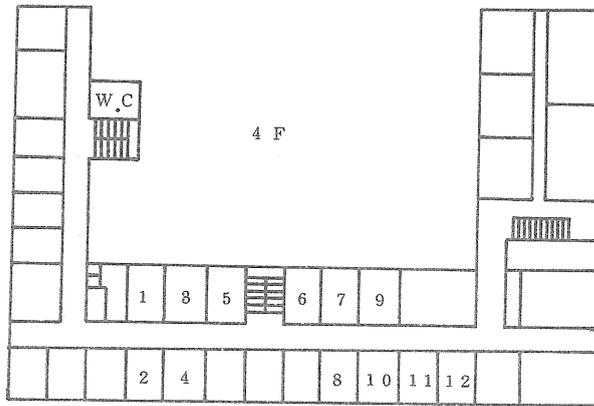
- |          |           |
|----------|-----------|
| 1. 金森 寛  | 7. 斎藤 好民  |
| 2. 川井 清保 | 8. 近堂 和郎  |
| 3. 金坂 績  | 9. 中島 邦明  |
| 4. 岡部 俊夫 | 10. 児島 毅  |
| 5. 杉田 吉充 | 11. 常川 省三 |
| 6. 吉田 喜孝 | 12. 高木光司郎 |
| 6. 水島 俊雄 |           |



- |          |           |
|----------|-----------|
| 1. 波多 宣子 | 7. 南部 睦   |
| 2. 後藤 克巳 | 8. 山口 晴司  |
| 3. 田口 茂  | 9. 尾島 十郎  |
| 4. 安田 裕介 | 10. 横山 泰  |
| 5. 竹内豊三郎 | 11. 川瀬 義之 |
| 6. 高安 紀  | 12. 東軒 克夫 |

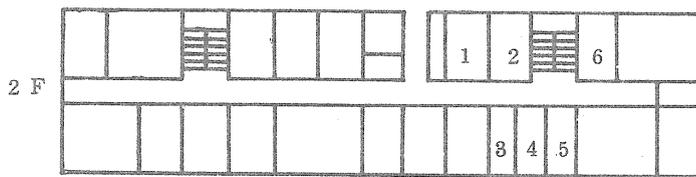


- |           |            |
|-----------|------------|
| 1. 松本 賢一  | 9. 菅井 道三   |
| 2. 平山 実   | 10. 野口 宗憲  |
| 3. 浜本 伸治  | 11. 道端 齋   |
| 4. 増田 恭次郎 | 12. 中村 省吾  |
| 5. 鳴橋 直弘  | 13. 笹山 雄一  |
| 6. 小林 貞作  | 14. 小黒 千足  |
| 7. 久保 和美  | 15. 小松 美英子 |
| 8. 井上 弘   |            |

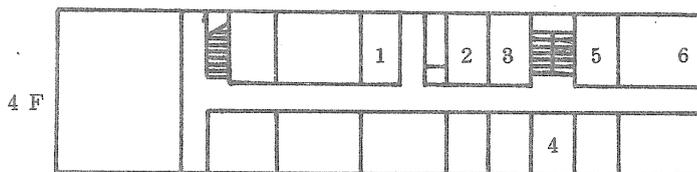


- |          |           |
|----------|-----------|
| 1. 東川 和夫 | 7. 北野 孝一  |
| 2. 林 有一  | 8. 関口 健   |
| 3. 風巻 紀彦 | 9. 田中 尊一郎 |
| 4. 渡辺 義之 | 10. 菅谷 孝  |
| 5. 中村 良郎 | 11. 久保 文夫 |
| 6. 鈴木 正昭 | 12. 水野 透  |

2 号館



- |          |          |
|----------|----------|
| 1. 川田 邦夫 | 4. 佐竹 洋  |
| 2. 対馬 勝年 | 5. 日下部 実 |
| 3. 水谷 義彦 | 6. 中川 正之 |



- |          |          |
|----------|----------|
| 1. 酒井 英男 | 4. 竹内 章  |
| 2. 小畑 正明 | 5. 川崎 一朗 |
| 3. 堀越 叡  | 6. 広岡 公夫 |

理学部同窓会の現況

○通常会員数 1,907名  
 文理学部理学科卒業生 1,770名  
 理学部卒業生 130名  
 理学専攻科修了者 2名  
 大学院理学研究科修了者 5名  
 (学部外出身者のみ)

○準会員数(在学生) 758名  
 理学部 734名  
 理学科 19名  
 大学院 5名  
 (学部外出身者のみ)

富山大学理学部同窓会

昭和57-58年度役員氏名

次期役員氏名

名誉会長 竹内豊三郎(富山大学理学部長)  
 会長 平田卓郎(1化)  
 副会長 石川克(1数)  
 高桑昇(2生)  
 常任理事 葛晋治(10数)  
 寺田籠郎(12生)  
 高安紀(13化)  
 川田邦夫(14物)  
 高井正三(21物)  
 監査委員 関場鉄也(5化)  
 近堂和郎(7物)  
 理事 女川正巳(1数)  
 永崎晋(1生)  
 堀江良郎(2物)  
 可西久文(3生)  
 南部睦(4化)  
 柳瀬敏三(4化)  
 高倉守行(6数)  
 穴場敏雄(6物)  
 吉川和雄(7物)  
 手塚昌郷(7化)  
 吉田嘉文(9生)  
 佐藤治作(11化)  
 官谷大作(11化)  
 北野孝一(12数)  
 尾島十郎(12化)  
 金坂績(12化)  
 常川省三(12物)  
 林有一(13物)  
 森克徳(13物)

理事 東軒克夫(14化)  
 森田弘之(13化)  
 官本徳子(16数)  
 水野透(17数)  
 清水建次(18物)  
 五十嵐昇(19数)  
 小松美英子(19生)  
 平内良子(19生)  
 松山政夫(20化)  
 辻直史(22数)  
 水島俊雄(22物)  
 池田栄雄(24数)  
 二官努(27数)  
 山田淳夫(29地)

富山大学理学部同窓会会則の一部変更

(会則第7条の変更)

(現行)

(改正案)

第7条 本会は、次の役員を置く。

1. 名誉会長 1名
2. 会長 1名
3. 副会長 2名
4. 常任理事 4名
5. 監査委員 2名

.....

4. 常任理事 5名

.....

# 会報

第 3 号

昭和 5 8 年 2 月 5 日 発行



理学部校舎(1983年1月 左が1号館, 右2号館)

あ い さ つ

会長 平田 卓郎

今からちょうど30年前の昭和28年3月に、第1回の富山大学卒業式が蓮町の地で、挙行されました。当日、先生方、職員の皆さんの心からの祝福をうけながら、理学科同窓会が結成されたことを想い浮かべております。卒業人数は、全ての専攻を合わせて、27人でありました。30年後の今としては、大へん少なかったわけではありますが、卒業生も年毎に増えていき、同窓会も発展し会員の皆さんも、ますます、御健勝で御活躍のことと大慶の至りに存じます。ここに、富山県の置県百年記念の年に当たり、県は100歳、我が同窓会は30歳の壮年と相成ったわけでございます。第1回卒業生の諸兄も、はや51歳をこえております。

そこで、この記念すべき年に、本年の同窓会総会は、同窓会発足30周年記念にふさわしい行事にしたらよいと、昨年夏の理事会、秋の総会で決議されておりました、母校理学部の隆昌を祈りながら、恩師の多数の御参席も得て、同窓会会員の皆さんの親交を深めたいと計画しているところであります。

同年配の同級会が、横糸の連帯であるならば、縦の年代を連ねた同窓会は縦糸の連帯であり、これらが織りなして、立派な布地や織物ができ上がるように、それぞれのすばらしい機能が新しく生まれ、伸展していくものと考えられます。

多事多難の昨今、お忙しい中にも、これらの事情を御賢察ください、よろしく御協力をお願いして、30周年記念総会を有意義なものにいたしたいと存じます。

おわりに、同窓会各位の御多幸と御発展をお祈り申し上げます。

## ひとつの提案

名誉会長 竹内 豊三郎

同窓会は砂漠の中のオアシスの役割をしているように思われる。職場は必しも砂漠のようにひからびた世界とはかぎらないが、夢中になって歩いている場所としては似かよっている。より遠く砂漠を歩いて目的地に着くためには途中で幾度か休息が必要である。オアシスは明日また歩くための憩いの場所である。憩いだから甕に水を汲み入れ、荷を積み直し、旅人同志が力づけあいながら語って、位置を確かめ、方向を定める、広い意味の家庭でもある。このような役割を同窓会は果そうとする。

そのための事業のひとつに名簿を正確にしておくことがある。同窓会の委員は多忙の中で大きな努力を払って同窓会の皆さんへこれをとどけている。

しかし、名簿だけではお互の息が通じ合わない。上下の人は互に氏名を活字でしか知ることが出来ないからである。氏名の活字は単語であって言葉ではない。そんな意味で言葉の部分が必要である。その部分が付け加えられてもうひとつの重要な役割を同窓会が果たすことになろう。昔と現在とを語りながら、将来に続く憩とはげましの広場もあるような会報も出来るようにさらに発展することを期待して、私は次の名誉会長におゆづりしたい。

## 最近気になること

～竹内先生、にが笑い～

中川 達 (第1回卒 現・上市高校教諭)

### 一 石神井での話

石神井と書いて、シャクジイと呼ぶ。中々読めない地名である。四十年前になるが、当時、東京に住んでいた私は、ローム層で特徴のある武蔵野の一角、大根畑の中、新装成った石神井中学に入り、毎日、美しい富士山を見て、学園生活を送っていた。しかし、時は太平洋戦争中 婦女子の強制疎開に会い、縁あって北陸の富山へということになる。

以来四十年、運命というか、今、東京にいる娘が何と石神井に住んでいる。先日、娘のところへ行った折、フト「わが学舎はどうなっているか」と思い訪ねてみると、日曜日だったからか、校門がしっかりと閉じてい、学校の周りには高いコンクリートの塀があり、中へ入れない。かつて塀は小さな竹でできた垣根、どこからでも中へ入れたもの。農家の人が、田圃へ行くのに、運動場を通過していたくらい。私の訪れた曜日、時期が悪かったのかもしれないが、こうも学校をその地域から離していいものだろうか。最近では日曜日に生徒が忘れ物に気づき、とりに行こうとしても、学校が閉っていて中へ入れないことが多い。これが正常の形だろうか。

### 二 極楽坂での話

スキーで知られている原(極楽坂として有名)へ、数年前、遠足に行った。立山線の終点、立山駅から栗巣野台地への一気の登り。体の大きいわりに、今の連中は歩くのに弱い。「ああ、疲れた！」と足をひきづっての歩き。小一時間で、極楽坂につく。「〇〇時まで、休憩、解散」と言ったところ、「こんな原っぱで〇〇時間も何をしたらいいのか」と、ブツブツ、モジ

モジ。今の生徒は、こうした大きな自然の懐で、思う存分、気ままな時を過ごす方法を知らない。大川寺遊園でのような、乗物、ゲームはてはコンピューターを使つての遊びはうまいが…。私は「この辺は、かつての立山登山路にあたり、一里地藏、牛石、与四兵衛山があり、水ばしりも咲いてい、余裕があればゴンドラにのり、あの高い尾根道散策なども…」と指示したものの、余り関心を示さず、その辺、唯坐つての時間まちが多かったようである。

### 三 化学の内容について

指導要領が改正され、現在、高一から実行に移されている。ところで、昔の化学は、各論がかなり重視され、色の変化、小さな爆発などの実験に生徒の化学への興味、関心が集まったものである。しかし最近では理論化学的なものに重点がおかれ、今の化学Ⅱの教科書を開くと、しょっぱなから、1S、2S、2P…とか、SP<sup>3</sup>混成軌道…が出てき、これでは「化学ざらい」を多くしているようなもの。

今、理科の中で、物理・化学・生物・地学の好き嫌らしいの調査をしてみると、嫌いな項目には、以前は物理が多かったものが、今では化学がそれにかわってきている。いつから、こうなったのだろうか。指導要領の改正の件が気になってくる。

所で先にも述べたことではあるが、今、実施に移された「理科Ⅰ」も、大変問題があるように思えるが…。

### 四 竹内先生と侍日本

竹内先生がこの三月に退官されるという。本当に「長い間、ご苦労さまでした」と頭を下げたい。

昔のことを考えてみると、蓮町の、あの廊下がきし

む、オンボロ校舎で、設備のない当時、工夫して実験器具・装置をつくり、こわし…また、毎日隣りの工場へ液体酸素をもらいに行ったり…。総じて、苦勞の連続であった。その点、今の大学の設備は段違い。先の石神井の話ではないが、今の理学部、どこから入ったらいいのか、我々は迷う程。所で、今の学生諸君の学ぶ意気、業績はいかなものであろうか。昔にくらべ、何倍も…というのなら嬉しいが。いつの世でも、学生には、ハングリーの状態でことに臨んでほしいと思っている。

ところで、かつての竹内先生の講義は、トツトツとしたもの。決して滑らかではなく、時にはしばしの沈黙、よく考えての進行ぶり。この辺に、先生の学問に

対する敬虔な態度、慎重な考え方、教え方、そして人柄がにじみ出ていたような気がする。

別れの会の時に、先生の歌われたのは何と「侍日本」  
「人を斬るのが待ならば…」。

出だしはよかったが、中程「伸びた月代」が出ず以後ウヤマヤ。最後は、それこそ歌の文句じゃないが、「新納鶴千代ならず竹内先生」に「が笑い」と相成った次第。

以来、三十年、先生の授業は滑らかに？いや元のまんま？。退官の時にうたわれる歌は滑らかに、今流行の「馬鹿いってんじゃないの」の「三年目の浮気」か？。いや、やはり「トツトツ」とした「が笑い」の方が先生には合っているような気がする。

#### ◇富山大学理学部同窓会会則の一部変更

富山大学理学部同窓会会則（昭和54年11月17日制定）の一部を次のように改定する。

（現行）

第14条 会費は、入会金として5,000円を 入学時に納入するものとする。

（改正）

第14条 会費は、入会金として8,000円を 入学時に納入するものとする。

#### ◇理学部同窓会の現況

○ 通常会員数	2,063名	○ 準会員数（在学生）	782名
文理学部理学科卒業者	1,778名	理 学 部	746名
理学部卒業者	278名	理 学 科	5名
理学専攻科修了者	2名	大 学 院	8名
大学院理学研究科修了者 （学部外出身者のみ）	5名	（学部外出身者のみ）	

#### ◇富山大学理学部同窓会昭和57-58年度役員氏名

名誉会長	竹内豊三郎（富山大学理学部長）			
会 長	平田卓郎（1化）			
副 長	石川 克（1数）	高 桑 昇（2生）		
常任理事	葛 晋 治（10数）	寺 田 龍 郎（12生）	高 安 紀（13化）	川 田 邦 夫（14物）
	高 井 正 三（21物）			
監査委員	関 場 鉄 也（5化）	近 堂 和 郎（7物）		
理 事	女 川 正 己（1数）	林 有 一（13物）	永 崎 晋（1生）	森 克 徳（13物）
	堀 江 良 郎（2物）	東 軒 克 夫（14化）	可 西 久 文（3生）	森 田 弘 之（13化）
	南 部 睦（4化）	宮 本 徳 子（16数）	柳 瀬 敏 三（4化）	水 野 透（17数）
	高 倉 守 行（6数）	清 水 建 次（18物）	穴 場 敏 雄（6物）	五十嵐 昇（19数）
	吉 川 和 雄（7物）	小 松 美 英 子（19生）	手 塚 昌 郷（7化）	平 山 良 子（19生）
	吉 田 嘉 文（9生）	松 山 政 夫（20化）	佐 藤 治 作（11化）	辻 直 史（22数）
	宮 谷 大 作（11化）	水 島 俊 雄（22物）	北 野 孝 一（12数）	池 田 栄 雄（24数）
	尾 山 十 郎（12化）	二 宮 努（27数）	金 坂 績（12化）	山 田 淳 夫（29地）
	常 川 省 三（12物）			

#### ◇事務局だより

- 昭和57年8月28日(土)午後2時から、理学部会議室にて理事会が開かれ、58年度からの会費値上げの件および理学部同窓会創立30周年記念行事の件について協議が行われました。
- 同11月13日(土)午後1時半から高志会館にて総会が開かれました。58年度から会費を8,000円に変更することおよび同窓会創立30周年記念行事を行うについての事務局原案が可決され、行事の今後の計画についても意見の交換が行われました。次いで懇親会に移り、元理学部教授、柴田万年先生をお迎えして、先生の教育および研究生活の思い出を話して戴きました。真摯な一学究の目を通して、さり気なく、しかもこの上なく暖い心で語られた戦前、戦中、戦後の時の大きな流れ世相の移り変わり、学生気質、研究者気質など深く胸をうつものがありました。

- 総会の準備には、事務局の不手際があって案内状発送前に講演者がきまらず、講演者ならびに会員の皆様方に多大の御迷惑をおかけしました。深くお詫び申し上げます。
- 創立30周年記念行事は58年度の総会を兼ねて『30周年記念総会』とすること、および記念出版物を発行すること、この二つになりました。実行の細目については計画中ですが、記念総会開催は出来るだけ多くの会員の出席し易い8月中頃を予定しています。多くの皆様方の御出席を心から願っています。また出版物についても、改めて原稿をお願いする予定ですが、多くの方々からお寄せ下さることを願っています。なお、記念行事とは別に、58年度は名簿発行の年にもあたります。その都度、会員の皆様方へは案内状、連絡等を差上げることになると思いますが、その折にはよろしく願い申し上げます。

#### — 30周年記念出版編集部からのお願い —

会員の皆様方から、学生時代の思い出の写真(特に蓮町時代)や、心に残るエピソード等を募ります。提供戴いた写真等については、出版物が出来上がり次第お返し致しますので編集部宛お送り下さいますようお願い申し上げます。送先、問合せとも下記へお願い致します。

送先 〒930 富山市五福3190  
富山大学理学部同窓会  
30周年記念出版編集部  
TEL 0764-41-1271内線(219) 永川  
291

#### 編集後記

今年と同窓会30周年記念行事が企画されております。私たちは歴史の節目にこれまでの記憶を印し、後に続く同窓生の大なる未来への飛躍台として、記録を残すことができることを光栄に思います。この機会に同窓生の皆様の印象に残る思い出・エピソード、写真等を寄稿下さいますようお願い申し上げます。今年3月、名誉会長の竹内先生には停年退官されるとのことで、ご多忙にもかかわらず、同窓生に現役最後の言葉を戴き、掲載させて頂きました。先生には長い間ほんとうにありがとうございました。

発行 富山大学理学部同窓会 〒930 富山市五福3190  
富山大学理学部内  
TEL 0764-41-1271-(219)  
291

# 会報



あ い さ つ

会長 平田 卓郎

理学部同窓会30周年記念式と祝賀会も去る8月12日に、第一ホテルにおいて、母校愛と友情に燃える会員の皆さんによって盛会裡に行うことが出来ましたことは、ひとえに皆さん方の御熱意と御協力の賜と存じ感動の至りでございます。ここに厚くお礼を申し上げます。

若い日の青春の思い出も新たに、懐かしい恩師植木・桑田・柴田・竹内・田中・藤木・川井各先生、並びに同窓会員の現職の先生方も多数御臨席をいただき、心からの祝福をうけながら、歓談のなごやかなひとときを過ごしたことも誠に意義深いことで感謝いたしております。

特に、中川理学部長から、理学部のおいたちを記録された貴重な8ミリフィルムが提供、上映され、一同は30年の歴史の回想に深い感激をおぼえました。

当日の総会においても、同窓会30年の歴史の節目にあたり、「同窓会30周年誌」を会員名簿を含めて刊行することが決議されております。費用もかさむことではありますが、会員の先輩・後輩相互の連帯と協調を深める必要からも、母校理学部の発展のためにも、今後の一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。かたんでございますが、あいさつにかえさせていただきます。

## パソコンアレルギー－脱出

寺田 龍 郎 (第12回生物卒, 現富山工専助教授)

先日の後期中間テスト中の事である。電卓持込み可の化学テストで、電卓を巧妙に使ったカンニングが発覚、2名の学生が処分を受け、我々教官も十分に注意して監督を行なうようにとの指示があった。…が、半数以上の先生方は、カンニングを考えた学生も偉い者だし、それを発見した先生もたいした者と感心するだけで、電卓・ポケコンの区別もつかず、何故電卓でカンニングが出来るのか解らない。最近では、スーパーでも、2千円も出せば立派な電卓が手に入り、ソロバン替りに、又時計にストップウォッチにと重宝しているが、その上カンニングペーパーとして使用出来るとは……。腕時計で計算機付きのものが始め、テストには持込ませぬようにとの伝達があったのは、たしか5～6年前のことである。

我々、学校を出てから20年もたった者にとっては、近年の電子産業の発展には驚くばかりである。パソコンショップや、デパートのパソコンコーナーに小・中学生が群がり、キーボードを上手に打ってプログラムを操作したりゲームをやったりしている光景を見て見ぬふりをして、避けて通っているのが我々パソコンアレルギーの中年達ではなからうか……とも言っておれない!! 自分の子供達も、マイコンショップに出入りしているようである。

パソコンは、どんな仕事がどれくらい出来るのか? 実際に使ってみなければ解らないではないかと、遅ればせながら、物珍しさも加えて、我が室にも用意した次第である。用意すると言っても、全く知識のない小生、どんな機種やどんな周辺機器を選択すればよいのか等々……。その道のベテランの同僚に、安価でという条件で、一応フルシステムで選んでもらった。何しろ、購入動機が軟弱。「パソコンは、自動車の運転と

同じで、原理構造が解らなくても、実際に操作すれば動くものであり、プログラムをどんなにメチャクチャに操作しようと、機械自体は故障することはない。」との、心強い同僚の言葉に乗せられたまでのこと。

このような次第で、先日最新モデルのパソコンが我が研究室に来たのである。何しろ、最も身近な所に設置した方が良いと思い、自分の椅子を180°回転するだけでキーボードに手が届くようにセットし、スタンバイOK!!

さて、パソコンのフルシステムと附属の3冊のマニュアルを前にしてみると、どこから手を付けて良いのやら……。しかし、今さらそんなことは言っておれない。小学生達に倣ってテレビゲームから始めることにした。「アルフォス」「倉庫番ゲーム」と、ゲームソフトが次々に学生によって持込まれ、彼等の指導よろしくゲームの腕前も上がってきた。自分でキーボードを打って、サークル、ペイント命令ではじめて描いた「日の丸」「オリンピックの五輪のマーク」。サウンド命令でパソコンの小さなスピーカーから流れ出した「聖者の行進の二重奏」、感激!! 計算はもちろんのこと、音楽・絵・仕事etc、忘れられない喜びが次々に現われてくる。たった10行くらいのプログラムでも、忠実に仕事してくれるパソコン。実際に操作してみても初めて、少しずつ理解出来てくるので、それを楽しみに、毎日10分でも20分でもと、キーを打っている。ワープロとしての機能も、無限の可能性があると思われ、目下、文献整理・試験問題のファイル等、フロッピーとワイドの24ドットのプリンターをフルに活用することを考え、夢を追っている。家にも、子供達と女房の遊び道具として、パソコンが仲間入りした今日此頃である。

## アメリカ合衆国滞在の思い出

—案ずるより産むが易し—

森 克 徳 (第13回物理卒, 現富大教養部助教授)

1981年8月26日から1983年4月26日まで、アメリカ合衆国ワシントンD.C.にあるアメリカン大学物理学教室のキャレン教授から客員研究員として招聘を受け、家族とともにアメリカ東部の生活と研究を体験しました。後を振り返り感じたことなど思い出すまま簡単に記してみたいと思います。滞在を終えた現在感じていることは、副題にある“案ずるより産むが易し”ということです。

アメリカン大学にいく一週間程前、すなわち1981年8月19日より8月25日まで第16回低温国際会議がロスアンジェルスのカリフォルニア大学(UCLA)で

開催されていました。この会議に講演することになっていましたのでアメリカン大学に行く途中1週間このUCLAに滞在しました。UCLAの総長室があると言われている立派なロイスホールの大講堂で開会式がありました。この大講堂の正面上方の大理石の壁に大きく“Education is learning to use the tools which the race has found indispensable.”と刻み込まれていたのが印象に残っています。ロスアンジェルスは年間を通して雨量が少なく、UCLAのキャンパスや街のいたるところでスプリンクラーが作動しているのが目立ちました。

アメリカン大学は富山大学の人文、理学、教育、経済を合わせたような小じんまりとした私立の大学で、キャンパスの広さも富山大学とほぼ同じ位の規模と思われまゝ。物理学教室は、7人の教授と数名の講師および秘書1名から構成されています。私を招いて下さったキャレン教授は磁性理論の大家で、私には実験を担当させ協同研究を行おうというものでした。研究テーマは“磁歪測定による希土類化合物の磁性の研究”です。幸いなことに研究が軌道に乗るのも早く、また順調に進んだので、春・秋のアメリカで開催された磁気国際会議のそれぞれに講演発表できるという幸運に恵まれました。今振り返ってみるとまさに“案ずるより産むが易し”と感じるのです。

さて、アメリカン大学物理学教室の一つの目玉は教室として週末の毎週金曜日の午後4時半頃から夜遅くまでピンポンパーティを主催していることでした。教授3～4名と美人秘書のフローレス嬢が常時参加され、それに学生（物理学専攻の学生とは限らない）が加わ

るというものです。試合はダブルスで行なわれ、初心者、ベテラン誰でも大歓迎となっていました。このパーティの目的はピンポンを通して教官と学生の交流を計るものであることがすぐ判りました。もともとピンポンの好きな私に加わりましたので一層活気のある楽しいものになったように思われます。私はたちまちにして物理学教室のチャンピオンにのし上がり、腕に自信のある学生ペアをバツバツと負かしたので注目を浴びることになりました。以来学生達から尊敬の眼差しをちょっぴり受け、また試合では学生達も発奮するので真剣さも加わり、おおいにこのパーティは沸いたものです。研究教育の合間をぬってこのようなパーティを催すことも学生達の考えや悩み事など知る上に役立っているものと思われ、私の勤務している富山大学教養部物理学教室でも実現できないものか考えているこの頃です。これも“案ずるより産むが易し”かもしれせん。

#### ◆ 理学部同窓会の現況 (昭和59年3月10日現在)

○通常会員数	1,943名	○準会員数(在学生)	803名
文理学部理学科卒業生	1,778名	理学部	750名
理学部卒業生	161名	大学院	53名
大学院理学研究科修了者 (学部外出身者のみ)	4名		

#### ◆ 昭和59—60年度富山大学理学部同窓会役員名簿

名誉会長	中川正之(理学部長)		
会長	平田卓郎(1化)		
副会長	石川克(1数)	高桑昇(2生)	
常任理事	清水建次(18物)	小松美英子(19生)	松山政夫(20化) 水島俊雄(22物)
	池田栄雄(24数)		
監査委員	関場鉄也(5化)	近堂和郎(7物)	
理事	女川正己(1数)	永崎晋(1生)	堀江良郁(2物) 可西久文(3生)
	南部睦(4化)	柳瀬敏三(4化)	高倉守行(6数) 穴場敏雄(6物)
	吉川和雄(7物)	手塚昌郷(7化)	吉田嘉文(9生) 葛晋治(10数)
	佐藤治幸(11化)	宮谷大作(11化)	北野孝一(12数) 奥井健一(12物)
	常川省三(12物)	畠山豊正(12物)	尾島十郎(12化) 金坂績(12化)
	寺田龍郎(12生)	林有一(13物)	森克徳(13物) 坂井徹(13化)
	高安紀(13化)	川田邦夫(14物)	東軒克夫(14化) 中村優子(14化)
	森田弘之(14化)	坂井純一(15物)	村井忠邦(15物) 赤壁節子(15化)
	水野透(17数)	佐野明美(17化)	篠田操(17化) 小川宏文(18生)
	五十嵐昇(19数)	上山勉(19化)	平内良子(19生) 高井正三(21物)
	田村一郎(21物)	辻直文(22数)	芦田完(26化) 二宮努(27数)
	佐伯るみ(27化)	三宅均(29化)	山田淳夫(29地)

## ◆事務局だより

- 昭和58年5月14日(土)午後2時から理学部会議室にて理事会が開かれました。理学部同窓会創立30周年記念事業について長時間の協議がなされ、特に記念祝賀会について検討が行われて方針がまとまりました。
- 6月18日(土)午後2時から理学部小会議室で第2回理事会が開かれ、祝賀会当日の運営その他について協議が行われました。
- 8月12日(金)富山第一ホテルにおいて午後2時から総会が、次いで3時から祝賀会が開催されました。総会では定例の議事に引続いて創立30周年記念誌の発行に関する審議がなされ、承認されました。3時からの祝賀会では来賓ならびに会員からの祝辞と余興の他に、蓮町時代の貴重な記録映画が披露されました。この映画は中川正之理学部長が撮影され保存されていたもので、新制大学創設間もない頃から五福に移転するまでの文理学部の学内風景や寮生活などを記録したなつかしいフィルムです。蓮町で学生時代を過ごした人にとってさぞ珍しいと思われる光景も記録されていて興味をつきないひとときでありました。このときの画面の説明役は、教育学部の藤木教授(昭和34年まで文理学部理学科で物理学を担当されていた)

が買って出て下さり本当に助かりました。実は事務局の説明担当者が、次々と写し出される珍しい光景を前にして当時の様子も分からないまま、言うべき言葉もなく困り切っているのを藤木先生に救っていただいた次第です。参加者は来賓の植木忠夫、桑田秋水、柴田萬年、竹内豊三郎、藤木興三の諸先生以下約60名で、事務局が当初目標にしていた参加者100名の線には遠く及ばなかったのは事務局の努力の足りなさとして反省しておりますが、やはり祝賀会としてはいま一つ盛り上がり欠ける感がありました。

- 記念祝賀会以後何度かにわたり、会長を委員長とする30周年記念誌編集委員会が開かれ、記念誌発行について検討が続けられました。59年に入って漸くその組立てが具体的な形にまとまり、原稿依頼その他の実際の作業にとりかかっています。記念誌の内容を別紙で紹介していますので御協力下さい。
- 昭和57-58年度役員は3月31日をもって任期終了になります。事務局の仕事をふりかえてみて、多々不十分な点が思い起こされますが、会員の皆様の御指導と御協力によりどうか一つの区切りに辿りついた感じがします。次期役員ならびに事務局に対しても、なお一層の御協力御支援をお寄せ下さいますようお願い申し上げます。

### 編集後記

理学部同窓会会報第4号をお届けします。今回は富山工専の寺田先生(12回生物)と本学教養部の森先生(13回物理)に寄稿していただきました。両先生にはご多忙の中、ご執筆下さりありがとうございます。ところで、我が常任理事の1人である地球科学科の川田邦夫氏(14回物理)が、南極観測隊第25次越冬隊員として去る11月に「しらせ号」にて出発されました。今は昭和基地-みずほ基地を経て極点を目指し、凍土観測旅行の最中とのことです。氏のご活躍とご健勝をお祈りします。氏が帰られる来年こそは是非とも寄稿をお願いしたいものです。

発行 富山大学理学部同窓会

〒930 富山市五福3190

富山大学理学部内

TEL (0764) 41-1271 内線291

# 会報

第 5 号

昭和 60 年 4 月 20 日発行



## 「雪紋」の発刊を喜ぶ

同窓会長 平田 卓郎

同窓会創立30周年記念誌として「雪紋」が発刊されましたことは、会員諸賢とともに喜びにたえません。

これも、ひとえに絶大なる御指導と御尽力を賜りました恩師先生方をはじめ、同窓会関係諸賢に対し、心からお礼を申しあげます。

この雪紋にも栖谷方無作生氏が次のように爽快によんでおられます。

「遠くにありて残雪を見る 春雷とともに去りし日々  
山をくだりて大河となるも 望郷の心やまず  
ここに残雪を集め雪紋となす」

富山大学の紋章も六角型の雪紋をかたちどられたものときいております。

立山連山には一年中雪紋が絶えることがありません。年間を通じ刻々変容していく遠くから眺めた立山連山の姿を忘れることはできません。

近くにありては、登山中の雪渓の紋様、里においても冬季には、天からの使者ともいわれる落下しつつある粉雪や牡丹雪、また、歩いている道路脇の雪の紋様。春ともなれば、あちらこちらの残雪の紋様を観るにつけて、雪紋をかくも意義深く想うようになりました。

この記念誌の中には同窓会および学部の30年、各学科のあゆみ、教室紹介、研究アラカルト、富山大学理学部を見る。そのほか随筆、コラム等多数の貴重な懐かしい文面・写真が掲載されており深く感謝いたしております。

この30周年記念の節目にあたり、母校理学部の発展と会員諸賢の皆様の御健勝をともにお祈り申しあげます。

## 理学部同窓会の皆さんへ

理学部長 中川正之

理学部同窓会は、本年は新卒者145人を新会員として迎え入れました。第1回の卒業生によって会が発足してから30年余の歴史を刻み、既に2000名を越す会員を擁する立派な同窓会に成長したことを心から祝福します。

私は昭和24年新制大学ができた年、蓮町の旧制高校を母体として作られた文理学部の先生となって以来、今日迄学校と歩みを共にしてきた者です。その上この文理学部の前身である旧制富山高校(7年制)の卒業生であるのでこれ以上の深い繋りはないでしょう。こんな訳で心中では大きな親近感と少々乍ら責任感もっている者です。然し同窓会には殆ど役に立ったことがなく過ごしてきました。

これ迄の大学の30年間で振り返ってみると始めの約10年間の蓮町時代は静かで美しい自然環境に恵まれたが、研究費や実験装置は全くなく、先づは学生実験装置の手製に苦心と工夫を重ねたが学生の向学心を満足させるものではありませんでした。この時代の卒業生は40~50才台、社会では今や実質的には最も重要な役割と責任を負う年代ですが卒業当時は想像以上に苦勞をし、その後の努力で今日迄きたものと思います。

校舎が蓮町から現在の五福に移った時は恰も我国の高度の技術革新とそれによる工業・経済の飛躍的発展が始まった時で、学生数が急増し、実験設備も急速に充実し、大学の環境は一変しました。卒業生の進路も先生中心から各種の職場へと広く進出することになりました。あの忌まわしい学園騒動、石油ショック、移転や実験室の大改装等々学内外の種々の変動があって、夫々、直接間接の影響で勉学に不満な思いを残して社会に出た者も多かったに違いありません。今や大学の内

容はあらゆる面で充実して、学生にとっても学問に情熱を傾けるに十分な場となっています。然し、物の余り揃っていなかった時代に比べて消極的で逃げ腰の学生が多いように感じています。

扨て、どのような学生時代を過ごしたにしろ卒業と同時に各地に四散して夫々異なった職に就き夫々の人生を歩むこととなります。そしてやがて師と仰ぐ人や真の友人を得る等よき人とめぐり会うこともできます。他方一旦各地に四散した同窓生は、学生時代の何の修飾・体裁もない裸でのつき合いを、そして共に思索し情熱を傾け錬磨した青春時代を共通してもっているのも、時と共に旧交を温め気楽に語りたいたいと思う内在的な要求を抱いています。つまり、苦難に満ちた現代に生きる同窓会員にとっては旧友と直接顔を合わせ、心を割って大いに語り合い、或時は安らぎを楽しむ場として、又或時は精神の高揚を覚える場としての同窓会をもちたいのです。

同窓会には、このような会をもつことと、もう一つの、より基本的で重要と思われる名簿の編集・発行があります。同窓会に出席したくともその余裕がなく出席できない場合がむしろ実際には多く、従って名簿のもつ役割は重要であります。旧友の一人一人に語りかける気持ちで名前を見、学生時代の懐かしい思い出に浸って遂々思わず長時間を過ごすことはごく自然のこと。名簿にはこのような消極的役割ばかりでなく優れた恩師、先輩を思い出してそれにあやかり、或は、自らの青春時代のひたむきな情熱を再び蘇らせて明日への新しい活力に結びつける大切な役割をもっていると思います。

同窓会は多くの同窓生にとって一つの共通した精神的拠所としての大きな役割を担っています。一層の発展を祈ります。

## 生物学教室点描

久保和美

先日、ある所用で大阪行の特急電車で久しぶりに乗ってみた。勿論、自由席である。その時、気付いた事であるが、この電車の一番うしろの車輦は禁煙車であ

った。随分と都会なみになったものだ。ぼくは愛煙家ではないが、タバコの中毒患者みたいなもので、一日に何本か吸わなければならない。そんなわけで禁煙車

は遠慮した。電車が動き出すと、新緑の世界が一面に広がって、まだ、越路に残っている自然の美しさが目に飛び込んで来た。

数日後、旅を終え、また教室へ顔を出すようになった。その時、廊下を歩いていてふと、あの禁煙車の事を思い出した。最近の教室のスタッフは、ぼくとある先生を除いて、殆どの人がタバコを吸わない。吸わないどころか、タバコのあの臭いが嫌な人もいる。ぼくは鼻がきかないから、そんな事は一向にお構いなしであるが、人によっては、その臭いがたまらなく苦痛になるらしい。学生諸君も人の子だ。タバコを吸う人もいれば、全くの未経験者もいる。その割合がどんなものかよく判らないが、去年あたりから、教室の学生諸君は、廊下の、ある特定の場所でタバコを吸うようになりだした。研究室でのタバコは御遠慮下さいという事らしい。

研究室から追い出された、タバコのみ学生諸君は、致し方なく吸いがらのある所へ自然と集まってくる。二、三人がたむろする時もあるし、一人で立ったまま、タバコを吸いながらうつろな目で、ぼんやりと空を眺めている人もいる。時には廊下に足を投げ出して、少し疲れたような顔で、けむりを吐き出している人もいる。

こんな姿を見ると、気の毒だとは思いますが、ぼくの部屋にいらっしやい、とまでは云えない。仕事の邪魔になるからである。

こんな状態がいつまで続くのか、考えてみると結構面白い。ぼくが定年になったら、タバコのみが少なくとも一人減って、教室のスタッフは全員、禁煙家ばかりになるかもしれない。それは教室が、あたかも禁煙車みたいになって、一路、仕事の旅路を走り続けるのかも知れない、と思ったりした。だが、北陸の自然の美しさが、教室の車窓から眺められるかどうかは、別の話ではある。

## 富山大学理学部同窓会創立30周年記念誌編集委員会から

昭和59年8月には、各方面の大勢の皆様方の多大の御協力を得て、無事記念誌を発刊することが出来ました。厚く御礼申し上げます。

## 付記

文責とか筆責とか云う言葉がある。自分が書いた文章は、たとえ、それが拙文であろうと美文であろうと、また、どんなに場違いな文面であっても、ひとつの文章を書いたからには、それなりの責任が作者に付きまとう。その責任を恐れては何も書けないことになるが、仮に、自分の書いた文章が、ある人の個人的な意向で勝手に改変され、いつの間にか、それが活字になっていたとしたら、作者はどんな気がするだろうか。ある人は、うまく直してくれたと秘かに喜ぶであろうし、ある人は、とんでもない事してくれたと腹を立てるであろう。人さまざまな世の中だから、“文責”そのものはそっちのけにして、自分に都合のよいように解釈するのが世の常と云うものかも知れない。また、これを逆に利用してメシを喰っている人がいるかも知れぬ。

しかし、他人の個人的な意向で文章をどのように改変しても、活字になった印刷物が作者本人の名義であれば、事情を知らない第三者に対し、作者の文責は免れない。また、作者の同意を得ないで行われた文章の改変は、人格無視と云うべきであろう。そんなバカな事が、と思われるであろうが、実際に8月に発行された「雪紋」にそれがあった。幸いな事に、作者の申し入れで、編集委員長や実務に関係のある人達がこの誤りに気づき、善処してくれた。お蔭で、ぼくは泣き寝入りをせずに、少し救われた。もう二度とこんなデタラメな事は起こらないと思うが、被害者のぼくには後味の悪い、この経験を忘却の彼方へ押しやる事はなかなか難しい。ぼくの名前で変形された作文が、消し去る事のできない活字になってしまったからである。この大きな原因は、「雪紋」発行の時間的制約の中で、校正のステップを踏まなかった点にあるが、兎にも角にも、この事でぼくも編集委員も、後でさんざん勉強させられることになった。それにしても世の中には、理由はともあれ、非常識な人がいるものだ。

富山大学理学部同窓会創立30周年記念誌

編集委員会委員長 平田 卓郎

ただ、遺憾なことに、編集委員会の不注意によって、寄稿頂いた理学部生物学科久保和美教授の原稿を、著者と連絡をとらずに一部削除調整し、当然のことなが

ら久保教授から御叱責を受けました。

時間的な制約，字数の制限等々の切迫した事態にあったとは言え，最も基本的な手続きを忘れてしまった事は，全く弁解の余地がありません。

その後編集委員一同深く反省し，また久保教授への謝罪の方法について協議致しました。その結果，頂いた原稿をそのままの形で随筆として理学部同窓会会報第5号に掲載することを決め，久保教授に申し出たと

ころ，お認め頂きました。

これによって，非礼をすべてお許し頂けるとは到底考えられませんが，せめてものお詫びとしてこの様な形をとらせて頂きました。会員の皆様方にも，この様なことで御迷惑おかけすることは心苦しい限りでございますが，何卒御容赦下さいます様お願い申し上げます。

#### ◆理学部同窓会の現況（昭和60年4月1日現在）

○通常会員数	2,083名	○準会員数（在学生）	824名
文理学部理学科卒業生	1,778名	理学部	783名
59年度理学部卒業生	139名	大学院	41名
59年度大学院理学研究科修了者 （学部外出身者のみ）	1名		

#### ◆理学部同窓会特別会員の異動

○採用	○転出
59.4.1 阿部 幸隆 助手 代数学・幾何学	59.4.1 日下部 実 陸水学助教授 岡山大学へ
〃 笠原 一世 助手 分析化学	59.6.1 小畑 正明 地殻進化学助教授
59.5.1 吉田 尚弘 助手 陸水学	熊本大学へ
60.3.1 氏家 治 助教授 地殻構造学	

#### ◆昭和60－61年度富山大学理学部同窓会役員名簿

名誉会長	中川 正之（理学部長）				
会 長	平田 卓郎（1化）				
副会長	石川 克（1数）	高桑 昇（2生）			
常任理事	清水 建次（18物）	小松美英子（19生）	松山 政夫（20化）	水島 俊雄（22物）	
	池田 栄雄（24数）				

#### ◎事務局から

すでに30周年記念誌「雪紋」は大勢の方々から御購入頂きましたが，まだかなりの残部があります。御希望の方は同窓会事務局まで御連絡下さい。

〒930 富山市五福 3190  
富山大学理学部同窓会 係 永川  
TEL (0764)41-1271 内線 291  
郵便振替番号 金沢 0-16829

発行 富山大学理学部同窓会

〒930 富山市五福 3190  
富山大学理学部内  
TEL (0764)41-1271 内線 291

# 会報



## あいさつ

会長 平田卓郎

ハレーすい星も宇宙のかなたへ去り、76年後である2062年8月に再びもどって来るそうであるが、長寿の世界記録を次々と更新して長生きしないかぎり、もう見る事ができない。

明治43年のハレーすい星は大へんすばらしかったらしい。富山でも、東方にそびえる立山連峰から、二つに分かれた尾を先に出し、真夜中の天空にまたがって来たとのことである。これは84歳の我が父の話である。今、生きている我々は、ハレーすい星とのめぐり合いの運わるく、肉眼では見る事ができなかった。今後、生まれてくる後輩の皆さんは、次回のものを見る事ができるわけである。次回は相当すばらしいということだが、その時代は、すでに宇宙基地や宇宙船に乗って近づいて観察することができるだろう。それを狙う宇宙技術の開発・国際交流はずいぶんめざましい進歩をとげているだろう。そこで、母校である富山大学では国際交流を積極的に推進するために、国際交流事業後援会が先日、組織されているので、同窓会員諸賢には母校のため、後輩のためにご理解とご支援をおくっていただきたいと思っている。

会員諸賢のご健祥を祈る。

## 富山大学の職員となって思うこと

佐藤清雄

私の里も家内の里もともに山形県の庄内地方ですので、前住地の名古屋から帰省する折、北陸線の通過駅として富山という地名は、印象にありましたし、又大学院と助手の時代に過ぎた仙台には富山大学出身の方が何人かおられたので、富山大学には比較的身近かな感じを持っていました。特に片山先生、近堂先生、森先生や今は亡き畠先生は、東北大学金研の同窓生ですので、赴任前からよく知っておりました。そうはいつても昭和49年の春当時教養部の片山先生から思いもかけなかった勧誘のお手紙を、遊学先のアメリカで受取った時は、正直云って驚きました。研究設備の様子も、研究予算の規模も不明だったので少し不安もあり、又アメリカでの契約のこともあったので、即答は出来ませんでした。秋になって（確か10月末だったと思いますが）承諾の意志表示を送りました。富山大学側からは年度内の出来るだけ早い時期に着任して欲しいとのことでしたので、アメリカでの1年間の契約を10ヶ月に短縮してもらい、富山大学に来たのが昭和50年の2月ですから、それからは、アツという間に過ぎた10年間でした。最初は教養部でしたので、現在の1号館に理学部と同居していました。当時の実験設備としては、磁界強度が20キロガウスの電磁石が1台あるだけで、それを理学部の齊藤先生と共同で利用しなければなりません。富山大学に来てからは、希土類金属を含むニッケル合金の電氣的・磁氣的性質の研究をやるつもりでしたので、溶解のための電気炉作りから始めましたが、幸運だったのは、ナック電子製の振動試料型磁力計を近堂先生が持っておられたことです。そのお蔭で富山で始めた仕事を、翌年の3月には、物理学会と金属学会で発表することが出来ました。当時と比べると今では研究仲間も増え、設備もかなり充実しました。例へば固体物理関係で云うならば、前述の20キロガウス程度の電磁石が3台になりました。更に300キロガウスの強磁界発生装置も導入され、高感度

磁力計も2台になりました。この様な拡充は、固体物理関係だけでなく、富山大学理学部全体の傾向でもある様です。

一方教育面から見ますと、教養部では理学部生、工学部生の区別なく学生に接することが出来たわけですが、両者の間にはなんとなく色の違いが感じられました。理学部の学生は一般に論理的解析を好む者が多い様で、新しい事象に積極的に取り組む様に思います。何かはじめての体験につき当たった時でも、習っていないからと云ってすぐ投げ出さず、それを解決する手法を工夫する様に思います。試験の答案で比較的白紙が少ないのは、そのあらわれかも知れません。勿論中には独りよがりの珍答案もありますし、こんなことを苦勞して書く位なら試験の前に少しでも勉強したらよさそうなものと思われる答案もあります。ともあれ58年10月理学部に移って見て意外に思ったのは、専門に移行してから急速に学力の伸びる学生が少なくないことです。理学部の中でも他の学科のことはあまりわかりませんが、物理学科でみると、学部生に対する企業からの勧誘が非常に多いのに、それを振り切って大学院に進学する学生が多いのは、その一つの証でしょう。ここで最後に会員の皆様にお願ひがあります。ここ数年前からいろいろの企業が地方に進出して来る傾向が強まっており、地方の大学を出ても従来の地元企業ばかりでなく、大手企業にも就職することが出来る様になっています。これは富山大学の様な地方大学には、有難いことです。前に述べた設備の充実は、よい教育・研究の原点ですが、何をいっても有能な青年が数多く入学して来るのが大学のレベルアップの必要条件です。歴史にとらわれず地元の大学の良さを見直し、会員の皆様の優秀なご子孫を数多く富山大学理学部の方に入學させて下さいませ願ひ申し上げます。

## 南極地域観測隊の当直

理学部 川田邦夫

小さなグループ活動や、共同生活を営む小社会にあっては“当番”とか“当直”という役目が順にまわってくることもある。全員で常時するのは不便であり、多くの人に対して絶対に必要かあるいはなされれば非常に快適でつごうのよい仕事を特定の人だけがするのではなく、順に交替でやる場合である。

1983年11月から1985年の3月まで1年4カ月の間、小生は25次南極地域観測隊の越冬隊員として限られた

小さな社会の中で生活をしてきた。その中では当然、本来の観測研究の仕事以外に日常生活を円滑に行うため種々の役割が分担され、かつ“当直”なる仕事が周期的にめぐってきた。生活の場所や様子が違うと“当直”の内容も異なる。ここでは各々の異った生活環境の中での“当直”の内容と生活の一面を紹介しよう。

しらせ艦内

我々の25次隊から新しい観測船として砕氷艦「しら

せ」が就航した。これは海上自衛隊の所属だからこれを動かしているのは海上自衛隊員であり、200人程の人がいくつかの分隊に属して各々の任務についている。彼らは我々観測隊員のような寄り集まりとは違い、しっかりした規律の下に行動している。同じ艦内に性格の異なる二つのグループが存在しているわけだが艦の中では艦内のルールに従わねばならない。しかし艦側も観測隊側の事情も理解していて、一種の“自治区”ができていたのである。

そんな状態だから艦側とは別に観測隊内でも当直制があったが、艦の中では食事も清掃も艦側でやってくれるからほとんど当直の仕事はない。早朝と夜10時頃の2回、観測隊員が確実に居るかを確認して艦橋へ報告することと何か伝達事項があればこれを連絡する程度である。人数も多いから往路で一人が一回すればそれでよい。船の中では人が見当たらないということは、海に落ちたことも考えられ重大事となる。当直の巡回する時間は室に居るのが礼儀だが居場所をあらかじめ伝えておいてもよい。朝は皆が起き出すと甲板等探るのがやっかいだからふつう寝ている頃を襲う。黙って隊員室に入り、ベッドのカーテンを開けて間違いなく本人が居ることを確認できることになっている。将来女性隊員が参加するようになったらどうなるのだろう。みずほ基地

小生ら25次隊の雪氷研究観測部門の仲間4人と設営の機械と医療担当の2人が加わった6人は昭和基地から約260 Kmも内陸にある標高2240 mのみずほ基地にて約8か月の越冬生活を過ごした。

みずほ基地に到着してまもない頃は、越冬交替作業の忙しさに追いまわされ、南極の大自然を感じる時間もない程であった。先の24次隊が帰ってしまった後、気の抜けたような淋しさと静寂がやってきた。これ以後6人だけの生活が始まった。

こゝでは先の人々がやっていた方法を基本的に25次隊に適した当直制がとられることになった。仲間が6人だから1日交替で6日に1度当直がまわってくる。当直の仕事はかなり忙しく、その日の他の仕事は免除される。通常8~9時、12~13時、17~18時の3度の食事の世話、つまり調理、配膳、片付けは当直の大きな仕事であり、他に、造水槽への雪補充、居住棟台所への水運び、汚水処理、居住棟掃除、調理用コンロへの灯油補充、小便所への熱湯流し等の仕事がある。またワッチと言って、9時、15時、21時、24時の4回、16KVA発電機エンジンの点検と電力状況のチェックもせねばならない。仕事に慣れてきてからは15時の気象観測とこれを記号化して昭和基地へ送信する作業も当直の仕事にした。6月、7月の2か月間は雪氷部門の大課題である氷床の中層掘削作業が最盛期に入り、毎日、7時から23時まで2交替制の作業時間としたため、当直の内容も多少変化したがる、基本的にはほとんど同じだった。

日頃台所に立ったことのない野郎達が料理の本を開

き、慣れない手つきで包丁を使うのも世間の女性達にとってはおもしろい光景だったろう。みずほ基地の小人数での生活はまさに一つの家庭であり、当直は主婦とでもいうべき役割であった。それにしてもこゝでの主婦の仕事は忙しい。調理内容に手を抜けば自分の時間を持てるわけだが、当直日誌を見渡すと皆それなりに努力している。メインディッシュが互いに重複してないこと、缶詰やインスタント食品の利用が少ないことがこれを物語っている。食料は種々の物があり、雪洞の食料庫に自然冷凍されている。当直者は前夜に大体の献立を考えて材料を居住棟内に入れて解凍しておかないと調理に間に合わない。

最初の頃は当直がやってくるのが苦になっていたが、5~6巡した頃には、どうせやらねばならぬのなら前向きにやってみようという気持ちになってきた。日本に帰っては再びこんな料理を作る機会はないだろう。他の仲間にもそんな傾向が幾分現われてきた。料理は経験の多少だけではなく、食物に対する感覚が大きく影響していると思った。

単調な生活が必ずしもものんびりしたものではなく、こゝみずほ基地での一日はかなり忙しかったが、変化にとほしかった。単調さの原因は雪洞の中で6人だけという狭い生活環境にあると思われた。生活に変化をもたせるため、仲間の誕生会や作業の区切りなど、理由をつけてはパーティ料理(?)が作られた。いつもの内容よりは少し豊富で何か華やかな料理がテーブルを埋めた。ケーキがあり、鯛やぶりの姿造り、ローストビーフとワインなどが見られた。ロブスターや牛ヒレ、北京がもの丸焼き、あわびなどの材料も使われた。そんな日の当直者は気合を入れて頑張る。努力の結果は大体は喜んでもらえるものだ。こんなことがみずほ生活の中で一種の気分転換となっていたように思う。

当直の仕事の中で造水槽への雪入れとか発電機エンジンの点検、小便所への熱湯流しなどというのはみずほ基地での特色であろう。年平均気温が-35℃のみずほ基地で、もし発電機が故障して、明りも、暖房もとれなくなったら大変危険な状態となる。注意を払う理由である。まわりがいくら雪であっても、水にならないと何にも使えない。造水も重要な作業である。小便もどこでもするわけにいかないから場所を決めて朝顔が設けてある。この下には7~8mlばかり直径10cm位の孔をあけてこゝへ流し込むことにした。ところがまわりがあまりにも寒いから小便程度の熱では孔を開けていくことができず、すぐにつまってしまう。そのため時々お湯を流して孔を抜けておくのである。台所の汚水もペール缶に貯めた上でこれをコンロにかけ暖めてから排水孔に捨てていた。

みずほ基地では当直の仕事以外に大便の処理(ビニール袋に入れていっぱいになったら捨てて交換する)、や基地内への燃料の補給、基地内の狭くなった通路の拡張などの協同作業がたくさんあった。

昭和基地

10月からの3か月にわたる内陸旅行の準備をするため、我々は8月下旬に昭和基地へ行き約1か月をこゝで過した。期間の短いこともあって昭和基地では客人的扱いを受けたが一度づつは昭和基地の当直もやった。こゝは人数が多く、仕事に従事する隊員も多岐にわたっているため、まさに小さな村落を形作っていた。調理担当隊員がいるから当直はこれを手伝うことと、食堂、風呂場、トイレ、廊下などの掃除くらいである。しかし範囲が広いから几帳面にやれば結構な仕事にはなる。人数が多いから巡ってくる間隔も長い。上記の当直の仕事とは別に昭和基地では、休日に調理担当者を休ませるため、3つの居住棟が交替で2~3人づつで食事を作っている。これも気分転換にはよさそうだが、おでんとか、カレーとか居住棟によってメニューが繰り返されるそう。大人数の場合、調理方法の点でも難しいのだろう。また各居住棟内にも当番があって暖房の灯油を入れたり、ションドラと呼ばれる小便を溜めておく200ℓドラムがいっぱいになったときの交換をしたりする。「所変れば品変る」で気軽にやれた。昭和基地はやはり大世帯で分業がしっかりしているから当直もあまり気にならない。

#### 内陸調査旅行

夏が近づいているとはいえ、内陸へ向う旅行は最初の頃-40℃の寒さもあって厳しかった。SM50と呼ばれる雪上車に二人づつがペアで乗り込み寝起きを共にする。4台の雪上車、16台の橇を引いた旅行隊は途中二つのパーティに別れたりしたので食料や設営道具も二つに分かれ面倒ではあった。4人のパーティのときは4日に一度当直がまわってくる。旅行隊の当直は主に食事の世話である。旅行中は行動に重点が置かれる

から基地のようにどんな料理を作ろうかなどと考えておれない。食料はほとんどレーションとしてビニール袋に入り箱づめされており、順に開けて作るのである。したがって同じものが何度も出てくる。これではあきるだろうというので基地生活中に食べ残しの食物や、肉、魚、野菜等が別途の箱に入っていて、これらを適当にアレンジして調理する。大体はコンロに火をつけてお湯をわかし、食物を解凍したり、煮込んだり、油でいためれば済むようなものが多い。たまに魚などを焼こうとすると苦勞する。一日の行動を終えてキャンプに入ると当直は居住カプースと呼ばれる食堂櫓に行き食事の準備をし、他の者で雪上車への燃料補給、ラッシング等、雪上車や櫓の点検をし、分担された観測事項を済ませるのである。当直は食べ終って皆が引き揚げた後の整理をし、翌朝と昼食の準備をして就寝する。朝は少し早く起き、朝食を作り、弁当とお湯入りのポットを用意して各雪上車へ渡す。昼食は各雪上車毎で食べるのである。

旅行も終りに近づくと、当直も大して苦にならず、ちょっとコンロ前の当直席に座るだけという位の気分になってくる。同じ食物の繰り返しに皆もあきらめているのだ。手の空いた者が、酒かビールを解凍してくれるというゆとりも出てきた。

家庭の主婦の仕事も大変なものだと認識した。しかしよくもまあ毎日あきずにやってくれているものと思うがこのようなゆとりのせいなのだろうか。ともかく世の男性諸子よ、改めて女房殿の忍耐強さに感謝しよう。えっ、自分は時々やっているって?! 偉い!!

#### ◆理学部同窓会の現況(昭和61年4月1日現在)

○ 通常会員数	2,221名	○ 準会員数(在學生)	826名
文理学部理学科卒業者	1,778名	理 学 部	780名
60年度理学部卒業者	138名	大 学 院	46名
60年度大学院理学研究科修了者	2名		
(学部外出身者のみ)			

#### ◆昭和61-62年度富山大学理学部同窓会役員名簿

名誉会長	中川 正之(理学部長)				
会 長	平田 卓郎(1化)				
副会長	石川 克(1数)	高桑 昇(2生)			
常任理事	吉川 和男(7物)	佐藤 卓(25生)	芦田 完(26化)	二宮 努(27数)	
	三宅 均(29化)				

#### ◆事務局から

すでに30周年記念誌「雪紋」は大勢の方々から御購入頂きましたが、まだかなりの残部があります。御希望の方は同窓会事務局まで御連絡下さい。

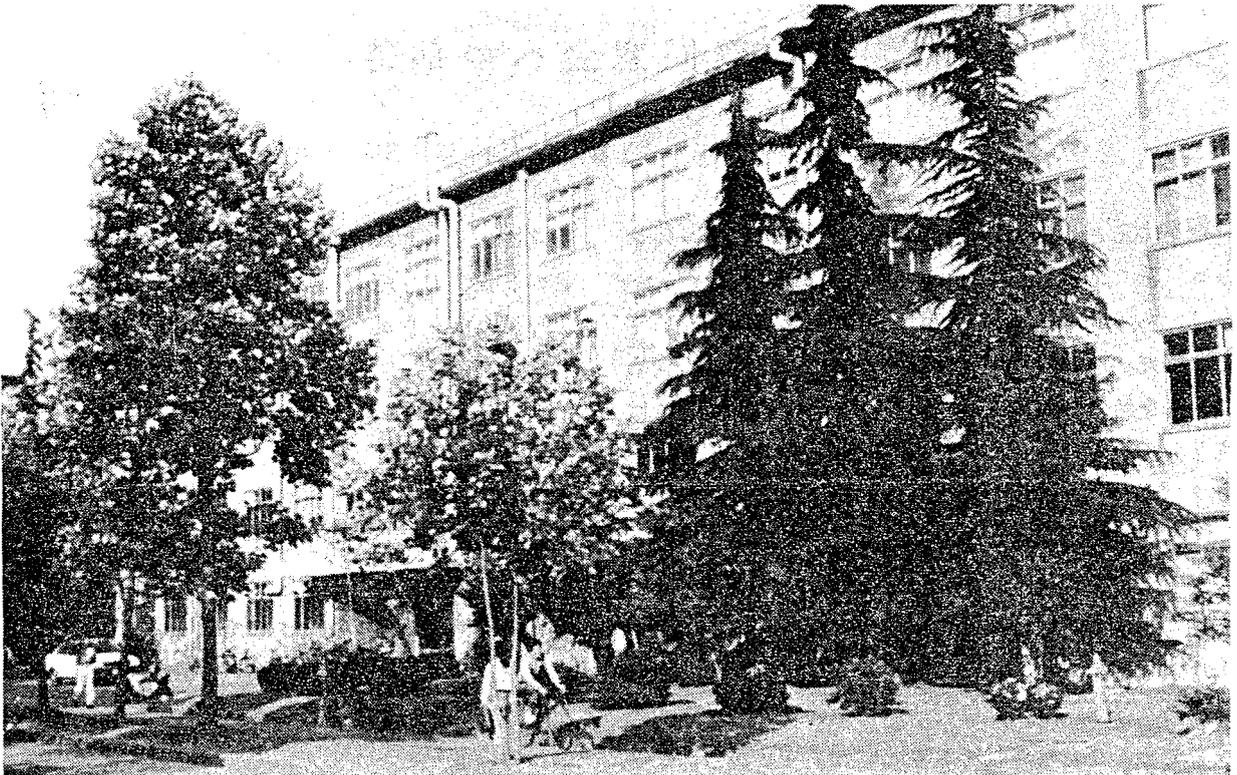
〒930 富山市五福3190 富山大学理学部同窓会 係 永川  
TEL (0764) 41-1271 内線 291 郵便振替番号 金沢0-16829

発 行 富山大学理学部同窓会 〒930 富山市五福3190 富山大学理学部内 TEL(0764)41-1271 内線 291
---

# 会報

第7号

昭和62年6月20日発行



## ごあいさつ —— "SF" から思う ——

同窓会長 平田卓郎

21世紀は、高度情報化社会であり、宇宙時代であるといわれる。

それには、豊かな創造性と国際性が根幹となるのは論をまたない。

昨61年、富山県で開かれた国際会議に來られたうちの一人、ノーベル物理学賞のグランショール教授（ハーバード大学）は、高校生への講演の中で、『私は、若い頃からScience Fiction（科学空想小説）をよく読んだし、今もよく読んでいる。』と言われたことが印象深かった。SFを読んでいるうちに、研究のヒントや切っ掛けが、文章の行間にたくさんひそんでいるようだ。それが新たな発明発見へと進んでいくものらしい。

我が国も、繊維や鉄鋼の量産のあとは、自動車、テレビ、カメラなどの生産の時代となった。次は、これらを国際的にみて発展途上国にゆずるべきものであろう。そうしないと発展途上国は、立つ瀬なくなる。

したがって、我が国もつねに発明発見を重ね、世界の最先端を次から次へと進むべきことになる。21世紀中には、日の丸宇宙基地、宇宙船がとび交い、宇宙工場・宇宙農場、果ては宇宙市町村、宇宙学校などができ

るのも現実かもしれない。逆に、微小な世界では電子の中は何か、それより小さいものは何か。その次は何か。クオークの次は何か。その次は何かという果てしなく発明発見することが肝要となってくる。生命現象も純有機化学反応となるかもしれない。ここで、崇高な理念が光らなければならぬ。人類の幸福、世界平和、人間中心の全人教育の追究に照らさなければなら

ない。

豊かな創造性と国際性を高めるために、時に頭を休め、SFを読みながらあらゆる分野で、冷静にツねに次に来るものは何か何かと追究していきたいものである。

なお、母校理学部の発展と同窓会員諸賢のみなさんの御健勝を願ってやまない。

## 理学部同窓会への期待

富山大学理学部学部長 小黒千足

今を去ること約25年前私は、ポストドクトラルフェローとして米国ニューオーリンズ(New Orleans)にあるチュレーン(Tulane)大学に2年間留学しました。北海道に生まれ育った私は津軽海峡も含めて、海を渡るのが2度目という田舎者でした。それはさておきチュレーン大学は日本ではあまり有名ではありませんが、米国内では知らぬ人がいない大学で、全体的に活気にあふれておりました。医学部には後にノーベル賞を受賞した方がおられました。私が席をおいた動物学科には紀要(Tulane Studies in Zoology)がありましたが、複数のレフェリーをおき、その内の一人は外国(米国以外)人でその分野の世界的権威者であることとされておりました。ですから、なみの紀要ではなく、大変レベルの高いものでした。これらは大学に活気があったという例であります。

さて、ある日、大学の周囲にある立派な家々に美しい飾り、花輪あるいは看板(?)が掲げられ、まるでお祭りのような感じになりました。私は何が始まったのか解りませんので友人に尋ねましたら、来週からHomecoming Daysが始まるのでAlumni Houseに飾りをしているとのことでした。そこでまた、それらは?と聞きましたら、前者はこの大学の出身者が大学に戻ってきて、会合に参加し、旧交を温め、旧師に会い或は在校生と親交を結ぶ催しであるとのことでした。また後者は、同窓生会館のようなもので、学部(College)、クラブ、あるいは成績によって作られ

るグループがそれぞれ持っている家(House)であるという説明でした。私はこれらは個人の豪邸であると思っていたような立派な家でした。

次の週は本当にお祭りの日々でした。夕方までは講演会、音楽会、ゼミナール等が目白押しにあり、それから後はパーティ、仮装大会などがあり、あるHouseはダイニングルームを開放して誰でも立ち寄って一杯飲めるようになっておりました。また、オープンカーに鈴成りに乗ってビールを飲みながらパレードをするなど、一寸危いのもありました。

当時、私はなんとばかばかしいお祭騒ぎだろと思わない訳でもありませんでしたが、年を経るに従って次第にその様なことが出来るのを羨ましく思うようになりました。学部あるいはサークルがそれぞれ立派なHouseを持ち、年に一度多くの出身者がそこに集まってくる。勿論、在校生もそこに加わって人間的な縦のつながりが出来ることは素晴らしいことに思えます。例外はありましようが、日本では一旦社会に出てしまいますと、ビジネス上の或は管理社会的な縦のつながりは出来ても、年代の離れた先輩後輩の大学を通じての交流は難しいような気がします。

同窓会には、出身者が戻ってきて喜んで参加する、そして在校生も将来は自分も是非そうしたいと思えるような何かがあっても良いのではないのでしょうか。

## 「ゴマの来た道」を書いて

小林 貞 作

岩波新書の拙著「ゴマの来た道」は、昨年10月出版した。現在第3刷りに入っているので、全国的によく読まれているに違いない。

岩波書店編集部から、この本の出執依頼を受けたのは、約4年ほど前で、たしかアフリカへゴマ調査に出かける直前だったと思う。書くことを約束はしたものの、その後もゴマの調査、国際協力研究をして国際会議などで海外に出かけることが多く、正直なところ、なかなか腰を落付けて書く余裕はなかった。外国出張が多かったので、小林は富大の教授かなどと言われたほどであった。そんなことで、やっと1年半ほど前に書きはじめ、昨年10月出版にこぎつけた次第である。

このゴマの本は、未熟な私の研究をベースにして、栽培ゴマの発祥のふる里を探索し、その起源地である東アフリカのサバンナ農耕文化地帯から、どのようにしてゴマが世界に広まったかを書いたものである。すなわち、その伝播経路である「ゴマの道」(セサミロード)は、どのように全世界へ広まったかという内容が骨子になっている。

そこで、ゴマという油脂植物がアフリカから漸東し、伝播の先さきの国々にはそれぞれ特有なゴマ食文化が生まれることになる。それは、食べ方、料理・調理法そして貯蔵法などいろいろあり、このなかに生活の智慧も活かされる。身近なことで言えば、ゴマやその油の味と香りを十分に活かした古来からの中国料理と日本料理(精進・テンブラ料理など)、最近では、インスタントラーメンやマクドナルドハンバーガーまである。

古来、このような食文化が生まれると、その原料である植物(作物)の栽培管理や収穫調製などを重要視

するようになる。その結果、豊作を祈るさまざまな祭りごとや各種行事がおこなわれるようになる。すなわち、イネとかムギとかあるいはこのゴマとかが出現したために、それに付随して文化らしいもの、そして文学的なロマンも生まれる。たとえばゴマでは、アラビアンナイト(千夜一夜物語)の“開けゴマ”であり、日本の「ゴマすり」「ゴマかす」「ゴマのはい」といった具合に。

「文化とは何ぞや」とよく言われるが、私にはわからない。しかし、上記のような、自然科学の研究で生み出した改良ゴマが、多用途の食文化を生み、さらに文学が加わってロマンまで発達するということは、これこそ大きな意味での「文化」に当るのではなからうか。雪の研究で知られる中谷宇吉郎氏も、雪の物理学には結晶のロマンと夢があるといった。それは、雪国で生まれた衣食住のさまざまな文化があり、「北国の春」の歌謡曲にまでつづく。

世界の古代文明といわれるエジプト、メソポタミア、インダスそして黄河の各文明は、すべて農耕文化と食文化の上に栄えた。これらは、ローマ、ギリシャ、アラビアなどの各文化に引き継がれ、文学・芸術などももちろん、われわれの関係する自然科学でもすぐれた学者が輩出し、学問が大いに発達した。これらはすべて、より進化した食文化が基礎になってのことであった。

私のような、自然科学の端くれをかじっているような者では、大それたことは言えないが、自然科学のどの分野の研究でも、それは必ず人文科学との接点を持ち、文化への道につながるということである。そしてここで生まれた文化は、人類福祉に大きく役立つもの

と信じている。「ゴマの来た道」を書いて感じたこととである。  
は、自然科学は決して一人歩きはしていないというこ

#### ◆理学部同窓会の現況(昭和62年5月1日現在)

○ 通常会員数	2,395名	○ 準会員数(在学生)	897名
文理学部理学科卒業生	1,778名	理 学 部	839名
61年度理学部卒業生	174名	大 学 院	58名
61年度大学院理学研究科修了者 (学部外出身者のみ)	0名		

#### ◆理学部同窓会特別会員の異動

##### ○ 停年退職

S 62. 3. 31	児島 毅	電波物理学
S 62. 3. 31	小林 貞作	細胞生物学
S 62. 3. 31	中川 正之	雪 氷 学

##### ○ 採 用

S 62. 4. 1	山田 恭司	細胞生物学助教授
S 62. 4. 1	大藤 茂	地殻進化学助手
S 62. 4. 2	赤羽 賢司	電波物理学教授

##### ○ 転 出

S 61. 8. 1	竹内 章	地殻進化学助手	富山大学教養部へ
S 61. 9. 30	中川 邦明	電波物理学助手	城西大学へ

#### ◆昭和61-62年度富山大学理学部同窓会役員名簿

名誉会長	小黒 千足(理学部長)				
会 長	平田 卓郎(1化)				
副会長	石川 克(1数)	高桑 昇(2生)			
常任理事	吉川 和男(7物)	佐藤 卓(25生)	芦田 完(26化)	二宮 努(27数)	
	三宅 均(29化)				

#### ◆事務局から

すでに80周年記念誌「雪紋」は大勢の方々から御購入頂きましたが、まだかなりの残部があります。  
御希望の方は同窓会事務局まで御連絡下さい。

〒930 富山市五福3190 富山大学理学部同窓会 係 上口  
TEL (0764)41-1271 内線291 郵便振替番号 金沢0-16829

発行	富山大学理学部同窓会	〒930 富山市五福3190
		富山大学理学部内
		TEL (0764)41-1271 内線291

富山大学理学部同窓会

# 会報

第8号

昭和63年7月10日発行



ごあいさつ

— 35年間の日進月歩に思う —

同窓会会長 平田卓郎

今から35年前の昭和28年3月20日に「富山大学文理学部理学科同窓会」が発足した。それは、第1回卒業式の当日で、式のすぐ後であった。

恩師をはじめ、卒業生27名全員が集まって蓮町の旧校舎（現在の馬場記念公園）で発会式と第1回の総会が開かれた。ここに本年は35周年の記念すべき年でもある。

現在は、同窓会総員3,000人の多さに達し、それぞれの分野で活躍のことは、お互いに、喜びにたえないところである。これらについては、「雪紋」（30周年記念誌）に詳しく記録されている。

この35年間の科学技術の日進月歩は各領域でめざましく、特に高度情報化社会となり、コンピュータ時代が到来した。35年前では、私どもは、せいぜい計算尺を用い、もっぱらグラフは手書きであったが、現在は、コンピュータのお蔭で正確・迅速にその結果を得るようになった。このように次々と開発され、進歩し、人間の知能のしくみが分析され、再び統合されると、データから自動学習・判断・推論を行うことのできるコンピュータが生まれくる。ここで私は常に人間の崇高な理念が光らなければならないと思う。何をおいても人類の幸福・世界平和・環境保全の追究に照合されなければならない。コンピュータを過信してはいけない。情報に埋もれてはいけない。

将来の35年間では人工衛星が飛び、美しい月を眺め賞でるだけでなく、誰でも月世界へ行き、宇宙旅行ができ、宇宙基地に工場・農場・リゾートが作られると思う。外国にさきがけて開発し、宇宙語は日本語が主流になってほしいと若者に願うようになってきた。

さて、現実にもどり5年後には、同窓生の諸賢の理解と協力を得て、盛大に40周年記念行事を実行できたらと思う。会員諸賢の今後の御自愛と御発展を心から祈る。

## 母 校 と 私

吉 川 和 男 (第7回物理卒)

(富山大学工学部助教授)

昭和61年度と62年度の2年間、常務理事として富山大学理学部同窓会のお世話をすることがありました。卒業して30年を迎えようとしている私にとって、遠くから眺めていた母校に直接接触できるチャンスが得られたわけで、お役に立ちたいという意気にもえてお引き受けしたものです。古き良き時代の感慨の中から現代の理学部をみる私の人生にとって幸なことであったと思います。

私は昭和34年文理学部理学科物理の中川研の卒業で丸々の“蓮町っ子”です。卒業後富山大学工学部に奉職し、現在にいたっています。偉大な恩師中川正之先生は当時30代の働きざかりで、問題解決への考え方、実験の進め方等、親身な指導を受け、私の研究者としての心構えを育てていただきました。その中川先生も退官され、いまさらながら時の流れを感じる此頃です。現在の理学部は偉大な先生方のご薫陶を得た若いホープ達が学生諸君を指導していらっしゃいます。私達の学生時代と比較して、現代は嵩ち足りた時代であると共に多様化と変革の著しい時代でもあります。

その中であって、先進技術社会は革新と創造性を要求しています。母校理学部も社会ニーズにあった先端科学の指導的役割を十分に発揮できる体制が整いつつあることを知るにつけ、心から声援を送りたいと思います。

同窓会の仕事は主に年1回(8月)開催される総会に集約されます。心配の種は参加者が少ないことで、毎回幹事の頭が痛みます。開催の方法、時期等役員一同で、検討はするが、名案がでないのが現状です。

昔の100年と今の1年というものが全然違う。この100年間の世の中の動き、社会にしても随分変わってきている。今からの1年間、これからの3年間というものが昔の10年、20年の流れに凝縮したように早い、私達はその中を流されている。昔に比べてゆとりの時間が減少し、心のゆとりもなくなっている。

母校は私達の心の故郷である。

恩師と語り、古き友人と語り、杯を重ねれば私達

の心も若き日に遊び、温かいゆとりが生まれると思  
 います。62年度の総会で同級生の石倉氏（熊本大理学  
 部教授・生7）を講演者としてご来県いただいたのを機会  
 に、私は7期の同窓生にも連絡して、さゝやかな同級  
 会も同時に開催いたしました。卒業して初めての同級  
 会でもあり、2次会では時間を忘れて語りあい、深い  
 感銘と共に、またの再会を約束したものである。

社会でも伸びる人、伸びない人がいますがその置か  
 れた環境にてこ入れすることで伸びない人を伸ばす  
 のが企業です。理学部同窓会はいま伸びない人に相当  
 します。同窓生の皆様には同窓会の益々の発展の為絶  
 大なるご協力を賜わりますよう元役員としてお願い  
 いたします。

◆理学部同窓会の現況（昭和63年5月1日現在）

○通常会員数	2,539名	○準会員数（在学生）	938名
文理学部理学科卒業生	1,778名	理 学 部	873名
62年度理学部卒業生	140名	大 学 院	65名
62年度大学院理学研究科修了者	4名		
（学部外出身者のみ）			

◆理学部同窓会特別会員の異動

○停年退職

S 63. 3. 31	久保和美	生理学
S 63. 3. 31	田中専一郎	応用解析学
S 63. 3. 31	関口健	数理統計学
S 63. 3. 31	高崎公文	事務長補佐

○採 用

S 62. 10. 1	松島房和	レーザー物理学助教授
S 62. 10. 1	岩坪美兼	生物文部技官
S 62. 11. 1	庄子仁	雪永学 助教授
S 62. 11. 1	大石雅壽	電波物理学助手
S 63. 4. 1	藤田安啓	数理統計学 講師
S 63. 4. 1	田村典明	生理学 助手
S 63. 4. 1	菊地万理	数理統計学 助手
S 63. 4. 1	吉田範夫	応用解析学 教授
S 63. 4. 1	池田榮雄	応用解析学 助手

○転 出

S 63. 4. 1	中 村 良 郎	代数学教授	→ 埼玉大学教育学部へ
S 63. 3. 31	林 有 一	応用解析学	→ 金沢女子短大へ
S 63. 3. 31	吉 田 喜 孝	固体物理学	→ いわき明星大学へ
S 63. 3. 31	松 原 勇	構造化学	→ 金沢経済大学へ

昭和63 - 64年度富山大学理学部同窓会役員名簿

名誉会長	小黑 千足(理学部長)		
会 長	平田 卓郎(1化)		
副会長	石川 克(1数)	高桑 昇(2生)	
常任理事	阿部 幸隆(2院数)	近堂 和郎(7物)	森田 裕之(14化)
	岩坪 美穂(26生)	笠原 一生(27化)	

理事務局から

新名簿の発行(昭和64年2月)を予定しておりますので、広告掲載と名簿購入の件同封したハガキを同窓事務局へ2月10日までに送送して下さい。

〒930 富山市五福3190 富山大学理学部同窓会 係 上口

TEL(0764)41-1271 内線2291 郵便振替番号 金沢 0-16829

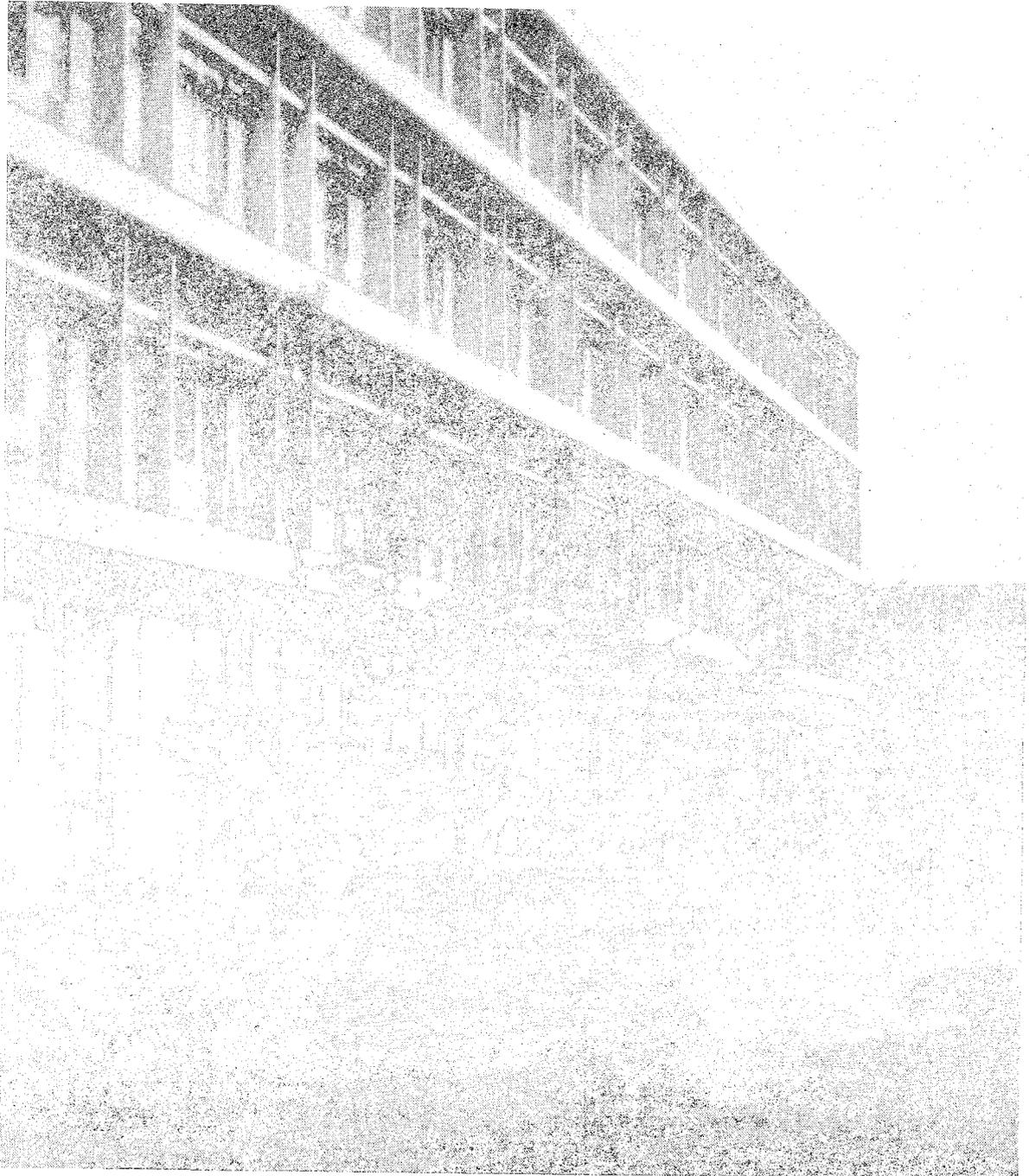
発 行	富山大学理学部同窓会 〒930 富山市五福3190
	富山大学理学部内
	TEL(0764)41-1271 内線2291

富山大学理学部同窓会

# 会報

第9号

平成元年7月25日発行



ご あ い さ つ

“ すばらしい記念石彫を！ ”

同窓会長 平 田 卓 郎

いま、「地平天成、内平外成」といい、國の内外にも、天地にも平和が成ることの願いをとめて、年号を新しくなり、その平成元年も半ばを過ぎた。

思えば、今年は、富山大学が、昭和24年（1949年）に創立されてから、ちょうど40周年を迎えている記念すべき年でもある。

そこで、富山大学創立40周年記念事業として、文理学部跡地に、すばらしいデザインの前庭デザイン彫を設け、どよかという話ももち上がっているのも、意義があり、喜ばしいかぎりである。

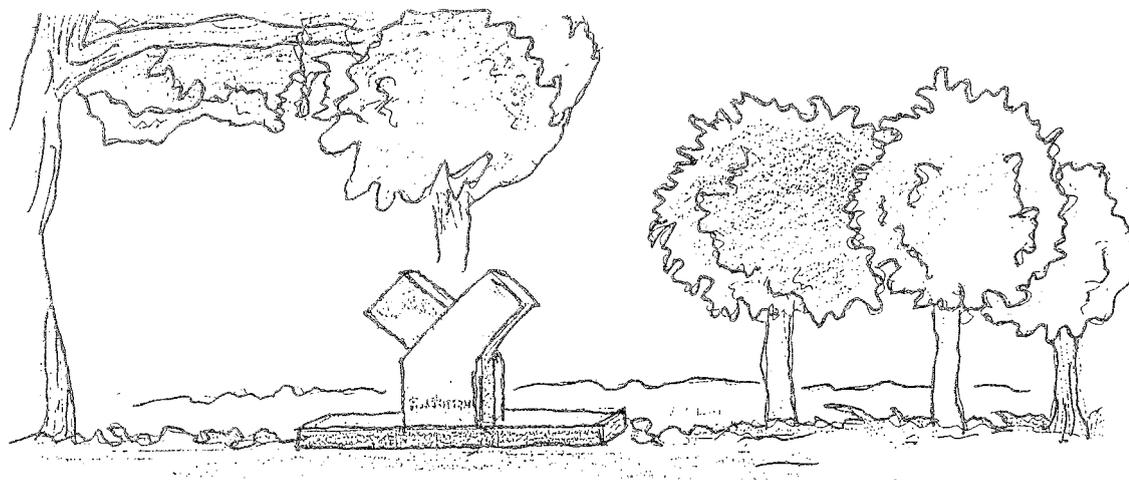
理学と人文の両学部が、お互いに未来に向かって、限りなく飛翔していくという希望にみちたようなデザインがよいというわけである。

しかも、この40年の節目にあたり、9月下旬の休日には、賑やかに被露式か除幕式を行い、あわせて祝賀会をもったらよいという話までできている。

そんなに早く完成できるかなという心配もあることはある。理学部は文理学部から発展してきており、同窓会もまたしかりである。これを機会に、人文学部同窓会とともに、富山市蓮町の両学部発祥の地（馬場公園）に集いして、恩師と語り、旧知と旧交をあたたためあうのもよいという立案である。

何とぞ、会員諸賢のご理解とご承引をよろしくお願いしたいと思う。

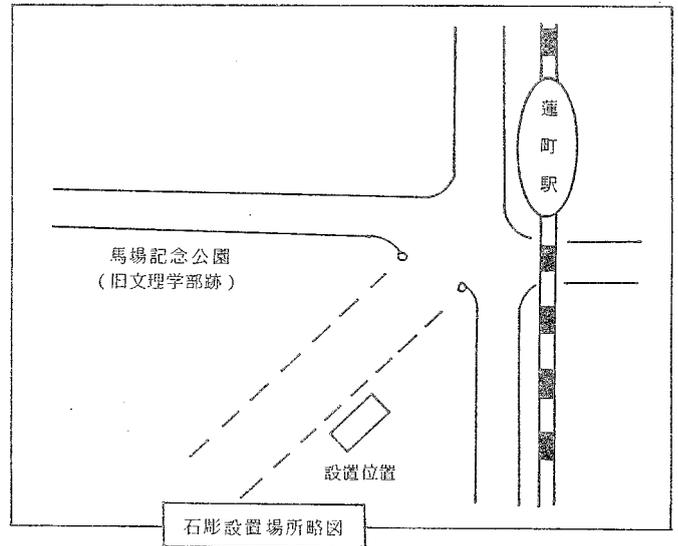
今後とも会員諸賢の皆さんの一層のご健勝とご発展を祈ってやみません。



完成予想図



馬場公園入口（通用門）



④ 理学部同窓会の現況 (1989年5月1日現在)

○ 通常会員数	3,139名	○ 準会員数(在学生)	952名
文理学部理学科卒業者	1,780名	理 学 部	880名
63年度理学部卒業者	172名	大 学 院	72名
63年度大学院理学研究科修了者	6名		
(学部外出身者のみ)			

④ 理学部同窓会特別会員の異動

○ 辞職	H元 3.3.1	池 田 泰 子	数学科文部技官
○ 採用	S 6.3.1 1.1	西 村 克 彦	固体物理学助手
	H元 4.1	古 田 高 士	応用解析学及び電子計算機論助手
	H元 4.1	澤 田 佳 子	数学科文部技官

④ 平成元年慶富山大学理学部同窓会役員名簿

名誉会長	小 黒 千 足(理学部長)
会 長	平 田 卓 郎(1化)
副会長	石 川 一 彦(1教) 高 塚 昇(2生)
常任理事	阿 部 幸 彦(1院教) 近 室 和 郎(7物) 森 田 善 之(14化)
	岩 塚 美 穂(26物) 豆 藤 一 世(27化)

④ 奨学金の取組

1989年度計奨学金の取組は、1,000万円を以て、我が国総協会の協賛で早急の納入取組を各協会に依頼して実施中である。

今後同窓会として奨学金の取組を

① 1990年度 奨 学 金 取 組 ② 慶 富 山 大 学 同 窓 会 報 告 書

発 行 慶 富 山 大 学 同 窓 会 報 告 書 第 100 号 慶 富 市 環 道 3-1-20

富 山 大 学 理 学 部 内

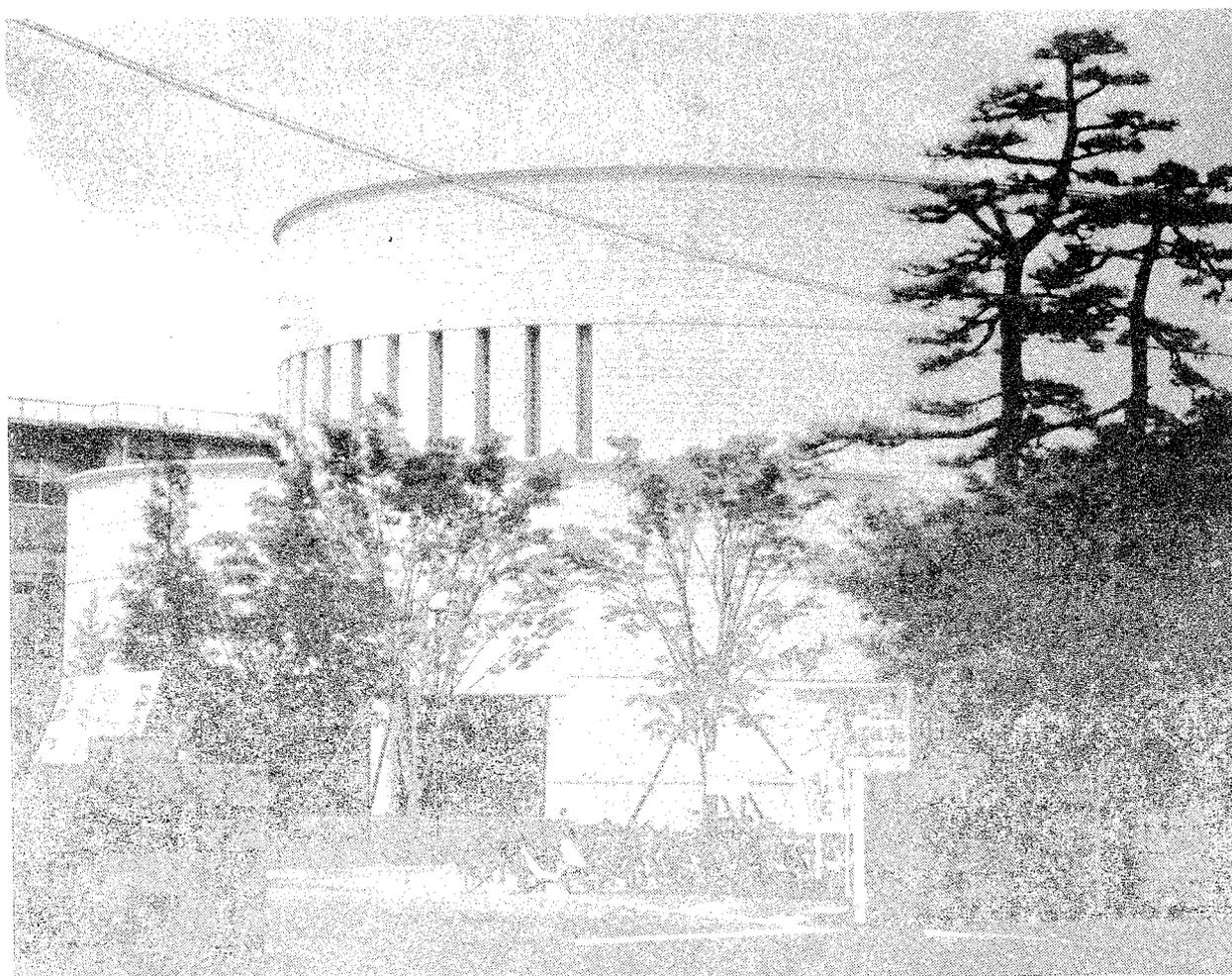
TEL (0764) 41-1271 内線 2291

富山大学理学部同窓会

# 会報

第10号

平成 2 年 9 月 25 日発行



—新装なった黒田講堂—

ごあいさつ

## 「ガンマとシグマ」

会長 平田 卓郎

理学部の前身でもある文理学部の学舎の跡地に、富山大学創立40周年記念事業として、ちょうど1年前の平成元年9月23日の「秋分の日」に、文理学部跡の石彫が、設置された。

その場所は、富山市蓮町の現在は馬場公園とよばれ、その入り口で盛大な除幕式および記念式典が、厳かに開催されたのは、ご存知のとおりであり、よろこばしいかぎりである。

このとき、ご出席された元文理学部長の竹内豊三郎先生が、ごあいさつの中で、この石彫は、第一印象として、ガンマ線とシグマ線を思いつくと言われ、放射線のうちで、ガンマ線は、最も強い透過力を持ち、エネルギーも最も大きいと語られたことは、理系の私どもには全く、*「同感」*のいたりである。

未来に向かって、力強く、発展していくことを表徴している。

ところで、はじめは記念碑という案であったが、それよりも、記念石彫のほうが、一層ふさわしいということになり、総和の意味をもつ記号シグマΣから、デザインが展開され、起ち上がったものであるというのが設計者のイメージである。それによれば理学部と人文学部の両学部が、お互いに寄り添いながら、総和強調して進んで来たのだから、将来に向けて、それぞれ、改組分離して、天高く、飛翔していく姿を描いたものであるという希望に満ちた意図である。

ガンマ線のごとく、シグマのごとく、この記念すべき石彫は、理学部と人文学部の両同窓会員の諸賢の発展をも願っていることは、まことに、有意義なことである。

同窓会諸賢の今後のご活躍を、心から祈ってやまない。

## 退官にあたって

横山 泰

光陰矢の如く早くも定年を迎え、昔の思い出は忘れ去り新しい悪い世のめ廻ります。その初めは懐かしい憧れと涙が絶えず北天に上ったときで、今はこの種の憧れも少く涙が織り交ぜる時代を感ずります。武蔵類かしの研究の激変は遠くから見て懐かしい研究大の生徒で、新病舎は産業経済学研究所と云い関西道等の訪問でもあったものですが、今に至ることは自由化研究奨励の奨励という顔面を返還的なものでした。読書界の在野中心の強りのある意味で弱みも感じました。彼は置大に兼任して間もなくの卒業生です。かの国は数学本位、機械文明の強い国と聞いていたのに聞くとは違ひ、広大な国に恵まれたかたたりした（少くとも当時）国、入つて来たの争奪に個人と他者の生活に無関係に干渉しない感もあって自由で仕事もし易い快適な生活でしたし、また泊りがよくて河津温泉の一月を欧州旅行に当てることになりました。それも米人の中の唯一人の日本人のグループ旅行だったので、欧米両域の文化や市民意識の差の一端を感じとることもできて忘れ得ぬ旅の旅でした。最後は定年迄の十五年に流る米海軍のDr. Kammerer、カリフォル

ニア大のProf. Taftとの共同の仕事です。これは高速道に入ったら隣りを走っていたという様な偶然の出会いでしたが、これも討論をしかけるという合図を送らなかつたなら気付かずに過ぎていたかも知れません。なにせ速度無制限の高速道でナビゲーターも空想ドライバーもいる米、英、豪の大型車を騒いで走り抜ける様なスリルと軽の馬力のなさからくるストレスで愚痴の有り様ではありましたが、それでも荒道を駆け抜ける様な研究の驚きと、少しの奮闘が広がりを見せる楽しさの一端を感じて楽しいものでもありました。今は独創的で個性的な仕事をグループで、池田氏があり乍ら国際的な、しかもお金のかかる仕事を誰よりも早く仕上げるといふ以前より張りも夢も楽しみも多き時代になったと思われたい。今後は皆様の御活躍と、学生を含めて富山大学の一層の活性化を風の便りに聞かせて頂きたいと存じます。最後に、豊かな自然と心情に満ちた富山の地でゆったりと好きに過ごさせて頂けたことを深く感謝致します。また仕事を遅く迄共にした卒業生の諸君とその卒業後の活躍も楽しい思い出の一つです。有難うございました。

# 定年退職にさいして

川 瀬 義 之

昭和24年11月、創立間もなかった富山大学に赴任して以来丸40年の歳月が矢の様に流れ去ってしまいました。私が小学校に入学した昭和6年には満州事変が起り、中学に進んだ12年には支那事変が勃発して本格的な日中戦争へと拡大して行った。中学では教練（軍事訓練）や体操が優先され、高校に入った年の12月には遂に日米戦争に突入して、いよいよ世界の多くの國々を敵とす戦争となりました。我々理系の者は大学卒業入隊は延期される予定でしたが、文系の方は途中で入隊さらには戦地への出征も予想しなければならなくなりました。

13年10月には大阪大学に進みましたが、戦局は次第に悪くなり、正常な講義や実験は一年半程で終り、其後は各講座に配属となり講座単位で各地に疎開する事になりました。交通機関も困難な中を度々実験機器の運送を手伝い、度々移動しました。最終疎開先の富山県伏木の王子製紙（現、十條製紙）の工場内の陸軍六研（青酸を蒸留していた）で終戦を迎えました。我々は秋から3年生になっていたのも、11月頃から大学に登校しました。理学部は大阪中之島のビル街にあったので焼失は免れましたが、ガスは不備で水にも不自由をし、卒業実験は入門程度に終わりましたが、各講座で一定しないため卒論提出も免除となり、21年9月に卒業となりました。

卒業後大学に残る希望を持っていたのですが、最低10年は無給を覚悟せねばならず、アルバイトも禁止されていたので、不本意ながら尾崎の工場に就職しました。約2年半で会社を止めて大学に戻り研究生になっていました所、丁度其頃各地に新制大学が発足し、先輩の福井先生が赴任されていたこの富山大学で職を得る事が出来ました。

我々の文理学部は母体が高校だったので、実験設備等は殆ど未だ整備されておらず、最初の一年は奥田にあった薬学部内の一室に間借りさせて頂きました。選町の校舎に戻りいよいよ実験を始めましたが、設備や器具等の不備が多く大変苦勞しました。更に我々は一級課程も受持っていたので、多い時期には週2回の学

生実験もあり、また毎期の試験時期には監督が10回以上も割当てられました。

20年代、30年代は全く冬の時代で、殆どの申請も文理学部なるがゆえに門前払いされ、一時期には2、3の専攻を残して後は一般課程だけになると言う話も流れました。その後も我々の有機化学分野では、薬学部から文献はじめ、元素分析、赤外、マス等多大の便宜を受けた事を感謝しております。朝鮮戦争が勃発して多少景気も上昇して来ましたが、卒業生の就職は教員志望者を除いては殆ど不可能で、度々会社訪問に出掛けました。高度成長が始まってからも大会社では指定校制を取っていたので種々苦勞が多かった事を思い出します。37年3月には未完成の五福校舎に移転しましたが、完成迄に3回程にわたって建築が行われ、それに応じて度々移転しました。

38年秋からは約1ヶ年間パリ大学付属ラジウム研内のキューリー研で共同研究をする機会を得て、毎日彼等と一緒に化学実験はじめ生活を共にする事が出来たので、彼等の生活、考え方、国際性等を実感する事が出来ました。そこには付属病院もありフランスでのガンセンター的機関になっていたのも、医学への応用等についても関心を持ちましたが、言葉の問題もありもっと若い時期での海外生活が望ましいと感じました。

42年には教養部が分離して、化学専攻には物理化学、構造化学、有機化学、天然物化学の4研究室が出来ましたが、44年からは富大でも学園紛争が起こり数年間は多事多難な年月が続きました。やっと52年に改組が認められて人文学部と理学部になり翌年には理学修士課程も併設され後には分析化学研究室も増加して名実共に充実して来ました。

顧みますと学生時代は全く戦争に影響され、終戦後も敗戦の虚無感、食糧不足、貧困等で苦勞しましたが漸く平和な恵まれた時代になりました。皆様今後の御健康と御活躍を祈念してお別れの御挨拶を申し上げます。

◆理学部同窓会の現況（1990年5月1日現在）

○通常会員数 3319名  
 文理学部理学科卒業生 1780名  
 平成元年度理学部卒業生 176名  
 平成元年度大学院理学研究修了者 4名  
 （学部外出身者のみ）

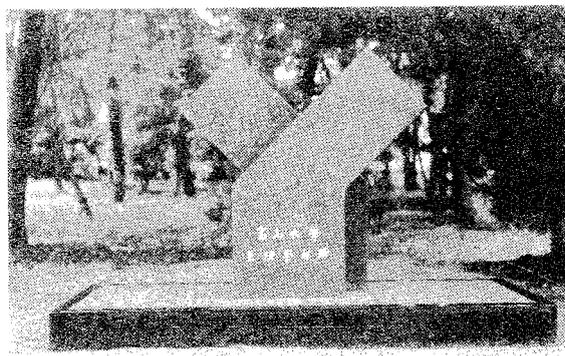
○準会員数（在学生） 957名  
 理 学 部 890名  
 大 学 院 67名

◆理学部同窓会特別会員の異動

○停 年 退 職  
 H2. 3. 31 川 瀬 義 之  
 天然物化学 教 授  
 H2. 3. 31 横 山 泰  
 有機化学 教 授

○採 用  
 H2. 5. 1 樋 口 弘 行  
 有機化学 助教授

富山大学創立40周年を記念して昨年9月  
 23日に建てられた文理学部跡の石彫



◆平成2年度富山大学理学部同窓会役員名簿

名 誉 会 長	小 黒 千 足（理学部長）		
会 長	平 田 卓 郎（1化）		
副 会 長	石 川 克（1数）	高 桑 昇（2生）	
常 任 理 事	阿 部 幸 隆（2院数）	近 堂 和 郎（7物）	森 田 裕 之（14化）
	岩 坪 美 兼（26生）	笠 原 一 世（27化）	

◆事 務 局 か ら

1989年作成の会員名簿を購入させた方で、まだ名簿代金未払いの方は早急に納入して下さい、  
 よろしくお願ひ申し上げます。

（ 口座振替番号 会沢0-16829 ）

〒 930 富山市五福3190

富山大学理学部同窓会

発 行 富山大学理学部同窓会 〒930 富山市五福3190  
 富 山 大 学 理 学 部 内  
 TEL (0764) 41-1271内線2291

# 会報

第11号

平成3年9月25日発行



富山城

## “ブレイン・ストーミング”

同窓会長 平田卓郎

38年前、第1回生の私たちが卒業したころは、わが国は敗戦後であり、貧乏そのものであった。

この貧しかったわが国が、いま、豊かな繁栄した大国になったのは、多くの大学、とりわけ、理工系大学の出身者が、安全で、安価で、しかも美しい各種有用な資材と製品をもりもりと、つくってきたからである。

外国人の何倍の改善と努力したからで、世界のどちらへもっていても安心して供給でき、次第に、経済大国へと成長してきた。

その原動力には、各大学各学部の同窓会員が、相携えて協力し合い、お互いの領域分野を限りなく発展させてきたことによる。

先輩・後輩のたて糸と、同輩というよこ糸が合い織りなしてこそ、立派な織物ができるのである。ところが、その絶好の機会として、同窓会懇親会がある。多数の会員諸賢がお誘い合わせのうえ、ご参集いただき、より盛大に楽しくご歓談のほどお待ちいたします。

楽しく、おもしろい言葉に、オズボーンの“ブレイン・ストーミング”というのがある。訳せば、「脳あらし」の意味で、QC活動や創意工夫のさいに、好んで用いられる言葉の一

つであることは、ご周知のとおりである。

私なりに、困ったときに、わかりやすくするために、ブレインの①ブは、できるだけ多くの分量を考えるとということで、ローソクは人工衛星の中では空気の対流が起こらず燃ええないのではないか。マッチはすったときに燃えても、あと消えるのではないか。ライターは噴き出すので燃えつづけるのではないか。このように、燃えるということでも色々な場面をたくさんの分量を考える。②レは、物事を連結して考える。たとえば、原子はどうなっているか。原子は玉ねぎを割ったようなものか。あるいは、じゃがいもを切ったようなものか。太陽系のようなものか。色々で連想して考える。

日本三景には、松島・巖島・天の橋立がある。なぜか、松林や島々はどこにでもあがるが、連結したものが絶景となる。鳥居と海面、景観と送見とのそれぞれ連結であろう。

何でも普通のものでも連結すると全体が立派になる。③ストーミングのスは、すべてを推奨すること、せっかく多くの意見を聞きたいと思っても、先に「だめだ」といえば、よい意見もでてこなくなってしまう。プラスとマイナスの電気はなぜ引き合うのか。リンゴはなぜ落ちるのか。どうして万有引力があるのか。電子の中がどうなっているのか。と、聞かれたとき、答えられずに、そうなっているのだなどと怒ってしまう。「それはよい質問だ」「それを調べたらノーベル賞かもしれないぞ」といえる雅量と推奨が必要であろう。ストーミングの④トは、突拍子もないことを考えつくこと。月が1日5回自転すれば、月は暖かくなり、 $\frac{1}{6}$ 気圧の酸素があれば人間が住めるかもしれないといった人がいる。

湯川先生の中間子理論もボーア先生に話した時は、ボーア先生は、突拍子もないといわれたが、今日では確立された理論となった。アインシュタインの相対論、エジソンの数千の発明も、皆しかりである。最後の⑤ミは、未来はどうなるかというアイデアをもつこと。分子・原子・核・核子・中間子・クォーク・電子さらに、さらに細かく未来はどうなるかを次々と考えることも発展できて、また、楽しい。

ブレイン・ストーミングをすることによって、研究開発に、発想に、おもしろくなってくるのである。

ここに、真剣に職務にご尽力なさっておられる同窓会諸賢の皆さんが、未来に向かって、ますますのご発展のほどを願てやみません。

## 理学部同窓生の皆さんへ

理学部長 松本賢一

理学部同窓会が、今年38年目を迎え会員数3,500名を超し、社会に益々大きく貢献していることを、お慶び申し上げます。

同窓会役員の御尽力に負う会員名簿が、改訂のたびに、厚くなり正確になってゆくのは大変悦ばしくそして力づけられることです。普段はあまり手にしない会員名簿ですが、昨年は、平成2年度物理学科職業補導委員だったことで、随分重用させていただきました。おかげで、物理学科同窓生の就職状況を念頭におきながら、数年前から万

来となった求人来訪者との対応ができ、また、来訪者から同窓生の現況を教えられるといったボーナスもありました。

さて、この38年間の理学の発展は素晴らしく、達成された宇宙・物質・地球・生命・情報と数理等に関する成果は、学べば目開かれ心満たされる程で、この間の人類の最大の文化的達成の一つと思っています。理学のさらなる発展のため、富大理学部は、今後も、応分以上の寄与をしていきたいものです。

理学は又、近年、先端技術開発の基礎としてその主導的役割を果すようになり、社会に大きく貢献すると共に、産業との関係を強めています。それで、理学部がその実現を強く望んできた大学院理学研究科博士課程について、最近博士課程の目的に「すぐれた研究者の養成」以外に「高度の専門的知識と能力を持つ職業人の養成と再教育」がつけ加えられたのをうけて、後者を目的とした一在職修学や社会のすぐれた人材の研究科への参加等を織り込んだ一構想を進めることにしています。

● 今、大学は、新制大学発足以来といわれ

る大改革—一般教育の改善を要とする教育と組織の改革、18才人口の減少の到来への対処、生涯教育やリカレント教育への寄与、自己点検・自己評価の実施等—の課題に直面しています。富大も、小黒学長（前名誉会長）のもと、この課題の全学的検討に入り、理学部もこの課題に前向きに応えるべく取り組んでいます。

思いつくまま、理学部同窓生の「ふるさと」、富大理学部の近況などを書かせていただきました。時に「ふるさと」に思いをはせて下さるよう願うと共に、皆さんのご健勝と同窓会のご発展を祈っています。

## ご あ い さ つ

理学部教授 川井清保

“ありがとうございました。”——‘自分の研究室’をつくりたくて富山に移ってきたのが昭和38年の秋。日を経ずして、まともにそれをつくる能力があるなどは思いつく上りも甚だしいことを私は悟った。振り返れば、以後のこの27年余りは、多くの方々のご支援とご寛容に支えられての歲月そのものであった。この機会にあらためてお礼を申し上げさせて頂きたい。‘皆さん、ほんとうに有り難うございました。’

● “富大生は活躍する力をもっています。”——昨年の後半、肝臓移植をうけた幼子が、関係者必死の努力の甲斐もなく、相ついで亡くなる悲しいニュースがあった。天命と言うにはあまりにいたましく、もし自分の子であればと思いを馳せて冥福を祈った。一方、全身に大火傷をしたけれども幸に治り、関係者のみならず私達までが安堵し、喜びをわかちあえて、人の心に国境のないことを改めて感じさせた朗報もあった。後者の場合、その坊やに運と生きる力があつたからであろう。同じ頃、卒業生の一人から、博士論文ができました、と別刷が送られて

きた。理学部構造化学研究室にとっては11人目の、それも学部卒だけのドクターである。ドクターを特別視するわけでないが、これも‘富大生の能力を証明する事例の一つである。’と私は研究室の諸君に話した。勿論、学術研究とは縁のない分野で素晴らしい活躍をしており私の誇りにしている諸君も多い。みんな、少なくとも私からは先生らしい指導は何も受けていない人達である。先生の指導が足りなくても富山大学の学生は社会で立派に活躍していく力をもっている。27年間を学生諸君と共に暮らしてきたの実感である。

“私は幸せでした。”——自分の思い上がりで先生になり、学生諸君に胸を張ってこれと言えることは何もできなかったし、多くの諸君に迷惑をかけてきた。にも拘らず、互いに人生を彩りあえる多くの卒業生諸君に恵まれて、私はいま‘富山で先生の道を選んで幸せであった。’と感謝している。同時に、今春卒業する諸君をはじめ皆さんの活躍で富山大学がさらに発展していくことを願っている。

◆新学長に小黒千足教授

大井信一学長の任期満了の後を受け、6月13日付けで、第9代学長に就任。  
 釧路市出身。60才 大山町在住。  
 昭和28年北海道大学理学部卒業。昭和41年富山大学文理学部に着任62年より理学部長。  
 専門は比較内分泌学、動物系分類学。

◆理学部同窓会の現況（1991年5月1日現在）

○通常会員数	3,502名	○準会員数（在学生）	961名
文理学部理学科卒業生	1,780名	理 学 部	893名
平成2年度理学部卒業生	182名	大 学 院	68名
平成2年度大学院理学研究科修了者	1名		
（学部外出身者のみ）			

◆理学部同窓会特別会員の異動

○停 年 退 職

H3. 3. 31 川 井 清 保  
 構造化学 教 授

○採 用

H3. 4. 1 櫻 井 醇 児	H3. 4. 1 平 井 美 朗
固体物理学 教 授	天然物化学 助教授
H3. 4. 1 黒 田 英 世	H3. 4. 1 小 田 島 仁 司
環境生物学 助教授	電波物理学 助 手

◆平成3年度富山大学理学部同窓会役員名簿

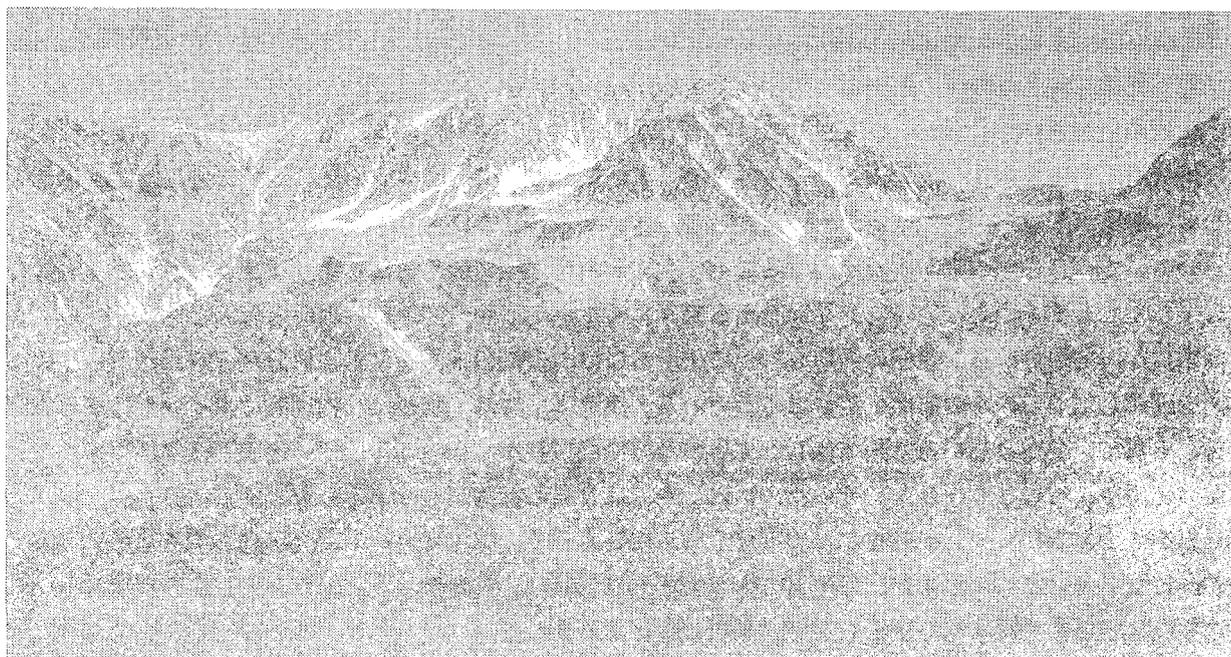
名 誉 会 長	松 本 賢 一（理学部長）		
会 長	平 田 卓 郎（1化）		
副 会 長	石 川 克（1数）	高 桑 昇（2生）	
常 任 理 事	阿 部 幸 隆（2院数）	近 堂 和 郎（7物）	森 田 裕 之（14化）
	岩 坪 美 兼（26生）	笠 原 一 世（27化）	

発 行 富山大学理学部同窓会 〒930 富山市五福3190  
 富 山 大 学 理 学 部 内  
 TEL(0764)41-1271内線2291

# 会報

第12号

平成4年7月20日発行



みくりが池と立山主峰

## 啐啄

同窓会長 平田卓郎

近ごろ、人口孵卵器によって生まれた鶏は、古の昔から伝承されていた「啐啄の機」を経験していないのは、とても残念である。野性の鳥なら知っている。40年ほど前、私の小さい頃には、鶏は放し飼いになっていた。5羽ほどいると1羽ぐらいは、突然、腹の羽毛が抜けて、そこが熱くなり卵をうむどころか卵を全部抱えこむのである。冷水でいくら冷やしても効果がない。

4週間後、朝の静けさに、卵そのものが内側からコツコツと音がするのである。まことに感動的であった。

卵の中から、ひよこが殻を啐(つつ)いて鳴いているのである。これが啐(そつ)という字である。その同じ部分を、親が外から啐(つつ)いて破ってやるのが啄(たく)である。この時、ピヨピヨと、かわいいひよこが顔を出し、この世に出てくる。

この呼吸合わせの時機を「啐啄の機」という。私のよく使う好きな言葉の一つである。親鶏の啄が、早過ぎても遅過ぎてもいけないのである。わが子の成長につれて、今何が必要か見極めながら、先輩と後輩の関係もまた同じである。先輩と後輩が一体となって、積極的に学力、業績を磨くことが大切である。

意欲ある若者には、甘やかす時機は去っている。毎日毎日、努力するものには、業績が集積し、勤勉なるものは、すばらしい人格を磨く。同窓会諸賢は、お互いに一層研鑽され、来年の40周年記念祭を新しい節目とし多数相集い、盛大に開催し、会員諸賢が相携えて、今後ますます活発に発展されるように願ってやみません。

## 富山の5年間

理学部教授 赤羽賢司

児島先生（現名誉教授）に安請合をされたまま、赴任してみて、学生の授業だけみても、先生の仕事がいかに大変であるかが、分かって来ました。5年もかかってようやくなんとかしなくてはと思うようになった所です。つまり身に余る大任でした。前任の大学では、大学院の学生しか知りませんでした。私はここでは、電磁気学を担当しましたが、電磁気学を習ったのは、40年も昔のことです。決められた教科書について、先づ自分が内容をよく理解すること、次にそれを学生に伝えることを順序立てて毎回繰り返して来ました。うまくゆかない時は、私は教えるテクニックがないからだめだ、などと思ったものですが、この頃になってやっぱり、事柄の内容を学生に伝えるには、授業の技術よりも、自分がどれだけ深くその事柄を理解しているのかの方が、遙かに重要であると思うようになりました。物理的にポイントになる内容を、平易な、分かり易い日常語で話し、先生の身体や身振りからその内容が匂い出すような授業をして見たいと思うようになりました。そのためには、やっぱり私の勉強がもっともっと必要であると思いながら、月日がどんどん経ってしまいました。うまく云えませんが、大学では自分の研究が進まなくても、只論文がかけないだけのことで、学生との指導的なやりとりは、失敗すると、とりかえしがつかないというような、どうにもならない気持ちがいつも心の底にありました。

研究面では、全くの無為無策で、只々情性的に今までのやり残し（無理にそう思うだけ）のようなものを「いじり回した」だけでした。年令的なこともあったでしょうが、気がついて見ると、自分と同じような古めかしいことをやっている仲間が、世界中にも全く見当たらなくなっていました。30代の前半に、太陽活動域の研究のために手がけた、古い「物理」を乗り越えて、現在の新しい「物理」を身につけることが、どうしてもできないのです。その一つ覚え的な手法が「あてはまるかも知れない」観測テーマを宇宙に探すと、全く本末を転倒したやり方しかできませんでした。観測には、野辺山の共同利用施設を使わせて頂きました。記述的論文ばかりですが、4篇程研究誌に載せて頂くことができました。又富大では、「星間分子の高励起の研究」で科研費を頂き、メチルアルコール（ $\text{CH}_3\text{OH}$ ）の分子を作っているCとOとの距離伸縮運動について、実験室での研究を常川先生方と行なうことができました。しかし、本当の成果はこれからで、500万円3年間の研究経費が、何やら講座の生活費のようなものに充当されて、後めたい気持ちを持っています。しかし、私のような独立性のないものが、富山で少しでも研究ができたとしますと、それは大学の職員であったからだと思います。やはり職業意識が先行して、研究を支えていたのだと思っています。つまり皆様方のおかげなのです。

宇宙に関係のあることを勉強したいという相談を、学生から屢々受けました。そこで、「物理学科に入ったのだから、4年間は物理をしっかりとやるのが大切です。余裕はない筈です。物理学は、宇宙を勉強するためにはその基本学問です。そして、よい成績で大学院に入れば、君達の熱意がある限り、指導の先生の御理解の範囲内で、宇宙に関係した勉強や研究もできると思います。」というのがいつも私の決

まった答えでした。

富山の自然をできるだけ、観るように心掛けて来ました。時々親切にお話を頂いたのは、植物は生物の増田先生、鳥のことは物理の飯田先生でした。学園ニュースの後表紙のキャンパス樹木、草木誌（小島覚先生、長井真隆先生）も、その度読ませて頂くのが楽しみでした。しかし読んだことを、直ぐに忘れてしまう悲しさをどうすることもできませんでした。工学部の古川の土手での「ひめおどりこそう」や「むらさきけまん」の大きな群落（？）が一年で大きく様子が変わることも観ました。同じ古川の「かるがも」や淋しい古洞池の「かもの大群」など。又「おおはくちょう」の田尻池には何回も通いました。温泉については、あまり立派でない温泉に何回も行くのが好きでした。富山の川には、夫々実に沢山のダムや発電所があります。中には赤さびたものもありましたが、それらが、谷間や、山合いの若葉や、もみじの中でとても美しく観えたものでした。

私事ですが、私は胸にペースメーカー入りの心臓疾患を持っています。富山赴任の時も、主治医は随分と危ぶんだものでした。しかし、本当におかげさまで、健康に原因した休講は5年間一度もありませんでした。本当に感謝しております。

—富山の皆さんありがとう—（学園ニュースNo75より）



理学部同窓会は、来年40周年を迎えますが、これをひとつの節目として何か記念になる事業を行ないたいと考えていますが、事務局では、どんな事をしたら良いのかアイデアがほとんど思い浮かびません。そこで、様々な所で活躍されている会員の皆様のお知恵を拝借したいと思います。こんな事はどうだろうか、こんな事が良いのではないかなー、といったことが有りましたら事務局までお寄せください。出来れば、総会の席で熱い話を期待しております。

◆理学部同窓会の現況（1992年5月1日現在）

○通常会員数	3,681名
文理学部理学科卒業者	1,780名
平成3年度理学部卒業者	179名
○準会員数（在学生）	917名
理 学 部	917名

◆理学部同窓会特別会員の異動◆

○停年退職

H. 4. 3. 31 赤羽 賢司 電波物理学 教授

○採用

H. 4. 4. 1	細野 忍	情報数理学	助教授
"	鈴木 信雄	形態学	助手
"	長崎 宏之	レーザー物理学	助手
"	石岡 努	構造化学	助手

◆平成4年度富山大学理学部同窓会役員名簿◆

名誉会長	松本 賢一 (理学部長)		
会長	平田 卓郎 (1化)		
副会長	石川 克 (1数)	高桑 昇 (2生)	
常任理事	阿部 幸隆 (2院数)	近堂 和郎 (7物)	
	森田 弘之 (14化)	岩坪 美兼 (26生)	
	笠原 一世 (27化)		



発行 富山大学理学部同窓会 〒930 富山市五福3190  
富山大学理学部内  
TEL (0764)41-1271内線2291

# 会 報

第13号

平成6年12月7日発行



## “創設の偉業”をたたえる

同窓会長 平田卓郎



馬場はる女史

同窓会員のみなさん、お元気ですか？

富山大学の発足ごろ、昭和24年(1949)に、富山市蓮町にあった文理学部の会議室には、馬場はるさんと馬場正治さんの大きなお写真が2つ正面に掲げられてあったのを、いま、なつかしく思い出している。

これら写真は、文理学部の前身である旧制富山高等学校時代からの引き継いで掲げられていたものである。

そのころ、旧制富山高校高等科理科の生徒であった私も、この会議室で会合や行事があるごとに、写真からは温和な眼ざしで、われわれを見つめておられるような気がしていたものである。

近年ルーツをたどるといふことばを、よく耳にする。そこで、我が理学部の“生い立ち”をたどってみたい。

理学部のルーツは、旧制富山高等学校高等科理科から始まる。さらに、富山大学文理学部理学科をと

してのち、理学部として独立していることになる。

くわしくのべると、旧制富山高等学校は、大正12年(1923)10月に、前にのべた馬場はるさんの寄付によって創設されたものである。

富山大学は、昭和24年(1949)5月に、この旧制富山高等学校をはじめとして、そのほか、富山師範学校・青年師範学校、富山薬学専門学校、高岡工業専門学校を包括して設置され、それぞれ、文理学部(文学科・理学科・経済学科)、教育学部、薬学部、工学部の4学部で発足している。

文理学部の中の経済学科は旧制高岡高等商業学校の流れをくむものであり、昭和28年(1953)8月に、文理学部から分離して経済学部となった。

ここで、文理学部は、名実ともに、旧制高等学校高等科文科理科の流れをもつ文学科・理学科の2学科となった。

その後、文理学部の改組によって、昭和52年(1977)に、理学部が分離独立し、さらに発展して、大学院理学研究科の設置等へとなり、今日に至っているのは、周知のとおりである。

旧制富山高等学校の創設当時についてのべると、尋常科(4年制)と高等科(3年制)があった。尋常科は小学校から進むところで、高等科は旧制中学校から進学するところである。つまり、尋常科を終えて高等科へ進学するわけである。

高等科には、文科と理科があった。学制改革では、旧制高等学校のあったところでは、後にそれを母体として文学部や理学部が設置されている。なかったところには、一般的に設置されなかった。

また、富山大学では、一般教養は、蓮町にあった文理学部で行われ、主に旧制富山高等学校の文科理科の先生方で授業が進められていた。

旧制富山高等学校は、“岩瀬の高等学校”と通称呼ばれていた。それは、若い青春の向学の憧れの的でもあった。

ここで、旧制高等学校の創設について、近くに住んでおられる米田寿吉さんの話をもとにのべたいと思う。

馬場はるさんは、信仰心がとても厚い方で「何か世のため、人のために役に立つ大きな事をしたい。」そして、馬場家歴代の供養につとめたいと考えられ、県や各方面に相談しておられた。当時、富山県内には、旧制高等学校がなく、学問を志し、大学教育をめざす若者には大へん不利な状態であった。それでは、旧制高等学校を創設するために役立てたいということで、そのためにほとんど全額寄付することを決断されたそうである。今の金額になおすと、300億円をはるか以上であったといわれる。旧制高校卒業生の中には、「もしわが母校がなかったら、今日のわれわれがあっただろうか。これまで考えてみなかったが大事なことである。」とっておられる方もある。

馬場家は、享保年代(1700)から、岩瀬で代々海運業を営なまれ、明治・大正時代に隆盛をきわめ、馬場気船として、独立系船主の中の大手の地位を占めておられ、数多くの事業を興しておられた。

大正8年(1899)に、馬場道久6世が38歳の若さで他界され、未亡人となられた馬場はるさんが、まだ、13歳の若い嗣子正治さんの親権者として、馬場家の責任者として仕事を一手に担われたそうである。

そのときは、ちょうど皇太子殿下(昭和天皇)の御成婚のときであり、御成婚奉祝記念事業として、旧制高等学校を寄付されることになった。

この旧制高等学校跡地は、富山大学文理学部発祥の跡地でもあり、現在、馬場記念公園となっている。公園入口には、文理学部記念石彫がある。また公園内には、旧制高等学校の記念像が建っている。残念な

がら、馬場記念公園でありながら、学校創設の偉業をなしとげられた馬場はるさんの像はない。

「馬場記念公園の歴史と自然を愛する会（米田寿吉会長）」では、この記念公園に、旧制高等学校、富山大学人文学部・理学部の創設の偉業をたたえて、馬場はるさんの記念像がほしいという話がもちあがっている。

同窓会のみなさんも、この機会にご賛同いただいて銅像の設置の実現に向けて、ご理解とご援助をいただきたいと願っている。

同窓会諸賢の今後のますますのご発展を祈ってやまない。

---

## 富山大学に思う

---

理学部教授 小嶋 學

第二特集「大学 ここが良い ここが悪い」とからめて、退官にあたり、何か思うところを書けとの編集子からの御依頼をうけたが、はたと私は困った。急にそのようなことを言われても、何も思い当たらないのであった。何も思い当たらないということは、富山大学には何も悪いところはなく、私にとっては、丁度、空気のような存在であるということになろうか。実にぴったり、私そのものになりきっていて、富山大学の存在感というか、富山大学に対する異質感というものを感じなくなっているせいではなかろうかと、いうことになる。そういう意味では、私にとって、この13年間は、本当にあつという間に、本当にあつという間に過ぎ去ってしまった感がある。しかし、私にとっては、あつという間の13年間であつたかもしれないが、その間、二回ヨーロッパに出張したり、また、合計5年間にわたって学外の会議のため頻繁に研究室を留守にしたりして、関係の諸先生方特に所属講座の先生方を始めとして、学生諸兄諸姉には大変な御迷惑をおかけしてきた。そして、実際は何一つ文句もいわれず、暖かく見守り自由に行動することをお許しくださってきた。先程、私は、富山大学は私にとって空気のような存在であると、いい気になって書いたが、それは私の思い上がりであって、実は、私の周りの方々の御協力の御蔭があつたればこそそのことであつたのである。私は、富山大学の内にあつても外にあつても、いつも富山大学という大きな掌の上で、のうのうと過ごさせていただいていたことに、初めて気付いた。そして、今は、富山大学は私にとって空気のような存在であり、善意にみちあふれた方々のおられる、実に寛容でおおらかな良い大学であるというふうに、言いかえるべきであると思っている。

私は正直いって、富山へきて幸福だったと考えている。それは、富山大学が上述のような良い大学であつたということと共に、良い自然環境にめぐまれているためである。私達の実験材料であるウニは、車で一時間ちょっと走った海岸で容易に採集できるので、こんな好都合はなかった。元来、山が好きな私にとって、こんなに嬉しいことはなかった。うす紫色にかすむ薬師岳から立山を経て剣岳へと連なる稜線をシルエットとして、濃紺の空をほのかな淡紅色から橙色に変え、そして、突如、光り輝く黄金色に染めて昇ってくる朝日を眺める感動は、なにものにも代え難いものであつた。一方、私が驚いたことは、富山の雪は一生懸命降るということであつた。富山の雪は霏霏として降るというより恣肆として降るといった表現のほうがふさわしいほど激しい降り方で降ることである。窓越しに見える教育学部の建物が、あたかも天から傾れ落ちてくるかのような雪片によって見えなくなる程の降りざまに、感嘆し、言葉もなく、ただひたすら立ち続け見続けたことが何度あつたことであろう。そして、雪が降りやんだ後の教育学部のパス

テルカラー調の建物を、私の大好きなユトリロの描くモンマルトルの雪景色と重ね合わせて眺めていたものであった。

最後に、改めて、この13年の間、暖かく見守っていて下さった諸先生方、学生諸氏、および、事務の方々にこころから御礼申しあげるとともに、富山大学の益々の発展を祈念してペンを擱きたい。（学園ニュースNo.83より）

## 富山大学理学部同窓会名簿購入案内

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本年度同窓会会員名簿を発行いたします。

つきましては名簿購入希望者は、同封の郵便振替用紙にて、代金を送付くださいますようお願い申し上げます。

なお、代金の送付なき人は、購入出来ませんのでご了承下さい。

敬具

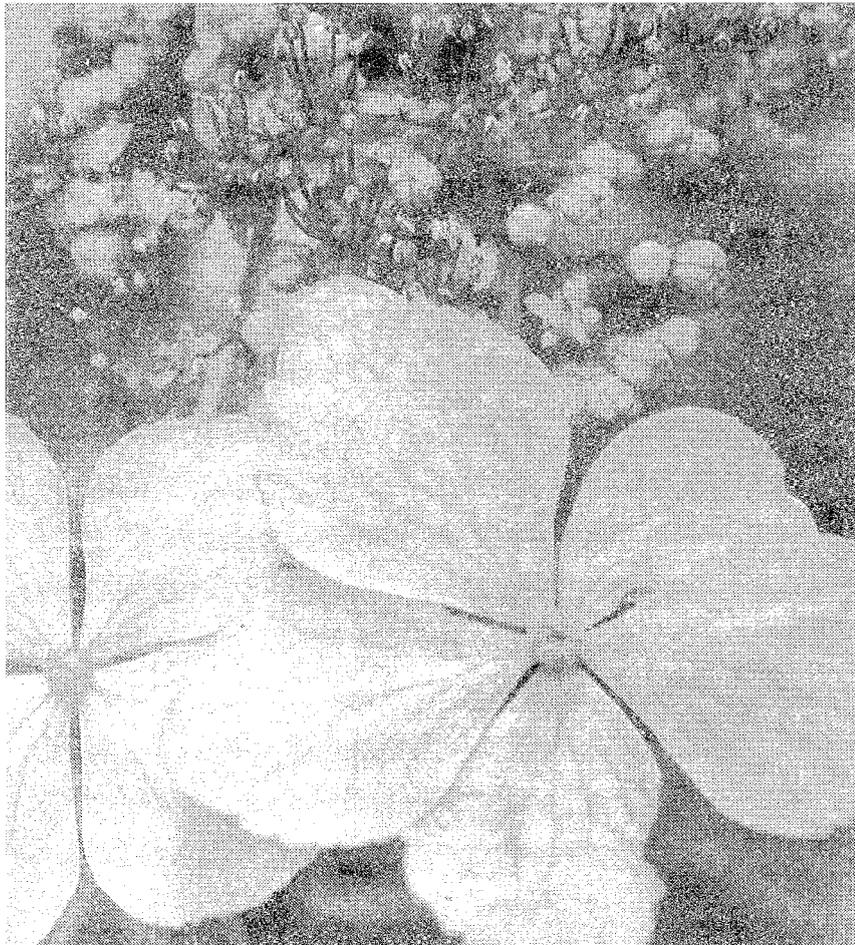
締 切 日 平成7年1月31日

頒 価 1 部 3,500円（送料含む）

郵送予定日 平成7年3月末頃

発 行 富山大学理学部同窓会 〒930 富山市五福3190  
富山大学理学部内

T E L (0764)41-1271内線2163



# 会報

第14号

平成7年7月14日発行

富山大学理学部同窓会

## ごあいさつ

同窓会長 平田卓郎

爽快な夏がやってきました。

同窓会会員の皆さまには、いよいよご健勝のことと存じまして、およろこび申し上げます。

昨今の情勢の厳しい折とはいえ、同窓会総会懇親会に多くの同窓生が出席され、景気回復に向けて、しかも同窓会のより一層の活性化をはかるべきときが到来していると考えています。このことが、同窓会諸賢のお互いの発展にもつながり、うれしいことでもあります。

同窓会を発展させる事業としては、いろいろ考えられます。各位がよい知恵を出し合い、名案を呈出していただきたく、歓迎しております。

それには、まず会員相互の親睦をはかり、情報を交換しあい、わが後輩諸君の進路、就職等についても、お互いの便宜をはかりたいものであります。

在学中の後輩諸君は、準会員でもあり、先生方のご指導よろしきを得て、所属学会で、すばらしい研究発表を行っております。

これらを助成すべく、それ相応の研究助成費を検討したらいかがかと存じます。ご理解とご賛同をよろしくお願い申し上げます。

ところで、先般わが母校前身の創設貢献者である、馬場はるさんの顕彰碑をつくることについて申しあげましたが、近時各方面からの要請が強くなってきております。これらを総合して、次のように協議依頼をされたことをご案内申し上げ、ご理解とご協力をお願いいたします。

- ① 馬場はるさんの顕彰碑（胸像）を馬場公園内につくる。
- ② 平成7年10月22日に竣工除幕を予定する。
- ③ 建設費用は800万円～900万円を予定する。
- ④ 建設共催は、旧制富山高等学校同窓会、富山大学人文学部同窓会、理学部同窓会、富山市岩瀬地区住民とし、それぞれ経費を負担する。
- ⑤ 碑をつくる会を設立する。  
名 誉 会 長 中沖豊富山県知事  
名 誉 副 会 長 正橋正一富山市長（馬場はるさんは富山市名誉市民）  
会 長 高田秀穂旧制富山高等学校同窓会長  
副 会 長 各同窓会長・代表  
理 事 各同窓会副会長 理事若干  
事 務 局 長 横田力旧制富山高等学校同窓会事務局長
- ⑥ 建設工事は、旧制富山高等学校同窓生、富山大学人文学部、理学部同窓生のなかの専門家に依頼する。

以上については、わが同窓会としても、この機会に、それなりの経費負担を予算化しなければならぬと存じます。

会員諸賢のご賛同をいただいて、胸像の建設に向けて、ご協力できれば幸甚に存じます。

これらの経費負担については、各位から直接集めないで、同窓会の予備費などで賄うことを予定しており、よろしくご賛同のほどを重ねてお願い申し上げます。

そして、来る8月12日（土）のわが同窓会総会には、お誘い合わせのうえ、ぜひ多数の皆さまのご参加をお待ち申し上げます。

同窓会諸賢の今後ますますのご発展を祈ってやみません。

# はじめまして

理学部長 風巻 紀彦

この度はからずも理学部長の重責を担うことになりました。どうぞよろしくお願い致します。はじめに、自己紹介をさせていただきます。

専門は、数学ですが、ご存じのように、数学にもいろいろ分野があります。若い頃から確率論の中でも特にマルチンゲールの理論の精緻な美しさに魅せられて仕事をしてきました。マルチンゲールについては殆どの方がご存じないと思いますが、公平なゲームの数学的モデルから出発した理論とお考え下さい。

次に履歴を簡単に述べますと、昭和15年11月北海道旭川市の生まれです。現時点で54歳になります。北海道教育大学（札幌分校）を卒業後、東北大学大学院理学研究科修士課程（数学専攻）に進みました。そこを修了後助手として東北大学に残り、昭和44年から2年間フランスに留学し帰国後助教授（教養部）を6年間勤めて、富山大学には昭和53年に着任しました。残雪の富山駅に降り立った時のことが、ついこの間のこのように思い出されます。

趣味は？・・・と聞かれると困るのですが、一応「映画と読書」と答えるようにしています。映画については、子供の頃から随分映画館に行きましたが、最近はあまり観ません。読書のほうは、外国の小説ではジャック・ヒギンズ、フレデリック・フォーサイス、ケン・フォレット、ロバート・ラドラムなど。日本では特に藤沢周平が大好きで大体読んでいます。

富山大学にまいりましてから17年になりますが、いろいろなことがありました。とりわけ、戦後最大と言われる今回の大学改革は、教養部を廃止し従来の教育システムを4年一貫教育に転換するもので、富山大学が全国の大学に先駆けて改革に着手したこと、その一つの結果として理学部に「生物圏環境科学科」という6番目の学科が誕生したこと、は最も記憶に残る出来事です。まだ教育改革3年目ですので、これから見直しの作業を経て改革の趣旨を望ましい形で実現していかなければならないと考えております。

若年人口の減少、価値観の多様化、情報化・国際化或いは高齢化社会の到来等々未曾有の変革期を迎えている我が国において、大学もまた大きな転換点に立っています。大学をとりまく環境は益々厳しくなっているように感じます。正直のところ、時の流れが緩やかであった頃が懐かしく思われてなりません。

このような時代の変化の中で、富山大学は4年後に創立50年という記念すべき年を迎えますが、これを節目として理学部を一層充実させていかなければならないことは当然のことです。理学部同窓会の皆様にもご理解いただき、これまで以上にご声援下さいますようお願い申し上げます。

## ◇理学部同窓会特別会員の異動

### ○退職

H 7. 3. 31	後藤 克巳	環境化学計測教授
”	南部 睦	合成有機化学講師
”	長崎 宏之	量子物理学 助手

### ○転出

H 7. 3. 31	鈴木 信雄	生体構造学 助手	金沢大学へ
------------	-------	----------	-------

### ○採用

H 7. 4. 1	栗本 猛	量子物理学助教授
”	横山 初	合成有機化学助手
”	石崎 泰男	地球進化学 助手
H 7. 6. 1	辻 瑞樹	生体構造学 助手
”	松田 恒平	生体制御学 助手

## ◇平成7年度富山大学理学部同窓会役員名簿

名誉会長	風巻 紀彦 (理学部長)	
会長	平田 卓郎 (1化)	
副会長	石川 克 (1数)	高桑 昇 (2生)
常任理事	菊池 万里 (34数)	近堂 和郎 (7物)
	高井 正三 (21物)	米山 嘉治 (28化)
	蒲池 浩之 (37生)	
監査委員	寺田 龍郎 (12生)	水島 俊雄 (22物)

発行 富山大学理学部同窓会 〒930 富山市五福3190  
富山大学理学部内  
TEL(0764)41-1271内線2163



# 会報

第15号

平成8年7月10日発行

富山大学理学部同窓会

## “偉業をたたえる胸像” たつ

同窓会長 平田卓郎

同窓会員のみなさん、お元気ですか？

平成7年10月22日は、私たち同窓生としてもひとつの記念する日でありました。

我が理学部のルーツの一つである旧制富山高等学校（理科・文科）の創設に格別の貢献をつくされた馬場はるさん（1886～1971）の胸像が、その日、母校の跡地富山市蓮町「馬場記念公園」に建立された除幕式の日でありました。

我が同窓会員のみなさんも、かなりの参加があり、盛大にお祝いました。

馬場はるさんはその生涯を公けに奉仕されることが、きわめて多く、特に学術振興のためにと多額の浄財を寄付され、大正12年（1923）に旧制富山高等学校を設立せしめられたのである。

さらに、小泉八雲（ラフカデオ・ハーン）蔵書「ヘルン文庫」も寄贈された。

これを受け継いで、昭和24年（1949）に発足した富山大学文理学部、のちに昭和52年（1977）に理学部・人文学部へと、ますます発展して、すぐれた人材を世におくっているといわざるを得ない。このように馬場はるさんの遺志は今後も長く連綿として続いていくのである。

このことに思いをいたし、崇高な恩義を顕彰するべく、今ようやくみなさんの念願がかなえられ、像となったわけである。

この像については、馬場はるさんに敬愛を捧げてこられた地元、東岩瀬町の方々、馬場記念公園の歴

史と自然を愛する会、旧制富山高等学校同窓会のみなさんの強い熱意があり、人文学部同窓会とともに総意をもって建立するにいたったものであり、まことに意義深く、嬉しいかぎりである。

「馬場記念公園」の名称とともに、名実ともに、「馬場はる刀自胸像」に接して往時の遺徳をしのびながら、ともどもに感謝のまことを新にしたいものである。

母校理学部・大学院理学研究科に在学中の後輩諸君も先生方のご指導よろしく、素晴らしい研究を行っており、これらをさらに促進し、博士課程の設置に向け、母校の発展に資するため、みなさんのご賛同を得て、毎年研究助成を続けたいものと存じます。よろしくご理解のほどをお願いいたします。

そして、来る8月10日（土）の我が同窓会総会懇親会にはお誘い合わせのうえ、多数の皆さんのご参集のほどをお待ち申しあげます。

同窓会諸賢の今後のますますのご隆昌を祈ってやみません。

### わたしの研究室

## 数学的な香りはいかが？

田中純子（理学部 数学科4年）

渡辺ゼミでは、二次元、三次元上の曲線と曲面についての性質を研究し、マセマティカを用いて実際に画面に表示するのが目標であります。

しかし、現状は研究とは程遠く、英語で著したテキストを日本語に訳し、内容を理解するので手いっぱいであります。数学がわからない以前に日本語がわからず、高校のときに、国語をもっと勉強すべきであったと悔やむこと数知れずであります。

ゼミ生が手こずっている中、たまにコックリと居眠りされるのがゼミの渡辺義之先生であります。お酒・タバコ・テニス・スキーなんでもありの先生は、「不良おじさん」と自称しております。一方、多方面にわたり造詣が深く、太刀打ちできません。お昼になると必ず同僚の先生方とテニスをされ、パワフルさは学生以上です。このパワフルさを維持するには、早寝早起が一番のようであります。

さてゼミのメンバーは、かしまし娘3人とそれとは対照をなす男性2人、そしてパソコンの使い手であります院生の方1人の計6人です。普段は女性勢力に押され気味ですが、10月の渡辺ゼミ恒例焼岳登山では、煙噴く頂上噴火口へ男性会員が目指したときは頼もしく感じました。一方、女性3人は延々とおしゃべりタイム。大自然の中でも女性の本質かしましさは変わらないようです。

今は11月、4月に1万円を出して買ったテキストも、約1/4読み終わりました。残り後490ページ。これを買わずにコピーしてもよかったのですが、数学科である以上、英語で著した数学の本を一冊ぐらい持っていたら損ではないと思い、全員購入しました。さらには、黒い表紙の中の七色の曲面に魅かれたのかもしれない。

4月初旬、わけもわからず院生の方の見よう見真似で、曲面を画面に表示し、「ワイ出た出た」と、幼児のように手をパチパチたたいて喜んだゼミ生たち。

残り半年間で、さらに1/4進め、表紙にある七色の曲面を、自分でプログラムして、端末機の画面に表示できればと思います。

そうすれば、数学的香りを味わった上で、卒業できるでしょう。（学園ニュースNo89より）

## 合成有機講座第二研究室

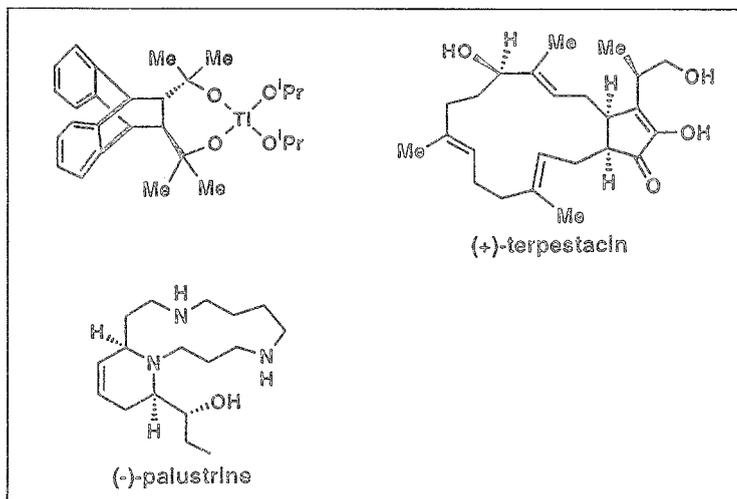
今井亮二 (理学部 理学研究科 化学専攻 1年)

富大一厳しい研究室はどこか? という質問に対して, 知っている人なら必ず, 理学部化学科の合成有機第二研究室と答えるでしょう。研究時間は9時から10時が基本, もちろん1時間じゃありません。午前9時から午後10時までです。マスターの中にはほとんど毎日, 日付が変わるまで実験する人もいます。時間が長いだけじゃなく, 実験中にさぼっていようものなら容赦なく雷が落ちてきます。

ではなぜそんな厳しい研究室にみんな入るのでしょか。それは授業での平井先生のやさしそうな顔と, 山口先生の巧みな話術に, みんなだまされてしまうのです。先輩がいくらうちは厳しいと教えても, 信じずに入ってくる人が毎年います。今年もまた, 新4年生がたくさん希望するのを見て, 我々は「だまされている…」と思わずにはいられません。でも私たち学生は, 嫌々研究しているわけではありません。一人一人がそれぞれ自分の研究テーマを持っており, そのテーマは面白くて, やりがいのあるものばかりです。主となる研究は生物活性天然物の合成です。活性型ビタミンD, 誘導體や, ピペリジンアルカロイド (パルスリン, シュードコンヒドリン, プミリオトキシンC etc.), 海洋生物からとり出した複雑な構造の化合物などを合成しています。天然物の中には薬の原料となるものが多いため, これらを合成することができればたいへんな成果となります。また, 遷移金属を用いた立体選択的な反応の開発も行なっています。本来, 二つ以上の化合物が混ざって生成してしまうはずの反応に対して, 適切にデザインされた不斉配位子を持つ, 遷移金属等を用いて工夫することにより, 好ましい一種類の化合物のみ選択的に合成しようという試みです。これらの研究は, どれも成功すれば画期的なものばかりで, 私たちは毎日, 忙しくも充実した日々を送っています。

先生は, あるときは仏様のようにやさしく, またあるときは鬼のように恐ろしい平井教授, 女の子とチャレが大好きな山口助教授, そして厳しさの中にも厳しさを持つ, 最も厳しい横山助手という超強力な3人が揃っています。我々学生も, この先生たちに負けないよう懸命に戦っています。若いときの苦勞を買ってみたいという君, この研究室に来てみないか。

(学園ニュースNo90より)



## 総会ご案内

会員の皆様には益々の御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、本年度同窓会・総会を下記の通り開催致しますので、ご案内致します。なにとぞ多数のご参加をお待ち致します。

尚、会場等の準備の都合がありますので、出欠の返事を同封のハガキで8月5日までに同窓会事務局までお送り下さるようお願い致します。

記

日 時 平成8年8月10日(土)午後2時～

場 所 高志会館(富山市千歳町1-3-1)

TEL(0764)41-1776

会 費 1,000円

富山大学理学部同窓会

会長 平田卓郎

### ◇理学部同窓会特別会員の異動

○退官

H8. 3. 31 松本 賢一 量子物理学教授

○転任

H7. 10. 1 大澤 力 反応物性化学助教授

○採用

H7. 8. 1 和田 直也 生物圏機能助手

H7. 10. 1 宮崎 隆文 反応物性化学助手

H8. 4. 1 唐原 一郎 生体構造学助手

### ◇平成8年度富山大学理学部同窓会役員名簿

最高顧問 小黒 千足(学長)

名誉会長 風巻 紀彦(理学部長)

会長 平田 卓郎(1化)

副会長 石川 克(1数) 高桑 昇(2生)

常任理事 菊池 万里(34数) 近堂 和郎(7物)

高井 正三(21物) 米山 嘉治(28化)

蒲池 浩之(37生)

監査委員 寺田 龍郎(12生) 水島 俊雄(22物)

発 行 富山大学理学部同窓会  
〒930 富山市五福3190  
富山大学理学部内 TEL(0764)45-6123(代)



(増築された富山大学附属図書館)

# 会報

第16号

平成9年7月10日発行

富山大学理学部同窓会

## “探検の夢と希望”

同窓会長 平田卓郎

今から43年前、ときの文部大臣である松村謙三先生が、滑川の田中小学校での講演にお出でになった。滑川高校に勤めていた私も、生徒といっしょに聴きに行ったことを思い出す。

当時は、戦後の生活困難な時機であり、経済も苦難を極めていたので、こんなときに、南極探検などに行くべきでないという意見が圧倒的であった。もっと国内の復興に予算をまわすべきであるという風潮の強い世の中だったが、しかし、富山県の誇る大臣が、若者にもっと夢と希望をもたせたい。未知の世界を探検する夢と希望を育てたい。日本も敗戦で、すでに南極の領土権を放棄はしているが、南極観測にぜひ参加しなければならないと、心から強調された。古くは(1912)白瀬大尉が開南丸で、南極大陸に上陸し、大和雪原と命名しておられる。今の南極観測船「しらせ」もその名に因んでいる。

若かった私も、その通りであると思った。困苦欠乏に耐えてでも、探検の夢と希望を養いたいと思い、教育の場においても大切なことだと信じるようになった。

第一次越冬隊には立山から佐伯富雄さんら数人も参加され、カラー記録映画を観て感激したものだ。

その後、富山大学からも参加され、多大の貢献をされている。

未知の世界は、広く宇宙にもあり、海中にも、地球内部にも、生命体にも、我々の身体にも、分子、原子、クオーク、電子内にも限りなくある。探検や探究は、夢と希望に満ちている。ここに科学技術の進歩があり、人類の幸福に寄与するのは当然である。

会員諸賢の御発展と御健勝を祈ってやみません。

## 地球ダイナミクス（大）講座

川崎 一 朗（理学部地球科学教室教授）

深海底から地球深部をのぞき込んでやろう。それを目的に、今年（1997年）の4月、地球ダイナミクス（大）講座が出来ました。

どの分野もそうですが、地球科学も猛烈な速度で進歩してきました。でも、肝心なことになると分からないことだらけで、「我々は本当に進歩したのだろうか？」と自問自答することがあります。

たとえば、「地震の種はどの様に準備され、何が引き金になるのか」、よく分かりません。

「富山湾は何故出来たのか」、「年間10cmの速度で太平洋プレートが沈み込む伊豆-マリアナ海溝で何故マグニチュード8クラスの巨大地震が起こらないのか」、「プレートはなめらかに運動しているのかギクシャク運動しているのか」、「平均気温が現在より10度も高く恐竜の異常繁殖の原因を作ったのと同じ巨大マントル・プルームが今も太平洋の下にあるのか」、いずれも答えが出ていません。

はっきり言えることは、積極的に海に出て行って深海底から地球深部をのぞかない限り、答えは出ないだろうと言うことです。「地球ダイナミクス」に集まってきたのは、海を対象に研究することが大事だと思ってきた研究者と熱意ある学生です。

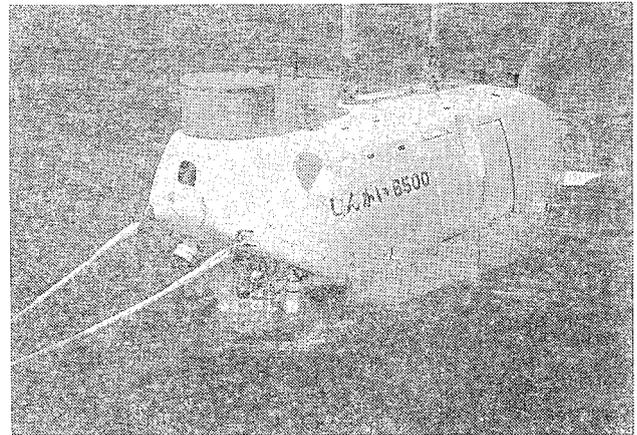
竹内章は、構造地質学的な視点から海に取り組み、「しんかい6500」（上図）で1993年北海道南西沖地震の後の奥尻海域の深海底に潜り、津波波源域の地盤変形などを世界で始めて観察しました。陸では、日本列島から東アジアのテクトニクスの研究を行っています。

塩原肇は、北大理学部海底地震観測施設での院生時代から助手時代にかけて、毎年のように、日本近海はもとより、南極海、大西洋など、世界の海を海底地震計観測で駆け回ってきました。1995年の秋と1996年の夏は、富山大学グループと協同で富山湾の海底地震計観測（下図参照）をおこないました。今年の4月、富山大学に来ました。

川崎一朗は、実は船に弱いのですが、太平洋プレートの深部構造、地震波速度異方性とマントル対流の問題などを研究対象としてきました。最近、三陸沖のプレート境界のロー・アースクエイクに精力を注いでいます。

富山湾海底地震計観測では、川崎も船（水産試験場の立山丸156トン）に乗り、富山湾のど真ん中から見た能登半島に落ちる夕日を見ました。素晴らしかったです。

「新しい地球観」を切り開こうという若者よ、「地球ダイナミクス」に来たれ。



しんかい6500



富山湾に海底地震計を沈めるところ

## わたしの 研究室

輝いて。。。3研  
(結晶物理学研究室)  
!

理学研究科物理学専攻2年

寺山明哲

3研は、岡部教授を中心とした電顕チーム(院生3人・4年生3人)、飯田助教授を中心としたX線チーム(院生3人・4年生2人)、池本先生を中心としたRDチーム(院生2人・4年生2人)の3チーム総勢18人で構成されている。研究テーマとして電顕チームは「Al/PdMn 界面における固相反応」など、X線チームは「不完全結晶における動力学的回折」など、RDチームは「液体カルコゲン系のX線小角散乱」などを、学生一人一人が持っており各自、実験・解析・発表を行っている。3研の始動時間は朝9時である!?みんなで朝のコーヒーを飲み、1日のスタートを切る!?そして、夜遅くまで研究に励むのだ!?それでは、1週間の動きを見てみよう。

月曜日は、2週間に1回コロキウムと呼ばれる論文紹介の時間がある。これは、各自が自分の研究と関係のある論文を読み、OHPを用いて説明するものだ。活発な議論が展開されている!?火曜日は、掃除の日だ。みんな自主的に掃除・ごみ捨てなどをしている。先生方も手伝ってくれる。水曜日は、電顕ゼミがある。院生対象のゼミであり、「THEORETICAL SOLID STATE PHYSICS」という教科書を使っている。さらに1カ月に1回物理セミナーが物理学科主催で行われている。これは物理学科全院生の研究発表の場でもある。他学科・他学部の人もし是非聞きに来て下さい。15時45分よりお茶が出ます。木曜日は、4年生ゼミがある。4年生全員きちんと予習をして、元気良く授業をしている!?金曜日は、X線ゼミだ。電顕ゼミと同じく院生対象のゼミであり、「X線回折と構造評価」という本を用いて、飯田先生指導のもと行われている。土曜と日曜は各自、趣味に・スポーツに・研究に自由な時間を過ごして、リフレッシュしている。

1週間は大体このような流れだが、年間を通して見ると、春のチューリップを見る会・ソフトボール大会、夏の花火鑑賞会、秋の中間発表・ゼミ旅行、冬の卒論修論発表会・スキー旅行、それに数々の飲み会、いろんな行事が目白押しだ。こんなにしっかりと研究・勉強をして、楽しい行事も全員で参加する研究室が今まであっただろうか?いや無い!我々は自分たちで自信を持って言える…

「輝いて。。。3研!」と……(寺山氏、熱く語る!)

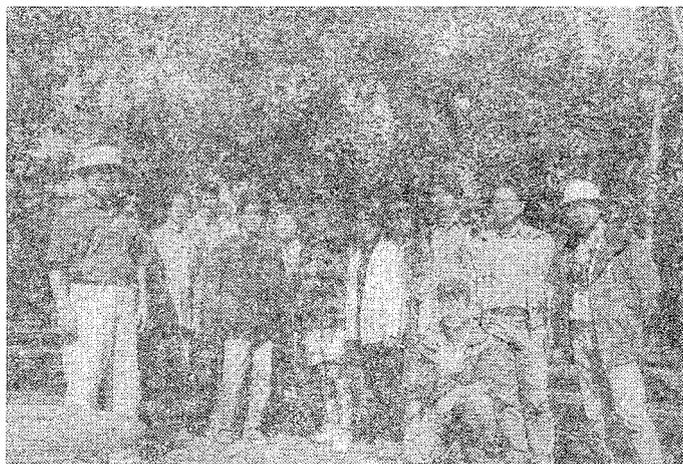
よくまあこんなに嘘を並べるものですねえ…(飯田先生、あきれる。)

(ア一切れる。)

※詳しくは、

<http://k2.sci.toyama-u.ac.jp/sci/phys/3ken/index.html>

を見てください。(学園ニュースNo.93より)



## 富山大学理学部同窓会名簿購入案内

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本年度同窓会会員名簿を発行いたします。

つきましては名簿購入希望者は、同封の郵便振替用紙にて、代金を送付くださいますようお願い申し上げます。

なお、代金の送付なき人は、購入出来ませんのでご了承下さい。

敬具

締 切 日 平成10年1月31日

頒 価 1 部 4, 0 0 0 円 (送料含む)

郵送予定日 平成10年4月初頃

### ◇理学部同窓会特別会員の異動

○退官

H 9. 3. 31 松浦 郁也 反応物性化学教授

○転任

H 9. 3. 31 石原 卓 情報数理助手

○採用

H 9. 4. 1 幸山 直人 情報数理助手

H 9. 4. 1 塩原 肇 地球ダイナミクス助教授

### ◇平成9年度富山大学理学部同窓会役員名簿

名誉会長 風巻 紀彦 (理学部長)

会長 平田 卓郎 (1化)

副会長 石川 克 (1数) 高桑 昇 (2生)

常任理事 菅谷 孝 (16数) 常川 省三 (12物) 尾島 十郎 (12化)

高安 紀 (13化) 内山 実 (20生)

監査委員 笠原 一世 (27化) 西井 淳 (28化)

発 行 富山大学理学部同窓会  
〒930 富山市五福3190  
富山大学理学部内 TEL(0764)45-6143

# 会報

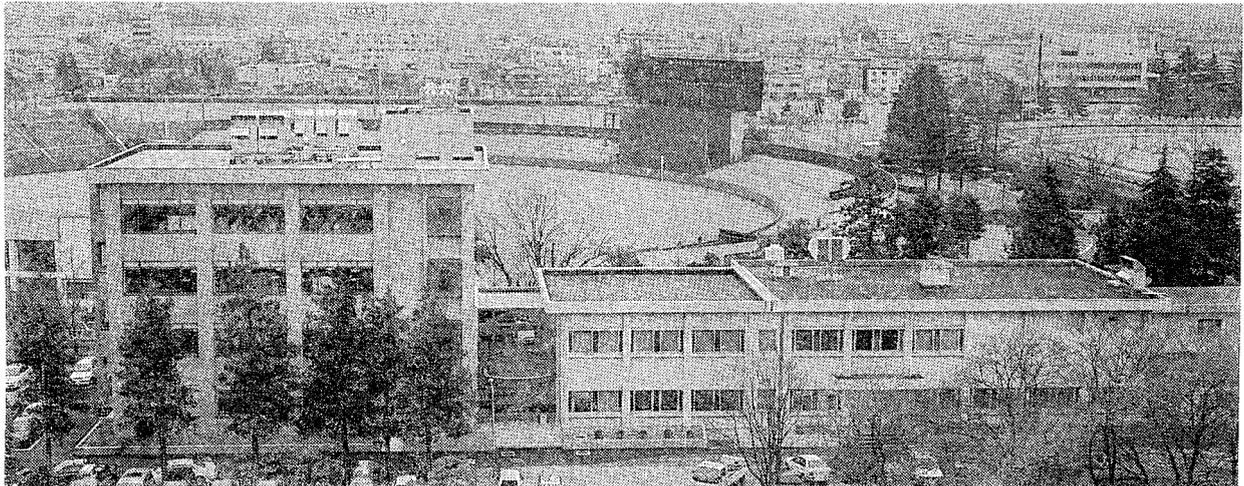
第 17 号

平成10年7月7日

富山大学理学部同窓会

〒930-0887 富山市五福3190

電話(0764)45-6143



(増築された富山大学総合情報処理センター)

## “理工学研究科”を祝う

同窓会長 平田卓郎

同窓会員のみなさん、お元気ですか？

昭和24(1949)年5月に、富山大学が創設され、来年、平成11(1999)年5月をもち、開学ちょうど半世紀の節目を迎えることとなります。当時は、終戦後まもなく国の財政も乏しく、それにもかかわらず、富山県、地域社会の特段のご協力ご援助によって建学の運びとなりました。

その後も引きつづき地域のご支援とご要望に応じて、大学自身の不断の努力と相まって、富山大学は現在のような発展を見るに至っております。格別に、本年度からは、理学部に継続する大学院理工学研究科博士課程が増設されましたことは、会員諸賢とともにお祝いいたし、ご同慶にたえません。同窓会后輩の諸君に対しても、この理工学研究科から高度の科学技術における業績が期待され、希望に燃えているところです。最先端の科学技術の進展なくしては我が国の繁栄はありえないのはご周知のとおりです。昨今の不況を脱するにも、環境保護と改善にも、円(日本円)にもとづく“物づくり”の科学技術振興の政策が切望されます。

この半世紀を一つの契機として、富山大学は個性ある大学として新たな発展を目指し、国や地域社会に多くの豊かな人間性と秀でた専門性を備えた人材を送り出し、世界に向けて国際学術交流に寄与できることも考えるべきです。開学50周年記念事業後援会としても目標額2億円であり、会員各位にはこの開学50周年記念事業の主意に深く理解していただき、醸金にご協力たまわるようお願いいたします。

また、来る8月8日(土)の私たちの同窓会総会懇親会にはお誘い合わせのうえ、多数のみなさんのご参集のほどをお待ち申し上げます。

同窓会諸賢の今後のますますのご発展を祈ってやみません。

## 理工学研究科誕生の経緯

理学部長 風巻紀彦

私は平成7年4月に、理学部長の重責を担うことになりました。大学改革をしてようやく3年目に入ったところで、当時理学部が直面していた最大の課題は、理学部に博士課程を設置することでした。この機会に博士課程設置経緯を私なりに振り返って整理して述べて見たいと思います。

昭和62年、大井信一学長るとき、本学は人文・社会科学研究科と自然科学研究科の二本の柱からなる総合大学院の設置準備委員会を設け、先行する神戸大学や新潟大学、金沢大学の例を参考にしながら検討を急ぎました。しかし、残念ながら時既に遅しで、総合大学院構想検討委員会は発足後一年程で解散せざるを得なくなりました。

その頃は、理学部単独でドクター・コースを持つことは最早不可能で、残るは工学部との連携に頼るしかない状況になっていました。

時代は研究開発能力と学際的な見識を有する高度の専門的職業人を求めており、従来の理学・工学を連携・融合した教育研究体制を確立した大学院改革が急務となってきたにもかかわらず、理学部と工学部の話し合いは全く進みませんでした。平成7年4月に一度、話し合いの糸口が生まれるチャンスがありましたが、この時もうまく行かず、同年7月には工学部教授会が「理学部との話し合いは時期早尚」との結論を出すに至り、理学部にとって最悪の事態を迎えてしまいました。

一方、他大学の様子を述べて見ますと、平成7年の時点で既に、千葉大学に自然科学研究科が設置され、埼玉大学と茨城大学に理工学研究科が発足し、翌平成8年4月から静岡大学と愛媛大学に設置される予定になっていました。その後、平成9年4月に山口大学にも設置され、また、島根大学、弘前大学では、先ず理学部を理工学部に改組し、その上で理工学研究科の設置を目指す方針をとっておりましたし、高知大学もそのような考えでいたようです。その他、鹿児島大学では、平成10年度に実施を予定していた大学改革と同時進行の形で、ドクター・コース設置の問題が一挙に解決する気配が濃厚でしたし、琉球大学の場合は、米軍基地問題が追い風となるのではないかと、この観測がありました。

また、信州大学では工学系研究科構想について理学部と工学部との間で着実に準備が進んでいる、という情報が入ってきていました。そうすると、残るは富山大学と山形大学となります。悪くすると、富山大学だけが取り残されるのではないかと、という心配がありました。

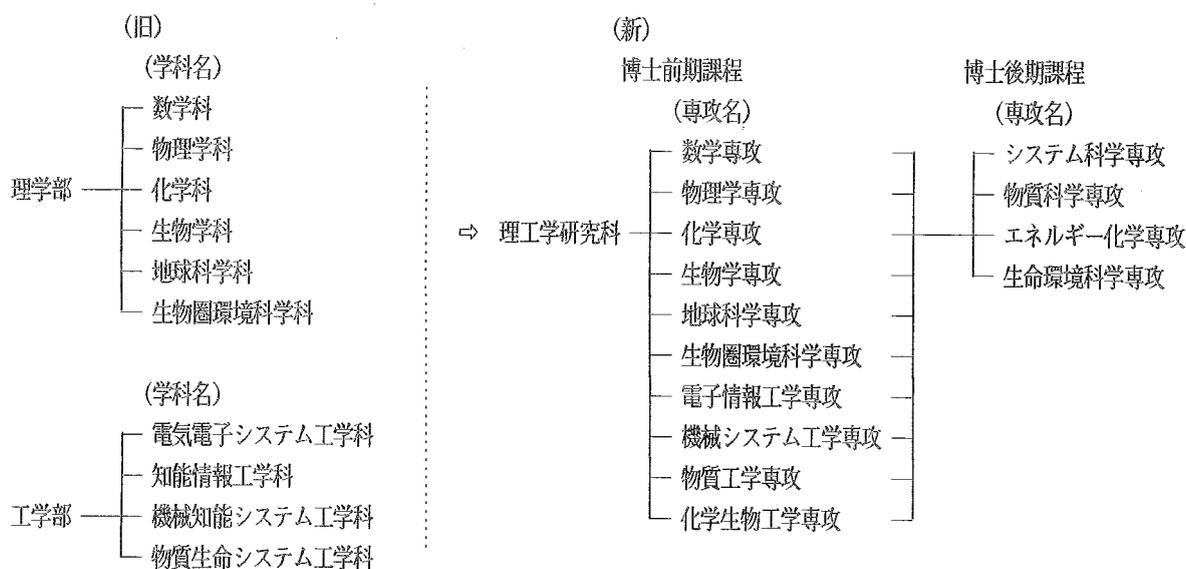
さて、本学の理学部と工学部の関係が暗礁に乗り上げた状態がほぼ1年近く続きました。このような膠着状態を一挙に解消する妙案は全くありませんでしたが、平成8年6月18日に意を決して、私と評議員、事務長、同補佐の5名で、工学部長を訪ね、他大学におけるドクター・コースの設置状況を説明した上で、理工学研究科の設置についての検討をお願い致しました。この時、工学部側から評議員の方々が同席されていました。幸いのことに、工学部長は、私共の要請を正面から受けて下さいました。早速7月30日に、工学部に「大学院の整備拡充を図る検討委員会」を設置し、更に11月5日に「工学研究科改組準備委員会」を設けて精力的に検討を急いで下さいました。但し、この段階で工学部側が目指していたのは、理工

学研究科ではなく「自然科学研究科」でした。理学部としても、理工学研究科よりも自然科学研究科の方が望ましい訳で、異論はありませんでした。その結果、12月13日に工学部と理学部を中心とし、教育学部の自然系を含めた「自然科学研究科設置準備委員会」が発足することになりました。その後も、急ピッチで検討の作業を進め、平成9年1月27日に事務局と打合せを経て、2月19日にいよいよ文部省との第1回目のヒヤリングに臨みました。しかし、そこで指摘されたのは、「富山大学の場合、何故自然科学研究科なのか、その理由を財政当局に説明するのが難しいし、仮りに、財政当局を通ったとしても、政令に名称を記載するに当たって法制局の審査があり、法令上の整合性と言う観点からしても、説明は困難である。」ということでした。これにより、自然科学研究科構想を断念せざるを得ず、以後理工学研究科構想について検討することになりました。更に、文部省から言われたことは、「このような時期に相談にくるのは遅すぎる。概算要求の一年前に相談に来る大学もある。富山大学はこれから余程ダッシュする必要がある。」ということでした。

2回目の打合せが4月16日に行われた後、結局5月20日の打合せで平成10年度の概算要求に載せることが了承される、という予想外の急展開の決着となりました。嬉しかったのは、静岡大学、愛媛大学、山口大学など先行する大学のように博士前期課程を3専攻に再編せずに、既設の数学専攻、物理学専攻、化学専攻、生物学専攻、地球科学専攻、生物圏環境科学専攻がそのままの形で存続が認められたことです。富山大学の場合、それに加えて、博士後期課程が、システム科学専攻、物質科学専攻、エネルギー科学専攻、生命環境科学専攻のいずれにおいても工学部と理学部が文字通り融合した教育研究体制をとっていることも他大学には見られない特長となっており、文部省から「これまでにない構想」との高い評価を受けました。その後、設置審の審査を殆ど問題なくクリアし、平成10年4月1日に富山大学理工学研究科博士課程が正式に発足した、という次第です。

理学部にとりましては、20年来の夢が実現し、正に新しい時代を迎えたこととなります。先端的科学技術の基盤は、自然を対象とする基礎研究にあることを考慮しますと、富山県における自然科学の拠点としての理学部の役割は、今後ますます重要となっていくものと確信しております。

### 理工学研究科の設置概要



## 吉田ゼミの紹介

理学研究科数学専攻1年

松村 一 央

僕たちのゼミは、簡単に一言でいうと微分方程式を学んでいます。みなさんは数学が何の役に立つのかと疑問に思うかもしれませんが工学や科学あらゆる分野の基礎となります。数学はとても不可欠なのです。今の時代ではスペースシャトルもうちあがっていますが、それも数学の力なくしてはあがりません。詳しく述べてもむずかしくなるので、ここらへんにして、僕らのゼミのメンバーを紹介します。

今は4年生7人、院生2人とわれらの吉田先生で活動しています。

吉田先生は、吉田の定理というのがあるほどその分野では、世界の先端を走っている中の一人でとてもすごい方なのですがそれだけでなく、自分にきびしく、人にやさしくのとても明るく面倒みもよい方です。研究分野の興味もそうですがその人柄にほれて、みんな集まってできたゼミです。吉田先生は、年こそ自分達とはなれてますが、考え方や肉体的にもとても若く、テニスをするくらいで自分達には、よき理解者なのです。

去年は、先生とゼミの仲間で氷見まで、小旅行にいきました。そのときは、先生と男どうして語り合いました。夜も一番おそくまでつきあってくれました。でも僕が、今少し残念だと思っていることは、女性が一人しかゼミに、いないことです。去年は4人もいたのですが…、来年にとっても期待しています。



とりあえず、今は男くさいですが、まーそれもよしとしたいところです。

現状としては、数学の研究というより英語の文章を訳して、理解するので精一杯ですが、みんな卒業するまでには、吉田先生に勉学も人生論も学びびとまわりもふたまわりも大きくなっていることだろうと思います。

(学園ニュースNo.95より)

## 理学部同窓会特別会員の異動

## ・退官

H10. 3. 31	塩谷 俊作	合成有機化学
H10. 3. 31	堀越 叡	地球進化学
H10. 3. 31	水谷 義彦	地球進化学

## ・新任

H10. 4. 1	鈴木 炎	合成有機化学
H10. 4. 1	張 勁	環境化学計測

## 平成10年度富山大学理学部同窓会役員名簿

名誉会長	風巻 紀彦 (理学部長)		
会長	平田 卓郎 (1化)		
副会長	石川 克 (1数)	高桑 昇 (2生)	
常任理事	菅谷 孝 (16数)	常川 省三 (12物)	尾島 十郎 (12化)
	高安 紀 (13化)	内山 実 (20生)	
監査委員	笠原 一世 (27化)	西井 淳 (28化)	

# 会報

第 18 号

平成11年7月7日

富山大学理学部同窓会

〒930-8555 富山市五福3190

電話 076-445-6143



富山大学国際交流会館

## “ヘルン文庫”に思う

同窓会長 平田卓郎



同窓会員のみなさん、お元気ですか。

富山大学が昭和24年（1949）に発足してからもう半世紀を経て発展してきた。そこで、来る11月13日（土）に、開学50周年記念式典が新築の富山国際会議場において開催されることとなり、各位のご理解とご協力によって記念募金の活動が進んでいることはご同慶のいたりである。このあと、さらなるもう一步ふんばって、ご協力をたまわりたいものである。よろしくお願いいたします。

昨10年10月15日に、ヘルン文庫跡（富山市蓮町・馬場記念公園）に記念碑の除幕式、テープカットがあった。

当日の午後から旧制富山高等学校の創設75周年記念式があり、富山大学図書館長、人文学部同窓会長、理学部同窓会長としてご招待も受けた。

これは、旧制富山高等学校のヘルン文庫が富山大学付属図書館に受け継がれ、人文学部と理学部は、同校の高等科文科と理科を母胎とするからである。

ラフカディオ・ハーン（小泉八雲、1850～1904）は、ギリシャで生まれ、19歳で米国に渡り、新聞記者としてまた、作家として活躍していたが、明治23年（1890）に日本に来て、旧制の松江中学、第五高校（熊本）、東大で英語、英文学を教える一方、知られざる日本文化を世界に紹介した人物である。ヘルン文庫はハーンの蔵書コレクションであるが、旧制富山高校の初代校長南日恒太郎氏（人文学部前の胸像）が、富山市東岩瀬の馬場家から莫大な資金協力を得て譲り受け、大正13年（1924）に開設された。「怪談」や「神国日本」の手書き原稿や、ハーンのもっていた洋書、和漢書等の数々を所蔵していることは周知のとおりである。

ハーンの生誕150周年も近づき、国際的にも日本文化の真髄や民族の心を見抜いて世界に紹介したハーンの研究を深めて、ヘルン文庫のある富山大学も力を入れ、ヘルン文庫を誇りとしたいものである。

同窓会諸賢のますますのご発展を祈ってやまない。

## ご挨拶

富山大学理学部長 廣岡 公夫



この度、理学部長の任を頂きました廣岡公夫でございます。考えてもみなかった事態になり、戸惑っております。創立50周年を迎える今年、大学をとりまく情勢は日に日に厳しくなり、激動の時代の真只中にあります。このような時期に果してこの重責が動まるかどうかまことに心許ない状態ではありますが、皆様のご援助、ご協力を頂いてやって行きたいと存じておりますので、どうか宜しくご支援の程お願い申し上げます。

自己紹介として、私の略歴と専門について紹介させていただきます。

生まれは京都、育ちは大阪です。昭和36年に京都大学理学部地質学鉱物学科を卒業、38年に同大学院修士過程を終了し、博士過程に進学しました。38年10月に大阪大学基礎工学部材料工学科（現物性物理工学科）の助手として職を得ました。その後、昭和46年1月に福井大学教育学部に助教授として転任し、53年4月に文理改組にともなって新設された富山大学理学部地球科学科に教授として赴任し、現在に到っております。もう早いもので富山での生活が22年になりました。

専門は、古地磁気学および考古地磁気学であります。地質時代や歴史・考古時代の地磁気の変動の様子を明らかにする研究です。

岩石や土には、俗に砂鉄と呼ばれている鉄の酸化物が少量含まれております。これらは磁気テープの材料と同じ仲間、磁石になることが出来ます。一方、地球は何億年も前から磁場（地球磁場、あるいは、地磁気という）を持っています。いわば、地球は大きな一つの磁石であるといえます。マグマが固まって岩石が出来るときも、堆積物が堆積するときにも、地中や地表に作用している地球磁場の影響を受け、岩石や地層、土層もそのときの地磁気の方に磁化されます。このようにして獲得された磁化（残留磁化という）は非常に安定なものが多く、何億年経っても磁化方向や磁化強度が変わらないまま保存されています。したがって、これらの残留磁化は過去の岩石ができた当時の地磁気を記憶している‘地磁気の化石’であるといえます。このような岩石や土が持っている残留磁化を測定することによって、昔の地磁気の変動を復元することができます。それによって、地層の年代を推定したり、過去におきた大規模な地殻変動の様子を明らかにしたりすることができます。さらには、過去の環境の復元にさいしても重要なデータ源となります。このような少々浮き世離れをしたテーマの研究をしております。

今後ともどうかよろしくお願い申し上げます。



## 分析ならおまかせ

理工学研究科生物圏環境科学専攻1年

高橋 憲 司

最近、二酸化炭素、フロンやダイオキシンなどの化学物質による環境問題がニュースや新聞に多く取り上げられ、社会的な関心が高まっています。私たちの環境化学計測 I 講座は田口先生、笠原先生、波多先生の指導のもとで化学的な視点から環境科学について取り組んでいます。具体的には、環境水中に存在する微量有害成分（重金属、界面活性剤、etc.）の分析法の開発や改良、廃水中の有害物質の除去法についての研究を行っています。私は、シャンプーや台所用洗剤に含まれている化学物質（界面活性剤）の分析法の開発について研究しています。この新しい分析法では薄膜に界面活性剤を捕集し、界面活性剤に含まれる硫黄を測定して直接界面活性剤の濃度を求めます。今、この分析法における共存イオンの影響や測定機器の精度などについて、検討しています。私たちは新しい分析法を開発すると、環境水（海、川、池、用水など）に応用します。美しい海や川などでサンプリングするときは、とても気持ちが良いのですが、まるでドブのように汚れた川などのサンプリングは臭いなどのために非常に辛い作業になります。その後、採取してきたサンプルを用いて、開発した分析操作が環境水に応用できるのか、ま



セミナー風景

た環境水には目的成分がどのくらい存在するのかなどを調べています。このように、学生達は研究に没頭しているのですが、そこへ学生達には試練が訪れます。それは、英語の論文をみんなにわかりやすく紹介するセミナーです。発表する学生達は、熱気による暑さのためなのか、質問のためなのか定かではないのですが、額に汗を浮かべながらがんばっています。これまでの内容を読んでいると、この研究室は少し堅いイメージを持たれるかもしれませんが、それを吹き飛ばしてくれるいろいろな行事があります。お花見コンパ、中間発表後のコンパ、ゼミ旅行、他大学の研究室とのスポーツ交歓会、忘年会やスキー旅行など盛りだくさんです。この中で特に楽しいのが一泊二日のスキー旅行です。スキー旅行は、学校も休め、スキーもでき、温泉にまで入れるため、みんな大はしゃぎです。しかも、いつもと違う先生の子供のような顔まで見られます。

まあ、そんなこんなで忙しく、しかし楽しい一年をこの研究室で過ごしています。

(学園ニュースNo.97より)

## 総会ご案内

会員の皆様には益々の御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、本年度同窓会・総会並びに講演を下記の通り開催致しますので、ご案内致します。なにとぞ多数のご参加をお待ち致します。

尚、当日は懇親会を予定しております。会場等の準備の都合がありますので、出欠の返事を7月30日までに同窓会事務局までお送り下さるようお願い致します。

### 記

日 時：平成11年8月7日（土）午後2時～

場 所：高志会館（富山市千歳町1-8-1）

TEL 076-441-1776

会 費：1,000円

講演会：演題：気象衛星「ひまわり」からの気象観測

講師：富山地方気象台長

中島 忍 氏（数学科出身）

富山大学理学部同窓会

会長 平田 卓 郎

## 理学部同窓会特別会員の異動

### ・退 官

H10. 7. 27 尾島 十郎 合成有機化学

H10. 9. 30 小島 寛 生物圏機能

### ・新 任

H10. 7. 1 清水 正明 地球進化学

H10. 9. 1 川村 隆一 地球ダイナミクス

H10. 10. 1 西村 格 生物圏機能

H11. 4. 1 藤 浩明 地球ダイナミクス

H11. 4. 1 木村 巖 数理解析

H11. 4. 1 成田 欣弥 生体制御学

H11. 6. 1 宮澤 眞宏 合成有機化学

### ・転 出

H10. 10. 1 細野 忍 情報数理（東京大学大学院数理科学研究科）

H11. 4. 1 宮崎 隆文 反応物性化学（愛媛大学工学部）

H11. 4. 1 塩原 肇 地球ダイナミクス（東京大学地震研究所）

## 富山大学理学部同窓会役員名簿

1999年度

最高顧問： 小黒千足（前富山大学学長）

名誉会長： 廣岡公夫（理学部長）

会 長： 平田卓郎（1化）

副会長： 石川 克（1数） 高桑 昇（2生）

常任理事： 菅谷 孝（16数） 常川省三（12物） 高安 紀（13化）

内山 実（20生） 川田邦夫（14物） 笠原一世（27化）

監査委員： 高井正三（21物） 西井 淳（28化）

# 会報

第 19 号

平成12年7月10日

富山大学理学部同窓会

〒930-8555 富山市五福3190

電話 076-445-6143



富山大学正門前

## ヘルン生誕150周年を祝う

同窓会長 平田卓郎

同窓会員のみなさん、お元気ですか。本年は、ラフカディオ、ハーン (Lafcadio, Hearn 小泉八雲1850~1904) の生誕150周年にあたることになる。生地は、ギリシャ・アイオニア群島内のラフカード市という。

母校の富山大学理学部は、人文学部とともにその前身の旧文理学部からの分離独立による。

旧文理学部（富山市蓮町）に小泉八雲図書館として、すてきな白い建築物で独立した「ヘルン文庫」があった。このヘルン文庫は、さらに前身の旧制富山高等学校から受けついできた。

旧文理学部跡地は、現在、馬場記念公園として整備されているのは、周知のとうりである。

富山大学も開学50周年記念事業として、同窓会員諸賢および諸企業のご協力を得て昨年（1999）に終えたところであり、心から感謝している。

「馬場記念公園を愛する会（会長 米田壽吉氏）」は旧制富山高校同窓会、富山大学人文学部同窓会、理学部同窓会、岩瀬地域自治会、有志などで成立している。そして、この記念公園のもつ意義ある歴史とその文化を新しくよみがえらせたいと、数年来から馬場はる刀自胸像建立と、旧正門、通用門の復元、旧ヘルン文庫跡碑など建ててきた。あわせて、社会へのヘルン文学の普及にも数多くの活動專業に努めている。

また、近年、山口蚊象氏による旧ヘルン文庫図書館の設計図が発見され、建築物そのものが、きわめて貴重なものであることが分かってきた。そこで、この会では「ヘルン文庫記念館」として復元されるように強く希望し、富山県、富山市にその復元方をたびたび要望しているところであり期待される。ヘルン文庫をうけつぐ富山大学は、ヘルン関係文献目録の改訂版、電算化によりヘルンに関連のある島根大学、熊本大学とともにヘルン関係資料を世界にむけて情報発信しているときく。

日本を世界に紹介し、日本をこよなく愛したハーンを讃え、生誕150周年を祝い記念事業が計画されている。

第1日 2000年11月11日(土) 県民会館3F国際会議場

記念講演（佐伯彰一氏）、パネルディスカッション

第2日 11月12日(日) 富山市能楽堂

特別講演（メッツィンガー、村越正明氏）

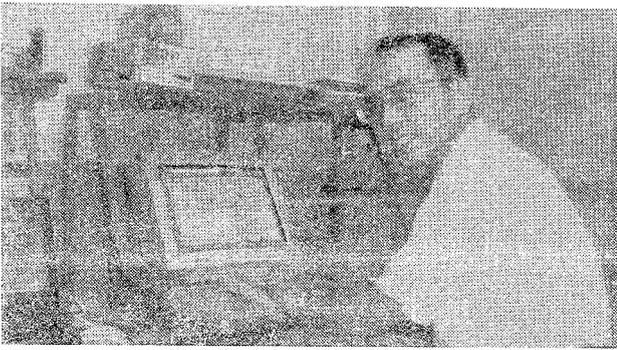
語り「耳なし芳一の話」など

くわしくは、新聞、テレビなどをご覧になりふるってご参加をお願いしたい。

同窓会諸賢のますますのご発展を祈ってやみません。

# 三十路の手習い — 芸は身を助くか滅ぼすか —

理学部助教授 栗本 猛



四十になってしまった。子供のころには全くのおじさんとか思えなかった年齢である。しかしまあ、なってみると三十九と四十でさほど変わりがあるわけではなく、自分ではこれまでと同じつもりでいる。(しかし体力と髪の毛は年々少しづつ着実に衰退しつつある。) 少年老い易く学成り難しと言われるように、身体は確実に老いていくが学業の方の進歩は亀の歩みのごとしである。それでも何か新しい事に出会える喜びを求めて、本業である物理の研究をはじめとしてコンピュータの最新情報や面白い小説、映画の情報などを求めて書籍や電子メール、WWWに目を光らせながら日々を過ごしている。

さて、この特集のテーマは「学ぶことの楽しみ」であり、主旨は執筆者が学生時代に今の研究分野を専攻するに至った経緯を紹介するということだと聞いているが、主旨に沿ったお話は他の方々が書かれると思うし、私の学生の頃に物理の本を読んでどうこう感じたという話をするのもいささか飽きるので、本来の主旨からは外れるがこの十年来「学ぶ事を楽しんでいる」事柄についてお話をさせていただくことにする。その事柄とはコンピュータとネットワークの利用と管理である。

昨今のコンピュータとネットワークの発展は

著しく、CMにもホームページのアドレスが表記してあるのが当然の時代である。富山大でも全ての学生にメールIDが与えられ、総合情報処理センターや各学部の端末を自由に使えるという良い環境が整っている。最初はとまどうかもしれないこの電腦環境も、慣れると机上のコンピュータで情報検索、資料の収集と整理、当然ながらの計算、文章作成、成果発表、業務連絡などなど、ほとんど仕事の全てができてしまい、もう分厚い書籍と計算用紙とペンの時代には戻りがたくなっている。娯楽の面でも友人たちとのメールを通じた会話が電話より安くでき、WWWのどこかを覗けば面白そうな情報が世界中に散らばっている。できあがったシステムを使うだけのユーザーとしては極楽に近いこの環境も、いざ自分で環境を整えたり、システム管理をやる羽目になると、悪戦苦闘、七転八倒、暗中模索の日々が続くことになる。しかしそういう日々を乗り越え自分の目的とするところを果たし得たその時は、えも言われぬ喜びと感動を覚え、再びその喜びを味わいたくてより深いゾーンへと突き進み苦行の日々をまた続けるのである。これはまさに学術研究でたどる道そのものではないか。

そもそも私がこの道に足を踏み入れるきっかけとなったのは、三十少し前に当時在籍していた大学の物理学教室のネットワーク管理をやる羽目になったからである。十年程前はまだ今のようにネットワークは発達しておらず、少数の大学や研究所だけがインターネットに接続しており、その中でも少数の教室や研究室だけが実際にインターネットを利用していた。ところが、補正予算とやらのおかげで情報化対策にはお金

が出るということになり、この際大学のほとんどの研究室にネットワークを張ってしまえということになった。富山大ではセンターがかなりの部分面倒を見てくれているが、私がいた大学ではネットワークまでは張ってあげるがあとの部局ごとの管理は自力でやんなさい、という方針であり”誰かがそれをやらねばならぬ”状況に置かれたのであった。

私は、それ以前からパソコンをいじるのは好きであり、やっと給料をもらえる身分になったので経済的にも潤ってNEC系のパソコンや当時は高価だったMacを買って使っていた。研究室にも数台のパソコンがあり、それらの面倒をみてはいた。しかしそれらはネットワークにはつながっておらず、独立したパソコンを管理するのとネットワークに接続したワークステーションを管理するのでは雲泥の差があることくらいはおぼろげながらも知っていた。当時の物理学教室には私以外にもコンピュータの達人といわれる人が数人いたが、それぞれ事情があって忙しく、比較的若くて頼めばことわれない性格の私に白羽の矢がたったというわけである。指名した方はパソコンの延長くらいにしか考えてなかったかもしれないが、少しながらも事情を知っているこちらとしては『これはとても片手間にはできない仕事だ』と覚悟を決め、もともと嫌いな事ではなし、どうせならしっかりとした仕事をしてやろうと決意したのであった。

それからの半年は本業を脇へ追いやって集中的にネットワーク管理の勉強に取り組んだ。システムのプラン作り、管理用ワークステーションの導入とその設定、教室内のネットワーク配線工事の立ち会いなどなど、実際に運用が開始されるまでの半年に学ぶべき事、やるべきことはいくらかもあった。半年後に実際に順調にネットワークの運用ができるようになった時には、自分が学んだことが実際に役立っていることに大いなる喜びを感じたものである。私の専門は

素粒子物理学理論である。現実の世の中にすぐに役立つしろものではないし、また役立つことに主眼を置いているわけではない。ほとんど純粋に自然のしくみを知りたいという好奇心、探究心でやっている学問である。そういう世界で過ごしてきた自分にとっては、学んだ事、考えたことがダイレクトに反映される状況は新鮮であり、興味深いものであった。

ネットワークシステムが無事に立上り、仕事も一段落ついたので本業の物理の研究にまた集中できるかと思っていたが、そうは問屋が卸さなかった。システムの維持管理・運用というのもこれまた大仕事であり、やれネットワークが継らないやら、このソフトを入れてくれやらとユーザーからの苦情、注文が絶えない。おまけにコンピュータとネットワークの世界は現在では最も進歩の速い分野の一つである。新しい技術、情報が日々飛び込んできて、システムもそれに合わせていかないと時代遅れで使いものにならなくなったり、セキュリティのことも考えねばならない。日々の全てとはいわないまでもかなりの時間をシステムの守りに割くようになってしまった。この状況は富山大に移った今でも変わらないが今ではそれを半分楽しめる気持ちになってきた。本業の物理ではいささか浮世離れた自然の真理に思いを馳せ、コンピュータネットワークの方では現実に結び付いたすぐに反応が帰って来る世界に目を向けることができる。両方の世界が楽しめるわけである。コンピュータネットワークの技術を物理の研究における情報交換の手段として有用に役立てることもできるし、物理の手法をコンピュータの世界で活かすことはできないかと考えるのも楽しいことである。しばらくは二足のわらじであちこちをめぐってみようと思っている。

(学園ニュースN0100号より)

## 総会ご案内

会員の皆様には益々の御健勝のこととお慶び申し上げます。  
さて、本年度同窓会・総会並びに講演を下記の通り開催致しますので、ご案内致します。  
なにとぞ多数のご参加をお待ち致します。  
尚、当日は懇親会を予定しております。会場等の準備の都合がありますので、出欠の返事を8月4日までに同窓会事務局までお送り下さるようお願い致します。

日 時：平成12年8月12日（土）午後2時～

場 所：高志会館（富山市千歳町1-3-1）

TEL 076-441-1776

会 費：1,000円

講演会：演題：内分泌攪乱化学物質「人と野生動物への影響について」

講師：内山 実 理学部教授（生物学30回卒）

## 富山大学理学部同窓会名簿購入案内

拝啓、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本年度同窓会会員名簿を発行いたします。

つきましては、名簿購入希望者は、同封の郵便振替用紙にて代金を送付下さいますようお願い申し上げます。

なお、代金の送付なき人は購入出来ませんのでご了承下さい。

敬具

締 切 日 平成12年1月31日

領 額 1部 4,000円（送料含む）

送付予定日 平成12年4月上旬

## 理学部同窓会特別会員の移動

### ○ 退官

平成12年3月31日 菅井 道三 生体制御学

平成12年3月31日 西村 格 生物圏機能

### ○ 新任

平成11年8月1日 山本 浩司 合成有機化学

平成12年4月1日 神阪盛一郎 生体制御学

平成12年4月1日 稲 石 伊 紗 子 反応物性科学

### ○ 死去

平成11年10月4日 近 堂 和 郎 物性物理学

# 会報

第20号

平成13年7月10日

富山大学理学部同窓会

〒930-8555 富山市五福3190

電話076-445-6143



理学部1号館東側:メタセコイヤ

## 総合研究棟の新築を喜ぶ

同窓会長 平田卓郎

理学部同窓会の誕生は、富山大学第1回卒業式の昭和28年(1953)3月20日であった。

その後の会員諸賢の活躍はめざましく、本会の30周年記念(1983)、40周年記念(1993)行事を挙げてきた。

平成15年(2003)には、50周年記念の開催となり、今から心の準備をしておく必要があり、よろしくお願ひしたい。

この度、理学部1号館の東側に、7階建の立派な大学院理工学総合研究棟の新築が概算要求で通っていて、3年計画で建設されるという。1、2階は、企業との共同研究のためのベンチャービジネスラボラトリー、3階以上は博士課程の研究を含む各専攻のオープンラボラトリーとなるらしい。このため、完成後のあかつきには、会員諸賢とも関連し、地域のみならず、全国、世界の産業文化の進展に、情報発進地として大いに貢献できるものと期待される。

現在、1号館の東側には、活きた化石といわれる中国原産のメタセコイヤや本県を代表するコシノヒガンザクラの起源とされるエドヒガンとカスミザクラが繁っているが、これらのうち、サクラは環境、教育、また研究用として移植されることが望まれている。

母校の充実と進展は同窓会員の喜びであり、誇りとなる。

8月11日(土)の同窓会総会、講演、懇親会にぜひ出席をお願いしたい。

同窓会員諸賢には、今後ますますご研鑽をつまれ、ご発展されることを祈ってやみません。

# 恐竜の足跡

—古地磁気から見た恐竜がいた頃の北陸—

富山大学理学部地球科学教室 廣岡 公夫



## 恐竜足跡化石の発見

平成7年（1995年）の梅雨期に富山県大山町の黒川の上流域で工事用の道路の山側の法面が崩れ、約1mの厚さの地層が400㎡にわたって傾斜した地層面に沿ってずり落ちた。露出した地層面には、夥しい数の大小様々の恐竜や鳥類の足跡がはっきりと残されていたのである。かつて、1億年以上も前に恐竜がここを歩き回っていたときの足跡が、1億年の眠りから醒め、私たちの眼前に姿を現したのである。このような多数の足跡化石が1箇所から発見されたのは日本でははじめてのことであった。この貴重な化石露頭を保存・活用するために、富山県教育委員会と大山町では、富山県恐竜足跡化石調査委員会を平成11年の秋に結成し、調査・検討に入った。

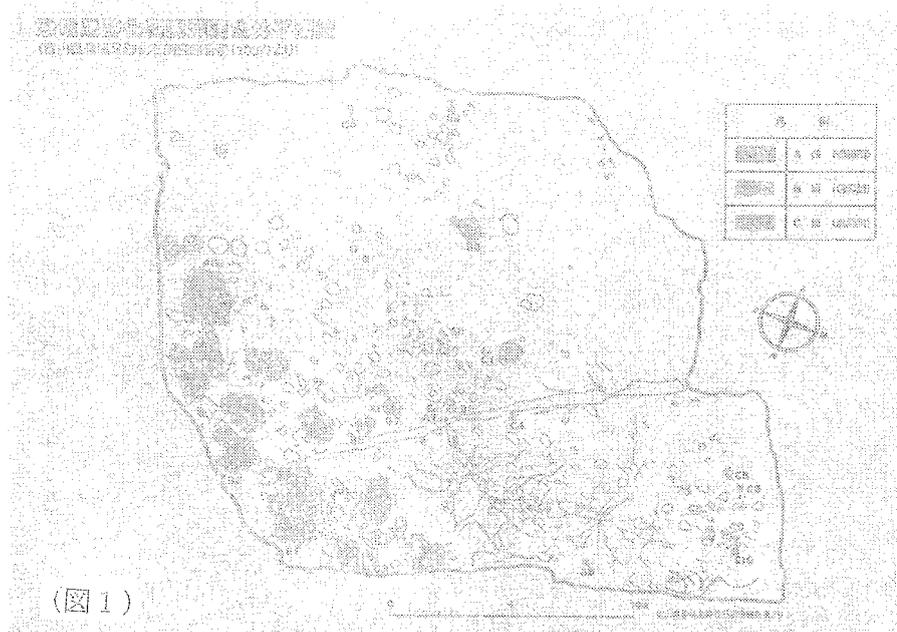
詳しく調べた結果、約400㎡（20m×20m）の

露頭面に少なくとも4タイプの足跡化石がみられ、総数302個に上った（図1）。中には左右の足跡がならんで残っている連続歩行の足跡もあった。足跡化石が残されていた地層は、中生代の手取層群と呼ばれているものである。同露頭では肉食恐竜の歯も2本発見されている。

## 手取層群

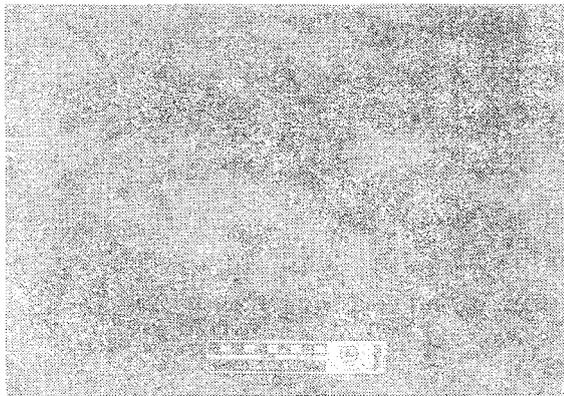
今から1億7千万年前頃のジュラ紀中期に福井県と岐阜県の県境付近の窪みは浅い海となっていた。背後には陸地があり、湾のような状態であったと思われる。その後、この付近の地域が隆起し、窪みは海とは切り離されて湖となつて、東の方に広がり、福井・石川・富山・岐阜の4県の県境付近一帯を占めるまでになっていた。この状態は、1億1千万年前頃（白亜紀前期）まで続いていたと考えられる。この湖に堆積した地層は、白山連峰に発し石川県の中部に流れる手取川流域に分布しているのので、その名をとって「手取層群」と名付けられている。

地層の厚さが3000mにも達するほどの手取層群は、下位（古い方）から九頭竜亜層群、石徹白亜層群、赤岩亜層群の3亜層群に区分されており、大山町の足跡化石の露頭面は一番上（新しい）の赤岩亜層群に属するものと考えられている。足跡と一緒に樹木の根の部分の化石も残っており、林に囲まれた手取湖のほとりのやわらかい泥質の波

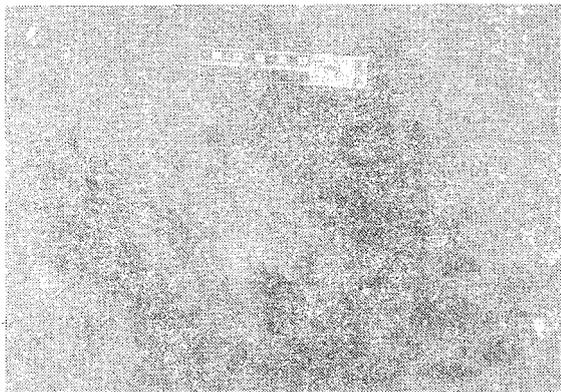


打ち際を何匹もの恐竜が行き来していた様子が眼に浮かぶ。

富山県恐竜化石調査団が昨年の夏に足跡化石の露頭の東隣の部分を約150㎡にわたって発掘調査したところ、アンキロサウルス類（ヨロイ竜の仲間）と思われる足跡が発見された（写真1）。アジアでも今までに中国で1例見つかっているだけで、勿論、日本では初めてのものである。しかも、カナダや中国で発見されているアンキロサウルス類の足跡化石より時代が古い。今年の夏にも調査団による発掘調査が予定されており、「乞う御期待」というところである。



アンキロサウルス類右前足(24)



アンキロサウルス類左後足(22) (写真1)

### 古地磁気学

私の専門は古地磁気学および考古地磁気学と呼ばれるもので、岩石や地層、堆積物、焼土などに残留磁化の形で残されている過去の時代の地磁気の記録を読み取り、昔の地球磁場を復元することが仕事である。

今までの古地磁気研究の成果によって、大陸

移動説が証明されたり、地磁気の逆転を利用して、世界中の海洋底の年代が明らかにされたりしており、地球科学の分野に大きく貢献している。日本での成果は、1500万年前頃に起きた日本海の拡大に伴って日本列島が本州中央部で折れ曲がるような変形が起き、現在の弓なりの本州弧の形が出来上がったことや、西南日本の中・古生代の地層はほとんど赤道地域で堆積した後に北上し、アジア大陸の東端に達し現在の日本列島の土台が形成されていったこと、伊豆半島は、5~3百万年前頃に本州中部に衝突し、日本列島の一員に加わった最も新しい新参与者であることなどが明らかにされたことである。



(図2)

## 恐竜がいた頃の北陸

古地磁気を調べると、残留磁化の伏角と偏角から、その岩石や地層が生成した場所のそのときの緯度と北の方角がわかるので、時代を追っていろいろな年代の地層を測定すると、その地塊がどのような動きをして現在に至ったかを明らかにすることができる。

手取層群の古地磁気の研究を行ったところ、約1億7千万年前頃に堆積した九頭竜層群は北緯24°（現在の台湾くらいの緯度）辺りの位置にあった。その後、北上を続け、約1億3千万年前頃の石徹白層群は北緯30°（現在の鹿児島くらいの緯度）付近で堆積し、赤岩層群の頃（約1億2千万年前）には現在の緯度を通り越して、北緯40°を超えた

ところで堆積したことが判明している。多分、アジア大陸に接して大陸の東端部を形成していたのであろう。その後、日本海が拡大し、それに伴って手取層群は南東方向に押し出され、現在の位置にきたのである（図2）。

写真1 アンキロサウルス類の右前足と左後足の足跡化石（富山県恐竜化石調査団 提供）

図1 恐竜足跡化石露頭面平面図（富山県恐竜足跡化石調査報告書、1997による）

図2 手取層群の北上（福井新聞、1999年1月1日 掲載）

## 総会ご案内

会員の皆様には益々の御健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、本年度同窓会・総会並びに講演を下記の通り開催致しますので、ご案内致します。なにとぞ多数のご参加をお待ち致します。

尚、当日は懇親会を予定しております。会場等の準備の都合がありますので、出欠の返事を8月4日までに同窓会事務局までお送り下さるようお願い致します。

日 時：平成13年8月11日（土）午後2時～

場 所：高志会館（富山市千歳町1-3-1）

TEL 076-441-1776

会費：1,000円

講演会：演題：古地磁気から見た恐竜がいた頃の北陸

講師：廣岡公夫 理学部教授

## 理学部同窓会特別会員の移動

### ○退 官

平成13年3月31日 高木光司郎 量子物理学

### ○新 任

平成12年10月1日 山崎 裕司 生体制御学

平成13年 4月1日 森脇 喜紀 量子物理学

平成13年 4月1日 光田 暁弘 量子物理学

### ○転 任

平成13年 4月1日 川田 邦夫 極東地域研究センター

# 会報

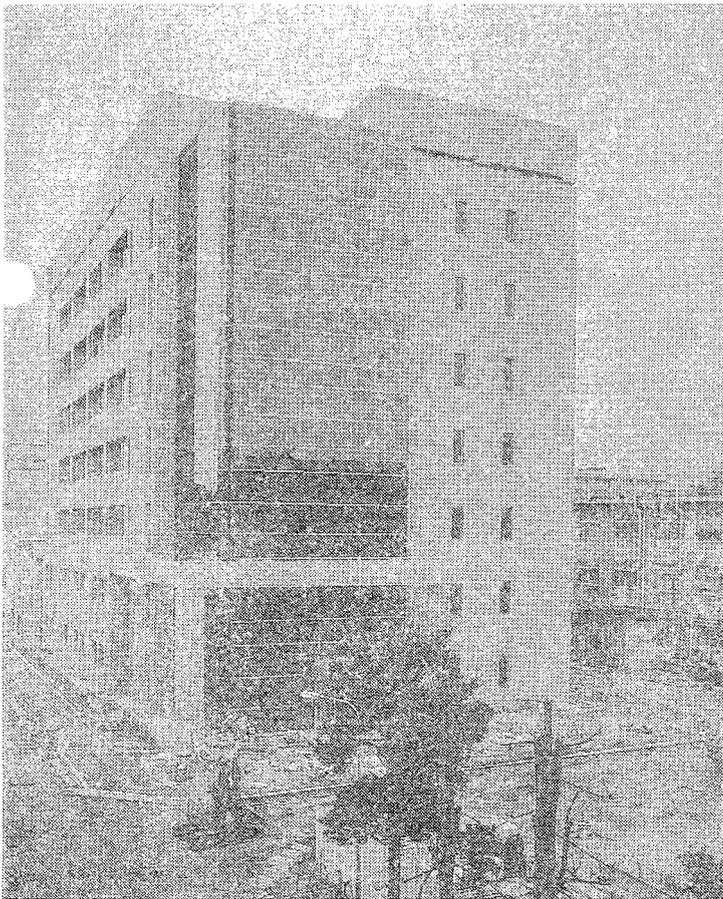
第 21 号

平成14年7月10日

富山大学理学部同窓会

〒930-8555 富山市五福3190

電話 076-445-6143



総合研究棟(理学部東側)

## 50周年記念

同窓会長 平田卓郎

同窓会員のみなさん、お元気ですか。4月から学校週5日制が完全実施されましたが、これは、休業日が増え、授業日が減ったというだけではない。わが国の教育水準にかかわる重大な変化であります。特に科学技術の水準にかかわる重大な問題であります。

他国に比べ、今まで土曜日も授業があつてこそ、世界のトップレベルの基礎学力を保持してこれたし、敗戦後の困苦から、早く復興し、いち早く先進国の仲間入りができたのも、そのおかげであるといつても過言ではありません。他の先進国には日曜学校があり、生涯学習が活発であります。わが国には、今のところ若年者に対する生涯学習がたいへん不足している現状があ

ります。このときこそ若年者に対して土・日の科学学習を充実していかなければなりません。

さて、来年(2003)は、本同総会創立50周年にあたります。記念すべき行事を開催し、同窓会員のみなさんとともに有意義に心から祝い合いたいと計画しております。

富山大学の第1回卒業式は1953(昭和28)年3月20日でした。同時に本会が創立されその後、半世紀の間に、30周年、40周年記念行事もそれぞれ有意義に挙げてまいりました。このたび、7階建の立派な理工学科総合研究棟の建設も進み、移転も順次行われていると聞いております。この際、他の学部と同様に同窓会のみなさんのご賛同を得て、記念として「理学部・理工学研究科」と銘うった石彫を前庭に寄付したらどうかという話がもちあがっております。この総合研究棟が完成すると、会員諸賢とともに、科学技術の進歩に、わが国のみならず、世界に大いに貢献できると信じております。8月11日(日)の同窓会総会、講演、懇親会に、ぜひご出席をお願いします。同窓会諸賢の今後いよいよご発展されるように祈っております。

# 大学は独創のゆりかごー雪氷学からの贈り物

富山大学理学部地球科学科 対馬 勝年



理学は本質を見極めようとする。人々の心の奥深く、潜在意識の底まで突き動かす真理を探究する。私は理学は独創の揺りかごであると思ってきました。講義の中で溢れるほど

の独創が披露されている。

同窓会総会講演を頼まれて、どういう話が良いか考えた。卒業生にこの一回の講演で転機をもたらすような贈り物はできないものだろうか？それが私の探求課題となった。

今回、私の最も大事な独創を皆様にプレゼントしたいと思う。雪氷学というなじみの薄い専門領域であるが、触発される所があれば幸いである。

家庭用冷蔵庫で「透明氷」：氷筍リンクの応用として、「製品化」が進められていると書いたら驚くだろうか。透明氷製氷は業界の永遠の夢であった。それを氷筍が解決した。さらに、ビタミン含有氷、透明な色つき氷などの開発も見えてきた。

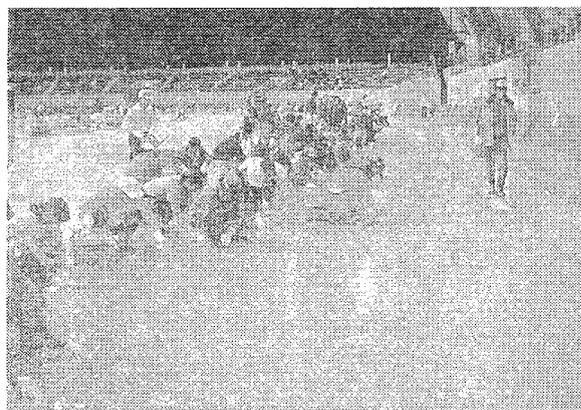
コペリン（二硫化銅）の薄膜結晶が実現すれば、氷筍リンクは世界の競技会に必須のものになるだろう。

熱サイホン発電は世界的にもユニークな発電方式である。滝を逆さにしたように猛烈な勢いで気体と液体がパイプを昇る。上端のダムに溜まり、落下する液体の力でタービンを回し発電される。低落差ほど輸送される液体の量が多く（蒸気の10倍にもなる）、落差40m程度、40℃程度の低温でも熱源として利用できる。雪を冷熱源とすると、雪の40倍もの液体がダムに移動する。日本列島の冬、冷凍庫に入る地域は少な

くない。その寒さが発電の資源となる。

21世紀は世界中に水を巡る争いが懸念されている。真空中では水が極めて蒸発しやすくなることに注目すれば、大量の真水を得る技術開発も可能と想像される（詳細は講演で）。

凍結で液体中の水分は純氷となり、溶存物質は濃縮される。凍結海水の氷は真水を与え、濃

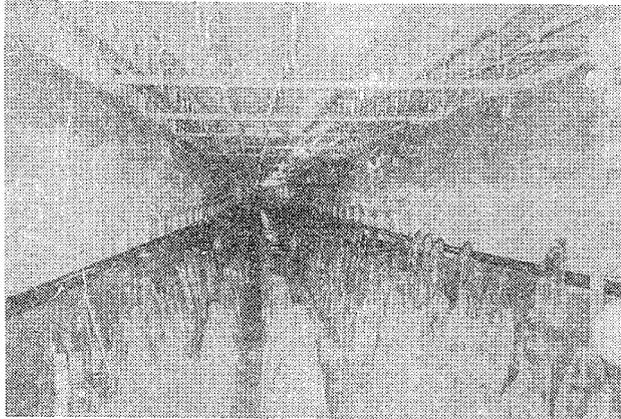


エムウェーブでの氷筍のはりつけ

縮塩分は塩の結晶を与える（南極に製塩工場？）。これには寒いほど有利である。産業廃液も凍結濃縮できる。濃縮物からのリサイクルが将来の課題となる。凍った豆腐は高野豆腐、保存食になる。凍結操作による改質である。様々なものに凍結操作を施すことで、有用な物質に変えることが出来るであろう。処理の困難な汚泥も凍結・融解によって、処理しやすくなる。

高圧物理では、水に圧力を加えると氷点が下がる。タンク内の魚に圧力を加えながら、冷やしていくと氷点下10℃でも魚は凍らない。圧力を抜くと、魚は瞬時に凍って冷凍される。この急速凍結によって、魚の鮮度は最高度に保存され、解凍したときには生きた魚のように復元す

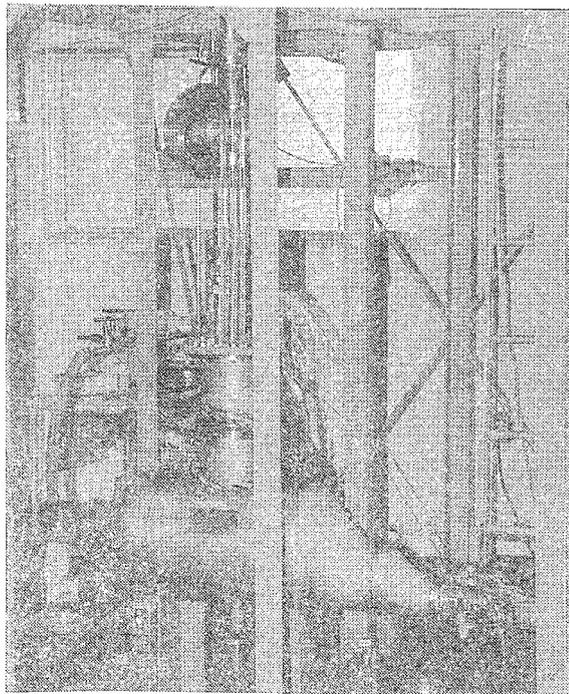
るであろう。冷凍が不可能と言われたイチゴまでこの方法で冷凍される。新産業が手の届くところに転がっている。



氷筈(単結晶氷)の人工育成室

地球科学では地中レーダーが使われている。私は自動車やヘリ、航空機にレーダーを搭載し、吹雪など視界困難を克服する電波メガネの開発があると思う。ヘリが離島の上まで達しながら雲に視界が妨げられる理由だけで引き返す愚も避けたいものである。

不便さの中にベンチャーの芽が潜んでいる。降雪時の高速運転で、ワイパーに雪が付着し、浮き上がり、視界不良をきたす。この解決法は



熱サイホン発電装置

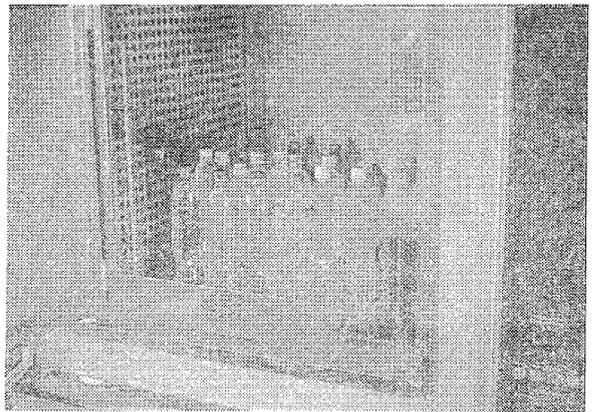
講演に譲るが、容易に解決できると思われる。

雨や雪から、酸性雨や酸性雪の程度が容易に判定される。しかし、雨が降らなければ、環境の計測は容易でない。ここでは私が新しく手かけた24時間計測を可能にする環境科学計測を披露したい。皆様に世界に発信する機器に仕上げていただきたい。

炭酸水過冷却の驚異をご存じだろうか？現場で実演したい。さて、この応用はどうか！

安全な屋根雪下ろし器具の開発。放射冷却をエネルギー源と認識し、開発することも人類の英知の一つであろう。

地球科学の話題を一つ：地球は太陽の引力を受けている。太陽は8つの惑星、惑星付属の衛星、多数の彗星、微惑星などをしたがえて家族



各種炭酸水、レモン水、蒸留水の過冷却試験

を構成している。太陽の家族支配力は万有引力である。太陽は天の川銀河に所属しありふれた星といわれる。では2000億個といわれる天の川銀河の星々をまとめている力は何か？太陽系からの類推で、銀河中心に巨大なブラックホールがなければならぬ。太陽の1000億倍の質量といわれるが、太陽系からはもっと桁違いに大きい値が類推される。太陽の速度計測に誤りがあるのではないか？彗星と原子模型の類似も話したい。

## 総会のご案内

会員の皆様にはますます御清祥のこととお慶び申し上げます。  
さて、本年度同窓会・総会並びに講演を下記の通り開催致しますので、ご案内致します。  
なにとぞ多数のご参加をお待ち致します。  
尚、当日は懇親会を予定しております。会場等の準備の都合がありますので、出欠の返事を8月2日までに同窓会事務局までお送り下さるようお願い致します。

日 時：平成14年8月11日（日）午後2時～

場 所：高志会館（富山市千歳町1-3-1）

TEL 076-441-1776

会 費：1,000円

講演会：演題：大学は独創のゆりかご—雪氷学からの贈り物

講師：対馬勝年 理学部教授

### 理学部同窓会特別会員の異動

#### ○ 退職

平成14年3月31日 櫻井 醇児 物性物理学

平成14年3月31日 山本 浩司 合成有機化学

#### ○ 辞職

平成14年3月31日 成田 欣弥 生体制御学

#### ○ 転出

平成13年10月1日 辻 瑞樹 生体構造学（琉球大学農学部へ）

平成14年 2月1日 川崎 一朗 地球ダイナミクス

（京都大学防災研究所地震予知研究センターへ）

#### ○ 転入

平成13年10月1日 川上 貴教 物性物理学

#### ○ 採用

平成14年 5月1日 前川 清人 生体構造学

### 訃報

慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成13年9月29日 鈴木 正昭 理学部教授（数理解析）

平成14年4月 7日 川瀬 義之 元理学部教授

# 会報

第 22 号

平成15年7月9日

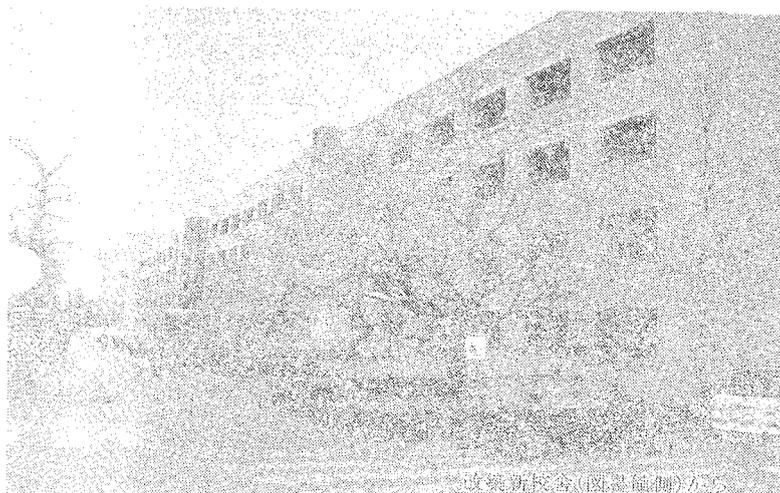
富山大学理学部同窓会

〒930-8555 富山市五福3190

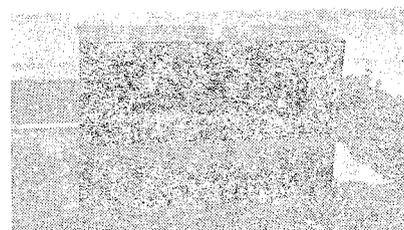
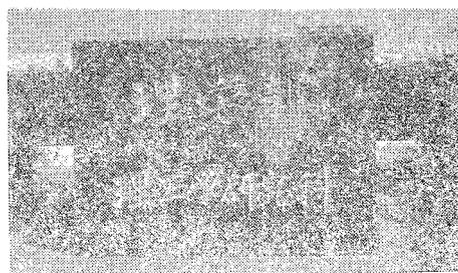
電話 076-445-6143

E-mail : alumni4@sci.toyama-u.ac.jp

URL http://www3.toyama-u.ac.jp/%7Ealumni4/



改築新校舎(旧校舎側)から



富山大学理学部 平岡同窓会 石標除幕式

## 50周年記念を祝う

同窓会長 平岡卓郎

同窓会員のみなさんお元気ですか。思えば理学部同窓会の創立は、1953（昭和28）年3月20日であった。本2003（平成15）年は、ちょうど50周年記念にあたる。この半世紀間の同窓会諸賢の活躍はめざまし

いものがあり、大変うれしく思っている。

理学部校舎は耐震構造を持つ建物に改築され、同校舎の東側には7階建の理工学総合研究棟がそびえている。去る4月28日に、創立50周年を記念して、「理学部・理工学研究科」と銘うった石標の除幕式が挙行されたことは、諸賢の周知のとおりである。

国立大学の法人化にともない、理学部のさらなる発展をとげるため、「理学部後援会」を創設して、理学研究の充実に資するという話がもちあがっている。母校の発展と充実は、同窓会員の喜びであり、誇りでもある。また、名簿作成の機会に既刊「富山大学五十年史」の部局編「理学部」のCDを配布しようという意見もでている。

8月9日（土）の同窓会総会・懇親会にぜひ出席されるのをお待ちしている。同窓会諸賢には、今後ますます研鑽を積まれ、ご健勝のほどを祈ってやまない。

# 国際宇宙ステーションで植物を育てる

富山大学理学部生物学科 神阪盛一郎



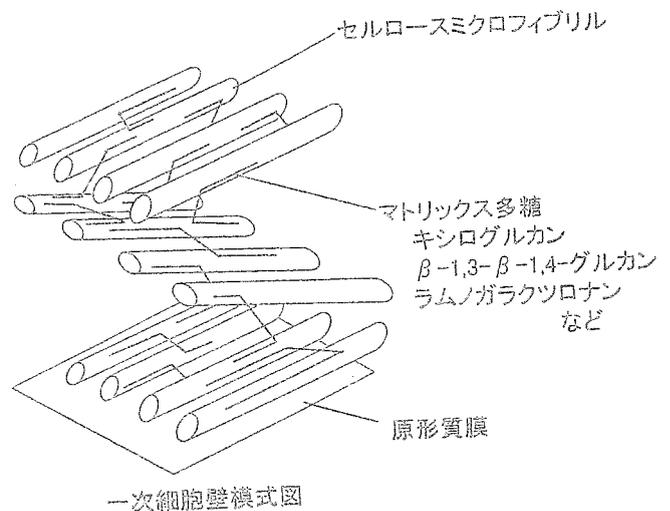
約20億年前に原始の海で生まれた緑色植物は、水中ではあまり重力刺激の影響を受けずに生活していました。しかし、約4億年前の古生代シ

ルル紀に海から陸上に進出したとき植物は、1gの重力刺激のもとで生活しなければならなくなりました。そのために、陸上植物はいくつかの仕組みを発達させました。

一つは重力屈性です。重力刺激を認識できない植物のミュータントの種子では、発芽したとき根が土の中を下に向かって伸びるものはわずかで、多くの個体の根は地表に飛び出してしまいます。また、発芽しても茎がまっすぐ上に伸びないミュータントもあります。しかし、野生型の正常な植物では発芽するとすぐに根は下に、茎は上に向かって伸びます。また、野生型の植物体を横倒しにすると、根は下に、茎は上に曲がって成長します。重力によって、このように植物の器官の成長方向が変化することを、重力屈性といいます。海から陸上に進出した植物は重力屈性という能力を獲得することによって、根を地下に伸ばして水分と栄養分を吸収し、茎を上を伸ばして葉を空間に配置することで、光合成が効率良く行えるようになりました。

1g環境下で生活していく内に獲得したもう一つの仕組みは、細胞壁の強化です。植物よりずっと遅く陸上に進出した動物

は、骨と筋肉を用いて1gのもとで身体を支えています。陸上植物は細胞壁を用いて地上部を支えています。微小重力環境では、ヒトの筋肉や骨が弱くなること



が良く知られています。陸上植物の細胞壁も微小重力下では弱くなるのでしょうか。

この答えは、1998年の秋、ケネディスペースセンターを飛び立ったスペースシャトル、チャレンジャーで私たちのグループが行った宇宙実験で得られました。当時私が所属していた大阪市立大学の植物生理学研究室は、イネやシロイヌナズナを宇宙の微小重力下で育てると、茎の細胞壁が力学的に弱くなって伸びやすくなることを、世界で初めて発見しました。

細胞壁は、結晶性のセルロースマイクロフィブリルのネットワークとその間隙を埋めている無定形のマトリックス多糖分子やタンパク質から構成されています。私たちが行った地上での過重力付加実験

やスペースシャトルでの微小重力実験から明らかになったことは、重力刺激が小さくなるとマトリックス多糖分子の一つであるキシログルカンが低分子化すること、また重力刺激が大きくなると高分子化するということです。このことから、微小重力下ではキシログルカンの代謝に関わるエンド型キシログルカン分解酵素遺伝子の発現が変化している可能性があることが分かりました。

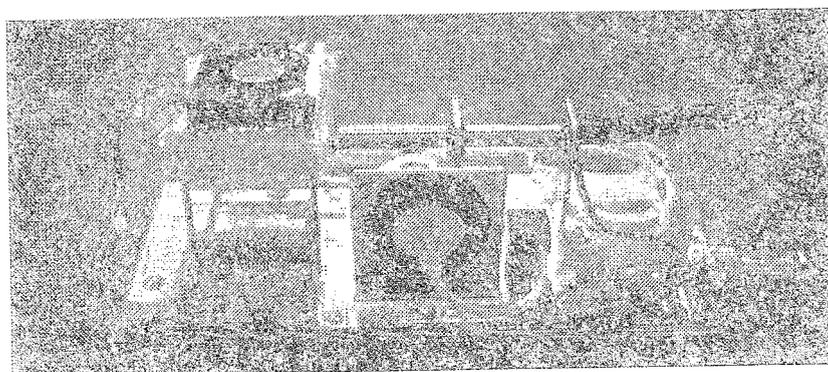
今までの宇宙で得られた実験結果の解析は、地上での対照実験をもとにして行われています。地上と宇宙環境、例えばスペースシャトル内の磁場や放射線が地上とは異なることを考えると、今までの宇宙実験の結果が単に重力の大きさの違いによって生じたのかどうかは厳密には分かりません。

2007年に運用が開始される予定の国際宇宙ステーションに日本は”きぼう”と名付けられた実験モジュール（JEM）を構

築します。筑波の宇宙センターで作られたJEMは、この6月にケネディースペースセンターに運ばれ、現在スペースシャトルでの打ち上げに備えた機能試験が行われています。

JEMには植物の長期栽培を可能にする細胞培養装置が搭載されています。またこの装置には、人工重力発生装置である回転テーブルが設置されており、1gの環境下で植物を育てることが出来ます。キシログルカンの代謝に関与する酵素遺伝子の発現が、重力刺激の影響を受けるかどうかを検証するには、国際宇宙ステーションは理想的な実験環境です。

講演会では、重力植物学に関する話題とともに、昨年8月に完成した総合研究棟で宇宙開発事業団と共同で進めている私たちのプロジェクト「国際宇宙ステーションで植物を育てる」についてもお話ししたいと思います。



JEM植物実験ユニット



← LED (赤青比 3:1)

宇宙開発事業団と共同で開発したJEM植物実験ユニット

照明には、赤と青の発光ダイオード(LED)を使用。植物を育てる容器の大きさは、約5立方センチメートル。シロイヌナズナというアブラナ科の植物はこのような空間でも、葉を展開し、茎を伸ばして播種40日後には花を咲かせ、種子を作ります。

## 総会のご案内

会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本年度同窓会総会並びに講演を下記の通り開催致します。なにとぞ多数のご参加をお待ち致します。

尚、当日は懇親会を予定しております。会場等の準備の都合がありますので、出欠の返事を8月1日までに同窓会事務局までお送り下さるようお願い致します。

日 時：平成15年8月9日（土）午後2時～

場 所：ポルファートとやま

（富山市奥田新町81 電 076-431-1113）富山駅より徒歩5分

講演会：演 題： 国際宇宙ステーションで植物を育てる

講 師： 神 阪 豊 一 郎 教授（富山大学理学部生物学科）

懇親会費：1000円

## 富山大学理学部同窓会員名簿購入案内

本会では3年毎に同窓会員名簿を改訂発行しており、本年度末に新名簿を発行致します。

名簿の購入を希望される方は、お手数ですが申し込みに合わせて、同封の郵便振替用紙にて、代金を送付下さいますようお願い申し上げます。

締め切り日 平成16年1月31日

頒 価 1部 4,000円（送料込み）

郵送予定日 平成16年4月上旬

## 理学部同窓会特別会員の異動

- 転出  
平成15年4月15日 和田 直也 富山大学極東地域研究センターへ
- 転入  
平成15年4月1日 林 直人 合成有機化学
- 採用  
平成15年4月1日 吉原 新 地球圏物理学

# 会報

第 23 号

平成16年6月16日

富山大学理学部同窓会

〒930-8555 富山市五福3190

電話 076-445-6143

## “後輩のために後援会をつくる”



同窓会長 平田卓郎

同窓会員のみなさん、お元気ですか。

日頃から同窓会にご理解とご協力をたまわり深く感謝いたしております。

ご周知のように、本年4月1日から、すべての国立大学は、あらためて国立大学法人として生まれかわっています。

理学部、大学院理工学研究科博士課程前期・後期においても、昨今、多大の研究業績が報告されていますのは喜ばしいかぎりです。

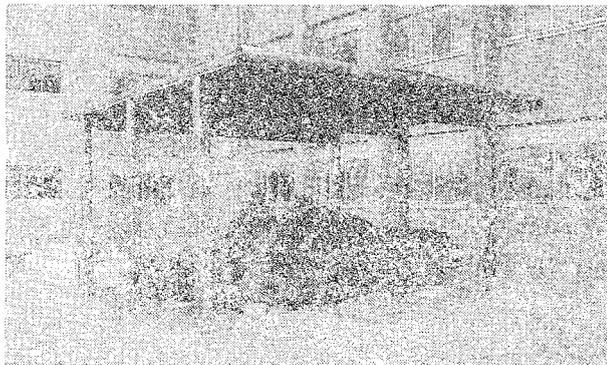
先端の科学技術の振興なくして、我が国の繁栄は考えられません。永く続いている不況からの脱出が切望され、その兆しも見えてきております。

この際、同窓会50周年記念事業の一環として、後輩諸賢のために、母校に理学部後援会を発足させたい。将来に向けて、自然科学・科学技術の研究をさらに充実させ、その発展を期したいと存じます。

この趣旨にご賛同をいただいで、なにとぞ格別のご配意を賜り、醸金にご協力いただきますようお願いいたします。

来る7月31日（土）の私たちの同窓会総会、50周年記念式典・記念講演会、懇親会に同級生を始め先輩・後輩をお誘い合わせの上是非ご出席下さいますよう、皆様方のご参加をお待ち致しております。

同窓会諸賢の今後のますますのご健勝をお祈り申し上げます。



『理学部中庭に設置された巨大埋没林』

# 本との出会い、人との出会いに支えられて

— ヒントは身近な所にもある —

高知大学理学部長 長沼英久



学校の帰りに寄道して書店へ

私が富山大学に入学した昭和35(1960)年は、ちょうどローマオリンピックの年でした。一年半の一般教養課程を終え、理学科で数学を専攻した私が、代数学の

なかでも整数論を研究分野と決めたのは、三年生の終わり頃だったと思います。

四年生になって卒業研究の指導に当たってくれたのは、中村良郎先生でした。

入学当初から私は文理学部の校舎がある蓮町に下宿していましたが、三年生になつてもなく校舎が五福に移転したため、富山港線を使って通学するようになりました。大学からの帰路、総曲輪に立ち寄り、書店で数学関連の書棚を眺めることもしばしばでした。当時は、『代数的整数論』（高木貞治著、岩波書店）や『近代的整数論』（谷山豊・志村五郎共著、共立出版）といった専門書を、ごく普通に買い求めることができた時代でした。この二冊は日本の偉大な先達が書き残した整数論の名著であり、これらの本に出会えたことに心から感謝するとともに、今でも懐かしく思い出します。

四年ごとの不思議な縁に導かれて

東京オリンピックが開催された昭和39年、私は大阪大学大学院修士課程の学生でした。ここで当時助手だった土井公二先生と出会い、富山の卒業研究からの自然な流れとして保形関数論に没頭していったのです。そして二年後、土井先生が京都大学に転出されたのを機に、私も京大の博士課程に編入学しました。

メキシコオリンピックの昭和四三年には、米国のプリンストン大学の高等研究所（IAS）で

土井先生と共にアンドレ・ヴェイユ教授の下で保形型式の研究を続けていました。

今から思えば、そのなかに帰国後の学位論文の出発点となる要素があったのです。さらにモントリオールオリンピックの昭和51年、西ドイツ（当時）のボン大学の教授らと「持ち上げ理論」について議論したのがきっかけで、その後も二度にわたってボンを訪れることになりました。

振り返れば、私の転機はオリンピックと同じく四年ごとに訪れ、その折々に良き指導者に恵まれたのです。

失意からよみがえった逆転の発想

研究内容について少し触れておきましょう。昭和41年の夏、保形型式の持ち上げに関する実験に夢中だった土井先生と私は、あと一つの類数が四であることを突きとめれば実験は成功、というところまで到達しました。ところが、『あること』（フルビッツの類数関係式の一般化と呼ぶべきもの）を思いついたとき、類数は四ではなく、二であることが判明。それは同時に、私たちの仮説がまったくの誤りであることを指摘していました。

この結果は私たちをひどく打ちのめしましたが、私は一方で、「待てよ!」と思ったのです。こんなにも鮮やかに仮説を打ち破った『あること』こそが、強力な道具ではないかと気いたのです。案の状それらの関係式をうまく使うことで正しい状況が設定できて、「持ち上げ理論」の幕開けにつながりました。いずれにせよ、自分たちの夢を打ち砕いたものを使える道具と考えたことが、自慢の種と言えるでしょう。

# 理学部同窓会50周年記念式典・記念講演会等の開催について

日時 平成16年7月31日(土)

13:20~16:30, 17:00~19:00

場所 名鉄トヤマホテル 3F 薫風の間

〒930-0004 富山市桜橋通り2-28

TEL 076-431-2211 (大代表)

## — プログラム —

1 同窓会総会 13:20~14:00

- 1) 2003年度事業報告, 会計決算報告, 監査報告
- 2) 2004年度事業計画, 会計予算案, 会計中間報告
- 3) 後援会の設立, その他

2 50周年記念式典 14:10~14:50

- 1) 同窓会長挨拶
- 2) 祝辞(学長, 学部長)
- 3) 50年を振り返って(スライド)
- 4) 祝電披露
- 5) 物故者への黙祷
- 6) 今後の展望

7) 万歳三唱

3 記念講演会 15:00~16:30

演題 「個人史としての整数論」

講師 高知大学理学部長 長沼英久氏

(第12回卒業生)

現在の所属 高知大学理学部

数理情報科学科 情報科学

4 記念写真撮影 16:45~16:50

5 懇親会 17:00~19:00

ビアガーデン

会費 10,000円(50周年記念CD-ROM付き)

当日受付(3Fホール 12:30~14:00)にて  
お支払い下さい。

申込み・問い合わせ

<http://www3.toyama-u.ac.jp/%7Ealumni4/>

上記ホームページの申込み欄に必要事項を  
記入の上, 送信ボタンを押して下さい。

FAX=076-445-6141, 葉書(50円切手要),

E-mail=alumni4@.sci.toyama-u.ac.jp

## 演題の概要

20世紀後半に飛躍的に進展した整数論および保形関数論について, 所謂, 土井-長沼の定理を軸にして解説します。

A. ヴェイユ, A. セルバーク, 岩澤健吉, 志村五郎, 土井公二, 三宅敏恒, 森重文氏等の数学者との出会いを含めて, 整数論との出会いと, それぞれの日々の研究の展開をお話します。それらは, 様々なゼータ関数の研究であり, またゼータ関数相互の関係の研究であるとも言えます。

高木類体論を先達として, 岩澤理論, 志村理論を世界に送り出した日本の数学, 特に, 整数論周辺の研究は海外でも高い評価を得ています。

講演者が滞在したアメリカのプリンストン高等研究所やドイツのマックス・プランク研究所においてもそうでありましたし, 先に, A. ワイルスによって証明されましたフェルマーの予想においても多くの日本人数学者が活躍しています。このような状況を自分(達)の研究との関連でお伝えしようと思っております。

講師略歴 1941年 新潟県生まれ

1964年 富山大学文理学部理学科(数学専攻)卒業

1966年 大阪大学大学院理学研究科修士課程修了

1967年9月 京都大学大学院理学研究科博士課程中退, 京都大学助手

1970年10月 金沢大学理学部講師

1973年10月 金沢大学理学部助教授

## 同窓会50周年事業への積極的な参加を!!

会員の皆様にはますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本年度同窓会・総会並びに50周年記念事業を前記のとおり開催致しますので、会員の皆様には積極的なご参加をお待ち致します。

尚、当日は懇親会を予定しており、会場等の準備の都合がありますので、出欠の返事を7月21日までに同窓会事務局宛にお送り下さるようお願い致します。

又、住所などの変更がある場合、知人の近況などを併せてお知らせ下さい。

### 申込み・問い合わせ

<http://www3.toyama-u.ac.jp/%7Ealumni4/>

上記ホームページの申込み欄に必要事項を記入の上、送信ボタンを押して下さい。

FAX=076-445-6141, 葉書(50円切手要), E-mail=alumni4@.sci.toyama-u.ac.jp

での申込みもできます。

### 1) 悪質業者にご注意

最近「富山大学同窓名鑑」人事新報社(大阪市都島区)と名した業者から会員各位にハガキが送付されているようですが、この業者は大学および大学同窓会とは何ら関係ありません。これを購入した人の話では内容は僅かばかりの人名簿とでたらめな広告がたくさん掲載されている悪質な名簿でしたので、すぐに返却しましたが、あとから何度も請求がきたようです。

賢明な皆様はすでにおわかりとはおもいますが、以下のことにご注意下さい。

1. 同窓会名簿は、富山大学の同窓会でしか正規のものを発行していませんので、各学部の同窓会事務局から購入して下さい。
2. 名簿作成に当たり業者に委託することはありません。すべての案内は大学内にある同窓会事務局から案内が発信され、返信先も同窓会事務局です。
3. このような業者に個人情報を知らせた後については責任を負いかねます。万一悪質業者から名簿を購入してもすぐに返却して下さい。

### 2) 名簿出版時に

同窓会名簿から住所、電話番号(自宅、勤務先など)の削除を希望される方は、同窓会事務局までお知らせ下さい。

### 理学部同窓会特別会員の異動

#### ○ 転入

平成15年10月1日 久米 篤 生物学科

#### ○ 転出

平成16年3月31日 小田島仁司 明治大学工学部へ

#### ○ 退官

平成15年4月1日 安田 祐介 〒930-0875 富山市寺町けや木台190 (076)433-8068

平成15年4月1日 広岡 公夫 〒584-8540 大阪府富田林市錦織北3丁目11-1  
大谷女子大学文学部文化財学科(0721)24-4719

### 訃報 懐んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成15年9月12日 笠原 一世 助教授(生物圏環境科学科)

平成15年12月8日 川本 恵一 助教授(生物学科)

# 会報

第 24 号

平成17年6月29日

富山大学理学部同窓会

〒930-8555 富山市五福3190

電話 076-445-6143

## “新・富山大学を応援しよう！”



理学部同窓会長 平田 卓郎

同窓会員のみなさんお元気ですか。

本年10月1日から、国立大学法人富山大学TOYAMA Universityは、富山医薬大・高岡短大とともに、三大学が統合して新・富山大学 University of TOYAMAとして発足することとなっていることは、ご周知のとおりであります。同窓生諸賢も、新大学の発足を祝福し、大いに応援してもらいたいものです。

理学部もいよいよ発展するために、昨年12月に設立した「理学部後援会」を充実させる必要に迫られます。幸いにも多数の諸賢の賛同をいただき、後援会費も着々と順調に入金されているようでご同慶のいたりであります。これは、同窓会50周年記念事業の一環として、後輩諸賢のために、後援会が設立されて、将来に向け、自然科学、科学技術の研究を発展させたい主旨からのものであります。

なにとぞ格段のご配慮をたまわり、醸金に今後ともご理解とご協力をお願いいたします。

ここに、さらなる充実をはかることは極めて大切なことであると思っています。

8月7日(日)の私たちの同窓会総会・講演・懇親会には、先輩、同輩、後輩ともどもお誘い合わせのうえ、ぜひご出席のほどをお待ちしています。

同窓会諸賢には今後さらに研鑽を積まれ、ますますのご発展とご健勝を祈ってやみません。



『第4期改修工事始まる』

# 「新・富山大学の誕生」

富山大学理事・副学長 風巻紀彦



同窓生の皆さん、  
お変わりございませんか。ご存知と  
思いますが、富山  
大学は、富山医科  
薬科大学、高岡短  
期大学と10月1日  
に統合します。新

国立大学法人が成立した時点で、旧国立大学法人としての現・富山大学等は、法律上「解散」ということになり、新たに高岡から誕生する「芸術文化学部」に「医学部」と「薬学部」を加えて、新大学は8学部構成となります。ただし、教育学部は、教員養成機能を有する「人間発達科学部」に改組します。また、統合の目玉でもある「医薬理工総合大学院(仮称)」を設置し、医薬理工学部横断的な総合教育を目指すことにしています。このように、規模的には金沢大学に匹敵する大きな大学となります。

新大学の名称は、「富山大学」ですが、英語表記はToyama Universityから「University of Toyama」に変わります。現在、新大学のシンボルマークとなる学章を制定するために、そのデザインを募集中です。公募の期限は7月31日、最優秀作品(1点)に30万円、佳作作品(2点)には5万円の謝礼を予定しています。同窓生の皆さんも、締め切りに間に合うならば、挑戦してみても如何でしょうか。

ところで、富山地区国立3大学の統合は、全国初となるものが3つあります。これまでに、山梨大学と山梨医科大学、福井大学と福井医科大学、香川大学と香川医科大学、高知大学と高知医科大学、九州大学と九州芸術工科大学など20の大学が統合して新たに10大学が誕生していますが、短期大学を含む統合は前例がなく、3大学以上の統合

も初めてのケースです。さらに、法人化後の統合も全国初です。このため、国立大学法人法の改正を要しました。その改正案が4月28日に衆議院、5月18日に参議院を通過し、5月25日に官報に公布されています。これにより、3大学の統合が正式に決定したことになります。平成13年11月以来渦中にあった者の一人として感慨無量なるものがあります。

後日の笑い話になるのかも知れませんが、新大学の名称については、当初医薬大と高短は、富山大学とすることに強い拒絶反応を示しました。医薬大は、世界的化学者・高峰譲吉が高岡市生まれであることから「高峰大学」を主張、高短も「立山大学」や「日本海大学」を提案してきました。結局、富山大学に落ち着くまでに約3年かかりました。新大学の名称を富山大学としない場合、富山大学を名乗る私立大学が出現する可能性があり厄介であるとの文部科学省の内々の意見や過去の統合大学の例を考慮し、「富山大学」とすることで合意が得られたのは、昨年5月27日のことです。医薬大と高短は、大学の名称が変わりますので、変更しなければならぬ事柄が数多くあるようですが、富山大学の場合は、それ程でもないように思います。それでも、大学祭や重複する部活動等をどうするか、という問題は、これから検討しなければなりません。これまでの大学祭は、富山大学の場合は5月末、医薬大の場合は10月末というように異なった時期に実施してきましたが、これらを統一して大学祭とするか又は個別にキャンパス祭として実施するか、まだ結論が出ていません。部活動についても、例えば、各大学のバレーボール部を統一のチームにするのが適当か否か、という問題があります。

なお、附属図書館については、五福が本館、医薬大と高短は分館となりますが、本館を「中央図書館」、医薬大のを「医薬学図書館」、高岡を「芸術文化図書館」と呼ぶことにしています。

最後に、生協と協力して設置する「富山大学出版会」について宣伝させて下さい。最近の出版業界は、利益確保を最優先としており、娯楽性の高い出版物を発行する傾向が強いため、学術研究書を出版するのは容易ではありません。本学の研究成果や教育成果を富山大学出版会から刊行することにより、商業主義とは一線を画した文化的水準の高い知的情報を地域社会に向けて積極的に発信でき、魅力ある大学を創る上で

大きな効果があると考えまして、中間法人・富山大学出版会の設置を決断した次第です。因みに、大学出版会を持つ国立大学は、北信越では初めてのケースです。

法人化により、国立大学の研究費が激減し、基礎研究崩壊の可能性を含む極めて深刻な事態に直面していますが、新大学創設による大学の基盤強化は、大きな意味を持つと思われます。統合後は、人文社会系、自然系、医療系、芸術系とバランスのとれた学部構成となります。個性の異なる3つ大学が一つになり、新たなエネルギーが生まれるものと確信しています。同窓生の皆さん、新生・富山大学が、魅力的な大学として大きく発展することを期待してして下さい。

## 理学部同窓会 講演会

演題：「富山湾を研究のフィールドとして」  
講師：生物圏環境科学科教授 中村省吾



### 講演の概要：

最近、講演や研究紹介で、「日本海は大きな池である」と、切り出すことにしています。実際、平均水深が1,300m以上あるにもかかわらず、

出入り口となる各海峡の水深が、4～100mほどしかないからです。そのため、この日本海で一旦汚染が始まるとその修復は困難となり、環日本海諸国は大きな損失を蒙ることになると推察されています。

一方、われわれ人類が、日常的に合成・使用している化学物質は約6万種と言われ

ております。そして、その合成や使用過程での漏出、環境中での化学反応、生物による分解や合成で、無数の化学種に変化することが推定されています。さらに、これら様々な化学物質の最終的な集積場所は、主に海洋になると考えられているのです。

そこで、われわれは、環日本海の海水汚染を検出するために、生物学的な指標を用いた方法であるバイオアッセイやバイオモニターについて研究を始めています。今回は、この研究を中心に、われわれが富山湾をフィールドとして行っています研究の紹介をさせて頂きたいと思えます。

### ● 講師略歴 ●

1951年	兵庫県生まれ	1980年	名古屋大学大学院理学研究科 博士課程単位取得退学
1975年	岡山大学理学部卒業	1980年	富山大学理学部助手
1977年	岡山大学大学院理学研究科 修士課程修了	1993年	富山大学理学部助教授
		2002年	富山大学理学部教授



## 理学部の近況

理学部長 平井美朗

理学部同窓会の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。また、皆様の日頃からの理学部へのご支援に対し、感謝申し上げます。

昨年、理学部同窓会50周年が盛大に開催され、興味深く拝聴した長沼先生(当時、高知大理学部長)の特別講演も記憶に新しいところですが、ここ数年間はこれまでにないスピードで大学を取り巻く状況が変化しております。そこで、この1年間の理学部の状況につきまして紙面をお借りし、簡単にご報告致します。

4年前から始まった(岡部前理学部長の時)理学部校舎の改修工事が、一時中断したものの、今年度の概算で残りの第4期改修と大講義室の増築が認められ、今秋には完成する運びとなりました。これで、他大学に負けない立派な施設と設備を有する学部となります。同窓生の方々も是非一度、新しくなった母校(理学部)をお訪ねください。

県内の国立大学法人3大学が今年の10月に統合いたします。これで8学部を擁する名実ともに本格的な総合大学となりますが、今後スケールメリットを活かした教育、研究、地域貢献の充実が図られるものと思えます。また、統合を機に富山医薬大の医学部と薬学部、富山大学の理学部と工学部が協力して、医薬理工総合大学院の設置計画が進められており、平成18年4月に発足の予定です。新しい大学院では、教員は全員博士後期課程の研究部に所属することになりますが、このことによって時代の要請に応えられる学際的なプロジェクト研究がやり易くなります。一方、学部や大学院教育については、これまでと同様の責任ある教育が実施できる教育システムが考案されています。

法人化につきましては、すでに1年少々過ぎましたが、いずれの大学も、手探りの状態で大学運営を行っている状況です。ただ、効率化係数による運営交付金(国からの予算)の恒常的な削減が、運営を大変厳しくしております。今後、厳しい財政状況のなかで如何に教育、研究、地域貢献の充実を図っていくか、新大学の執行部の手腕が問われるところです。

理学部では、この度、学生の教育、就職等の支援を目的として、同窓会の有志の方々の協力を得て、理学部後援会を立ち上げました。これから様々な事業に取り組んでいきます。同窓生の方々には発起人になっていただく等、大変お世話になりました。

最後となりましたが、理学部同窓会の益々の発展を祈念するとともに、今後とも同窓会の皆さんの絶大なご支援をお願い致します。

## 富山大学理学部同窓会総会

会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、本年度同窓会総会を下記のとおり開催致しますので、会員の皆様には積極的なご参加をお待ち致します。

尚、当日は懇親会を予定しており、会場等の準備の都合がありますので、出欠の返事を7月25日までに同窓会事務局宛てお送り下さるようお願い致します。

又、住所などの変更がある場合もお知らせ下さい。

記

日時 平成17年8月7日(日) 14時00分～ 講演会 演題「富山湾を研究のフィールドとして」  
場所 ボルファートとやま4F翡翠の間 講師 生物圏環境科学科教授 中村 省吾

申し込み・お問い合わせ

**富山大学理学部同窓会** 〒930-8555 富山市五福3190 富山大学理学部内  
電話 076-445-6143 振替 00700-0-16829

<http://www3.toyama-u.ac.jp/%7Ealumni4/> FAX=076-445-6142

E-mail=alumni4@sci.toyama-u.ac.jpでの申込みもできます。

特別会員の異動  
理学部同窓会

### ○ 新任

(H16.10.1) 小林かおり 物理学科助手  
(H17.1.1) 池田 真行 生物学科助教授  
(H17.4.1) 島田 互 地球科学科助教授  
(H16.10.1) 倉光 英樹 生物圏環境科学科講師

### ○ 退官

(H17.3.31) 小林 武彦 地球科学科  
(H17.3.31) 黒田 英世 生物圏環境科学科

### ○ 辞職

(H17.3.31) 黒田 律 生物圏環境科学科

# 理学部同窓会事務局便り No.0601

平成18(2006)年7月3日  
富山大学理学部同窓会事務局  
〒930-8555富山市五福3190  
富山大学理学部同窓会室B104  
TEL: 076-445-6143  
現在の同窓生数: 6,765人

## 目次

1. なんと20人の参加者を得た平成18年第1回同窓会理事会(5.15) .....	1
2. 盛大に開催された理学部新校舎竣工記念式典・記念祝賀会(5.31) .....	2
3. 5年毎の同級会を兼ねた同窓会総会・記念講演会(8.12)の開催 .....	3
4. 必要不可欠な同窓会名簿発行(H19.6)方法の変更と協力をお願い .....	4
5. 事務局通信 .....	4

## 1. なんと20人の参加者を得た平成18年第1回同窓会理事会(5.15)

本学の外部評議員で同窓会理事のYKK副会長の北野芳則様(化8)の参加など、なんと20人以上の理事が大集合した理事会が、去る5月15日(月)の17時30分から、本学の軽食喫茶AZAMIにて開催され、今後の同窓会活動の活性化について、徹底した討論が行われ、新しい企画のいくつかが了承されました。主なものを以下に挙げます。

### (1) 同窓会会報について

- ・年1回の発行とし、会報編集委員会を作り、もっと充実した内容とする。
- ・理学部の活動をPRする。表彰した学生の論文を載せる。

### [企画案]

- ・活躍する同窓生を取材し、紹介(例: 起業家, 教員, 研究者, ...)
- ・同窓生の現況, 活躍, 思い出などを掲載
- ・大学の研究室の変遷, 思い出(同窓生から)
- ・学生気質の変遷, 思い出
- ・退官された先生方の近況報告, 写真, 先生からの言葉
- ・各学年/各学科/各研究室の同窓会, 会合などの開催状況, 写真, 報告, 思い出
- ・後輩への提言
- ・同窓会主催の講演会要旨, 写真, 講演者紹介. 同窓会主催事業報告, 写真
- ・全学同窓会協議会(仮称)からの情報

### (2) 同窓会ホームページ

- 1) 新規作成 外注, BLOG化し, 同窓生からの書き込み促す
- 2) 更新回数 現行年1回~2回を今後は月1回以上, 随時
- 3) 内 容 現行URL=<http://www3.u-toyama.ac.jp/alumni4/>

### [今後の方針]

1. 新着情報(会員の活躍, 表彰など)
2. 行事案内(同窓会主催の行事の他, 理学部, 大学の行事案内も掲載), 報告
3. 各支部, 各学年/各学科/各研究室/同窓会有志などの同窓会会合の案内/報告
4. 同窓生の活躍, 表彰などの詳細報告, アーカイブの掲載
5. 同窓生からの提供情報, 話題, 自慢, 近況などの掲載(Blogの活用)
6. 教員, 旧教員からの提供情報, 話題, 自慢, 近況などの掲載(Blogの活用)
7. 会誌, 記念誌のPDFの掲載, アーカイブの掲載
8. 訪問者リスト(Blogの活用)
9. 同窓会組織(役員, 統計, 会則, 等)の公開
10. 連絡先
11. 個人情報の変更の通知の仕組み 等々

## 2. 盛大に開催された理学部新校舎竣工記念式典・記念祝賀会 (5.31)

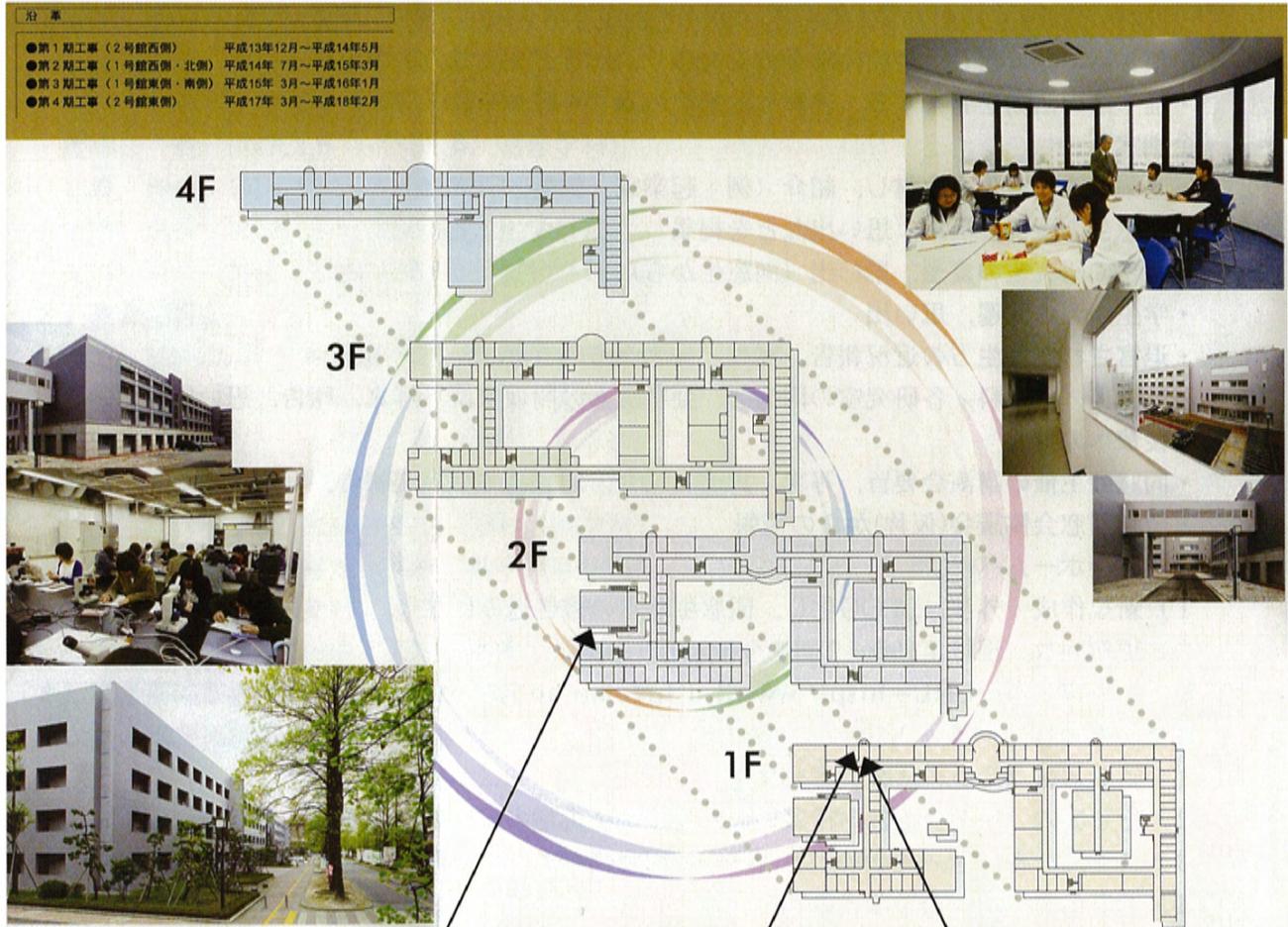
平成18年5月31日（水）の午後、理学部新校舎の竣工記念式典が正面玄関と2F多目的ホールで開催されました。



竣工式テープカットにのぞむ、左から岡部前理学部長、西頭学長、中嶋文科省文教施設企画部長代理参事官補佐、北野経営協議会委員、平井学部長、大学院生の安藤さん



記念式典で式辞を述べる平井学部長、前列左から北野芳則富山大学経営協議会外部委員、中嶋文科省参事官補佐、一人おいて西頭徳三学長



改築された校舎：写真左上から1号館南側、左中は生物学実験室、左下は1号館経済学部側から見た校舎全景、写真右上はエンタランス2Fのリフレッシュ・ルーム、右下は渡廊下から見た右中のエンタランスと2号館西側

理学部多目的ホール

理学部同窓会室  
(2号館, 部屋番号B104)

図書館側通用口

### 3. ホーム・カミング・デーと5年毎の同級会を兼ねた同窓会総会・記念講演会（8.12）の開催

今年度はHome Coming Dayと5年毎の同級会を兼ねた理学部同窓会・記念講演会を下記のとおり開催します。なお、講演終了後に懇親会を予定しております。同級会開催予定の方は2次会をお持ち下さい。大学からは多数の教員、旧教員の方にもご参加をお願いする予定です。

同窓会会員各位には、この機会に母校を見学し、旧交を温め合うことをお勧めします。

#### [ホーム・カミング・デー（母校訪問日）の開催]

1. 日 時 平成18年8月12日(土) 10時から12時まで
2. 場 所 富山大学2号館2階「多目的ホール」  
施設見学ツアー

#### [同窓会総会・記念講演会・懇親会の開催]

1. 日 時 平成18年8月12日(土) 14時から18時まで
2. 場 所 ボルファートとやま
3. 総 会 14:00～14:30
  - (1) 平成17年度の活動報告, 決算報告, 会計監査報告
  - (2) 平成18年度の事業計画(案), 予算(案)
  - (3) 同窓会会則の改定(案)
  - (4) その他
4. 講演会 14:45～16:15  
演題「私の構造化学と振動分光学」  
講師 理学部化学科教授 金坂 績 先生（第12回化学卒）
5. 懇親会 16:30～18:00（最終18:30）
6. 参加呼びかけ同級会
  - 第 2回（昭和29年）卒業生,
  - 第 7回（昭和34年）卒業生, 世話人：吉川 和男（物理学）
  - 第12回（昭和39年）卒業生, 世話人：畠山 豊正（物理学）
  - 第17回（昭和44年）卒業生, 世話人：水野 透（数学）
  - 第22回（昭和49年）卒業生, 世話人：水島 俊雄（物理学）
  - 第27回（昭和54年）卒業生, 世話人：二宮 努（数学）
  - 第32回（昭和59年）卒業生,
  - 第37回（平成 元年）卒業生,
  - 第42回（平成 6年）卒業生,
  - 第47回（平成11年）卒業生
7. その他の方の2次会  
駅北の「ごんべい舎（オーバード・ホール地下）」会費¥5,000を予定しております。

#### [要出欠通知]

どちらも出欠の通知が必要です。同封の葉書にて、お申し込み下さい。

また、同級会につきましては表記理事が世話人をお引き受けする予定です（未定）が、詳しくはホームページをご覧のうえ、下記のように出欠通知票にてご連絡下さい。

・ {第 回（ 年卒業）の同級会・その他の2次会 } に { 出席・欠席 } します。

※同級会またはその他の2次会のどちらかを選択のうえ、お申し込み願います。

#### 4. 必要不可欠な同窓会名簿発行(H19.6)方法の変更と協力をお願い

同窓会名簿は、同窓会活動のベースになる情報ですので、名簿記載の有無に関わらず、必ず近況を同窓会宛にお知らせ願います。

今後、同窓会報も充実した内容になり、必ず欲しくなるような母校と同窓生の近況や活躍が記載されますので、発送を確実にするためにも、また、同級会を開催したくなったときも、名簿が必要不可欠となります。絶対悪用はさせません。しません。という同窓生一同の堅牢な姿勢をもって、名簿の悪用を防ぐとともに、大いに活用しましょう。

本会ではナンバリングにて配布を管理し、情報の漏洩を防ぎたいと考えています。

なお、今年度の名簿作成に当たっては、以下の通りご協力をお願いします。

- (1) 名簿の作成、発行は株式会社サラトをお願いすることにしましたので、後日「株式会社サラト」から会員情報の問い合わせが来た場合は、速やかに返事を富山大学理学部同窓会宛に出すよう、ご協力をお願いします。
- (2) 名簿の発行は平成19年6月頃となります。卒業生および同窓生への発送は「株式会社サラト」が代行して行います。

#### 5. 事務局通信

##### [1] 物故者

平成15年から17年にかけて、以下の方々をご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

宮野 芳雄 H17.11.4 (S36卒, 物理学科)  
堀江 良郁 H17.1.8 (S29卒, 物理学科)  
廣川 浩 H17.2.6 (S35卒, 物理学科)  
北濃 義弘 H16.11 (S42卒, 化学科)  
室澤 信子 H17 (S44卒, 化学科)  
中山 明子 H15.12.19 (S52卒, 生物学科)

##### [2] 教員の異動

退職 H18.3.31 神阪盛一郎 (教授, 生物学科)  
" H18.3.31 高安 紀 (教授, 化学科)  
辞職 H18.3.31 水野 透 (講師, 数学科)  
新任 H17.9.1 柏木 健司 (助教授, 地球科学科)  
" H18.4.1 出口 英生 (講師, 数学科)  
" H18.4.1 村川 秀樹 (助手, 数学科)  
" H18.4.1 兼村 晋哉 (助手, 物理学科)  
" H18.4.1 田中 大祐 (助手, 生物圏環境科学科)

##### [3] 理学部同窓会室の新設

念願の理学部同窓会室が2号館1階B104(図書館側の通用口から入ったすぐ右側)に新設されました。

これに伴い、ホーム・カミング・デーには解放しますので、ご利用下さい。

##### [4] 理学部同窓会Blogサイト(構築予定)のアクセス用ユーザIDとパスワード

理学部同窓会活動を活性化するためBlog(ブログ)を起ち上げる予定です。Blogサイトにアクセスされる際は次のユーザIDとパスワードを使って頂く予定です。ご了承下さい。

なお、コメントなどの書き込みはハンドル名(Handle Name)でも結構ですが、卒業年と卒業学科を必ずお書き下さい。卒業年と卒業学科のない書き込みは消去します。悪しからず。

理学部同窓会Blogアクセス用ユーザID=rigaku06 パスワード=science6

同窓生各位には、この同窓会Blogを利用して、大いにコミュニケーションをお取り下さい。